

管理者マニュアル

目次

1	Admintoolのインストール	1
1-1	ダウンロード	1
1-2	インストール手順	2
	■ Admintoolのインストールの前提条件	2
	■ インストール	3
1-3	プロフィールの設定	8
	■ admintoolの起動	8
	■ 初回起動時について	9
2	ユーザー管理	1 3
2-1	ユーザー管理画面について	1 3
2-2	ユーザー登録	1 6
2-3	ユーザー情報の変更	1 8
2-4	パスワードの再発行	2 1
2-5	利用停止および利用停止の解除	2 3
2-6	ユーザの削除	2 5
2-7	複数のプロジェクトへのユーザーの一括アサイン	2 6
	■ プロジェクトに直接所属させる方法	2 6
	■ グローバル・ワークグループを使ってプロジェクトに所属させる方法	2 7
2-8	ユーザー登録時のメール文言の修正	2 8
2-9	一覧の出力およびユーザの一括登録	3 0
2-10	セキュリティトークン（ハードウェアトークン）	3 1
3	プロジェクト管理	3 2
3-1	プロジェクト管理画面について	3 2
3-2	ポートフォリオの登録	3 4
3-3	プロジェクトの登録	3 7
3-4	プロジェクトへのユーザーのアサイン	4 1
	■ プロジェクト管理者（プロジェクトアドミニストレータ）	4 2
	■ デフォルト・ワークグループにおける役割	4 4
3-5	既存プロジェクトをテンプレートとしてプロジェクトをコピー作成する	4 5
3-6	キーワード設定	4 8

目次

3-7 プロジェクトの公開設定について	5	4
3-8 ポートフォリオ・プロジェクトの並べ替え	5	5
4 ライセンス管理	5	6
4-1 crossnoteにおけるライセンス管理の仕組み	5	6
4-2 ライセンス管理画面について	5	7
4-3 ライセンス更新について	5	9
4-4 追加機能ライセンスについて	6	0
4-5 サイトライセンスについて	6	2
5 環境設定	6	3
5-1 環境設定で出来ること	6	3
5-2 ユーザ設定	6	5
5-3 グローバル・ワークグループ	6	6
■ グローバル・ワークグループの追加／設定確認・変更	6	6
■ グローバル・ワークグループの削除	6	8
5-4 役割・権限	6	9
■ 役割の追加・変更	6	9
■ 役割の並び替え	7	0
■ 権限の変更	7	1
5-5 ドキュメント・ステータス	7	3
■ ドキュメント・ステータスの追加・変更	7	3
■ 並び替え	7	5
5-6 タグ	7	6
■ タグの追加・変更	7	6
■ 並び替え	7	7
5-7 言語	7	8
5-8 セキュリティ設定	8	0
5-9 URLリンク	8	2
■ リンクの追加・変更	8	3
5-10 メニュー設定	8	5
■ メニュー設定の追加・変更・削除	8	5

目次

5-11	クライアントアプリケーション設定	8 7
5-12	ソフトウェアのアップデート	9 2
5-13	crossnote Shareのセキュリティポリシー	9 4
6	タスク設定	9 6
6-1	対応するドキュメント・ステータス	9 6
6-2	このステータスに変更するのに必要な役割	9 8
6-3	リリース管理機能	9 9
6-4	AIサポート機能の設定	10 0
6-5	機械翻訳の設定	10 4
6-6	リマインドメール	10 5
6-7	Webhookの設定	10 6
	■ Webhookの追加・更新	10 6
7	リソース管理	11 3
8	履歴	11 5
8-1	ログイン履歴画面について	11 5
8-2	ログイン数推移	11 7
8-3	Admin操作履歴について	11 8
8-4	ユーザー参照履歴について	11 9
8-5	メール送信履歴について	12 1
8-6	AI稼働ログ	12 3
8-7	Webhook送信履歴	12 6
9	Active Directoryとの連携	12 8
9-1	crossnoteにおけるActive Directoryとの連携機能の仕組みについて	12 8
9-2	Active Directory画面について	13 0
9-3	ActiveDirectory サーバーを設定する	13 2
9-4	Active Directoryのユーザーをcrossnoteへ取り込む	13 4
9-5	Active Directory側の変更を取り込む	13 6
9-6	Active Directory側で削除されたユーザーを削除する	13 7
10	設定状況	13 8
10-1	Pluginのバージョン	13 8

目次

10-2 IPアドレス制限	1 3 9
11 お知らせ	1 4 1
12 用語集	1 4 3

1 Admintoolのインストール

Admintoolは管理業務を行うためのクライアント・アプリケーションです。通常は管理者用ユーザーIDでのみログインでき、crossnoteの一般ユーザーでは利用できません^{注1}。

1-1 ダウンロード

以下のページからインストーラをダウンロードしてください。

「管理者用admintoolインストーラ」のリンクを参照してください。

<http://www.updateit.co.jp/support/>

ファイル名は、**admin_setup.exe (64bit版)**です。

(**ver 2.0以降**、32bit版の提供は終了いたしました)

注1 環境設定のユーザ設定「一般ユーザがシステム管理者を兼ねることができる」が**ON**の場合には、一般ユーザでも**admintool**にログインできるように設定することが可能です。

1-2 インストール手順

■ Admintoolのインストールの前提条件

- (1) 対象OSはWindows 10, 11 / macOS / Linux です。なおここではWindows環境でのインストールのみについて説明します。
- (2) インストールには管理者権限が必要です。
- (3) crossnoteのサーバーとの間に社内のProxyが設定されている場合には、設定を予め控えておいてください。プロフィール設定時に必要になります。
- (4) 既に古いadmintoolがインストールされている場合、アンインストールしてください。

アンインストールはコントロールパネルから行います。

■ インストール

(1) admin_setup.exeを実行します。

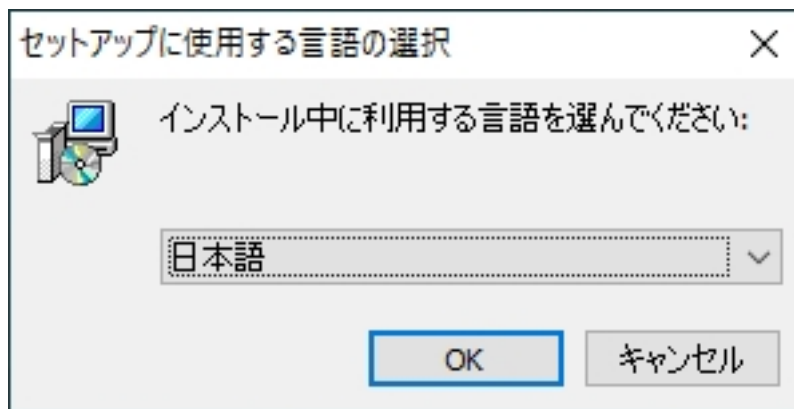
実行の直後、お使いのセキュリティ・ソフトによる警告がでる場合があります。内容を確認の上で実行してください。

(2) Windowsによる警告画面が表示されます。

UPDATE IT, INC.の証明書を確認の上で実行してください。

(3) セットアップに使用する言語の選択

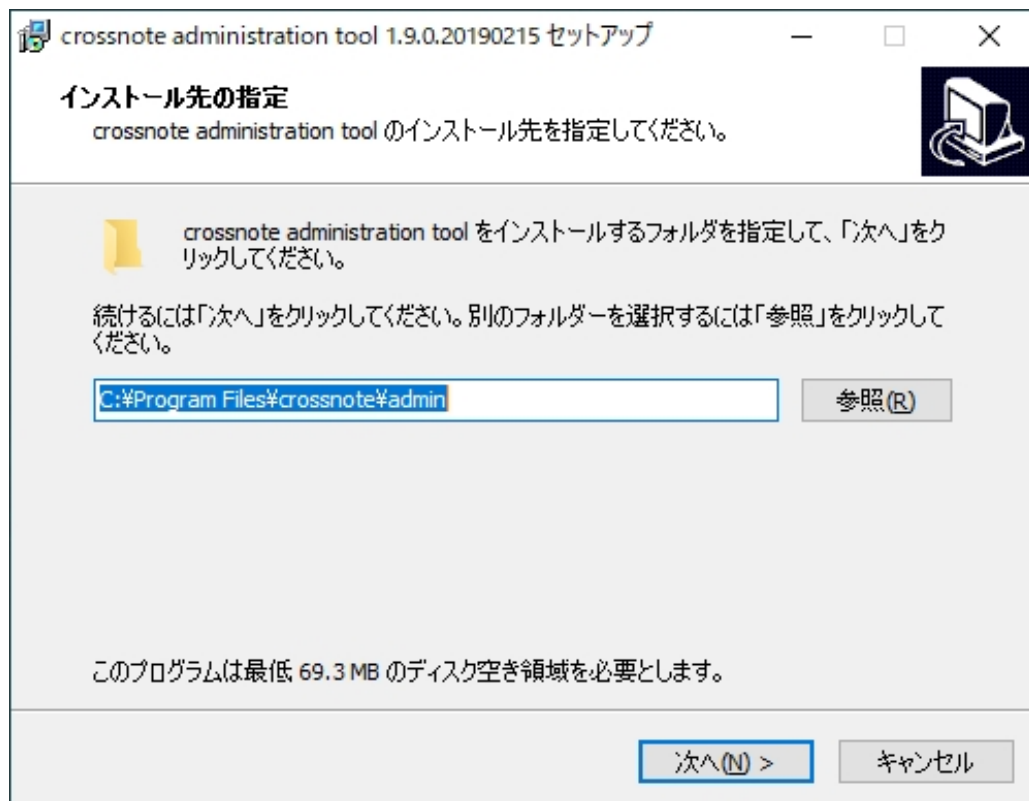
インストール中に使用する言語を選択してください。この選択とアプリケーションの表示上の言語設定とは関係ありません。



OKを押して先に進めます。

(4) インストール先の指定

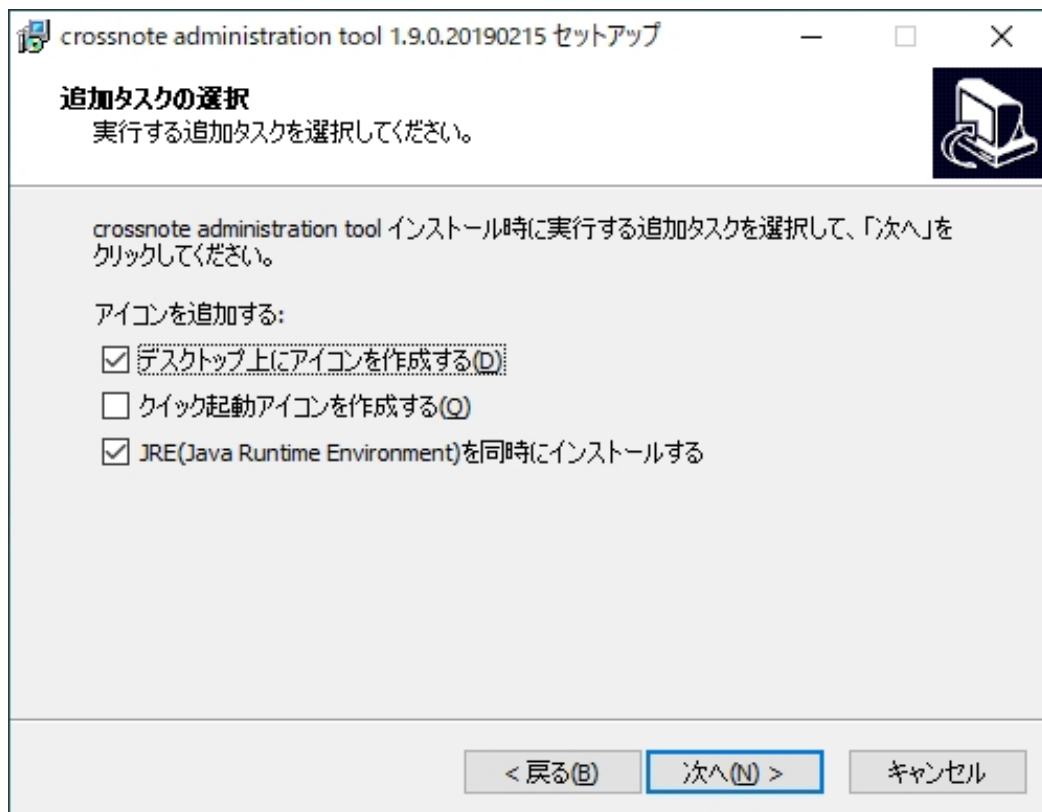
インストール先の指定です。通常は変更する必要はありません。



「次へ」を押します。

(5) 追加タスクの選択

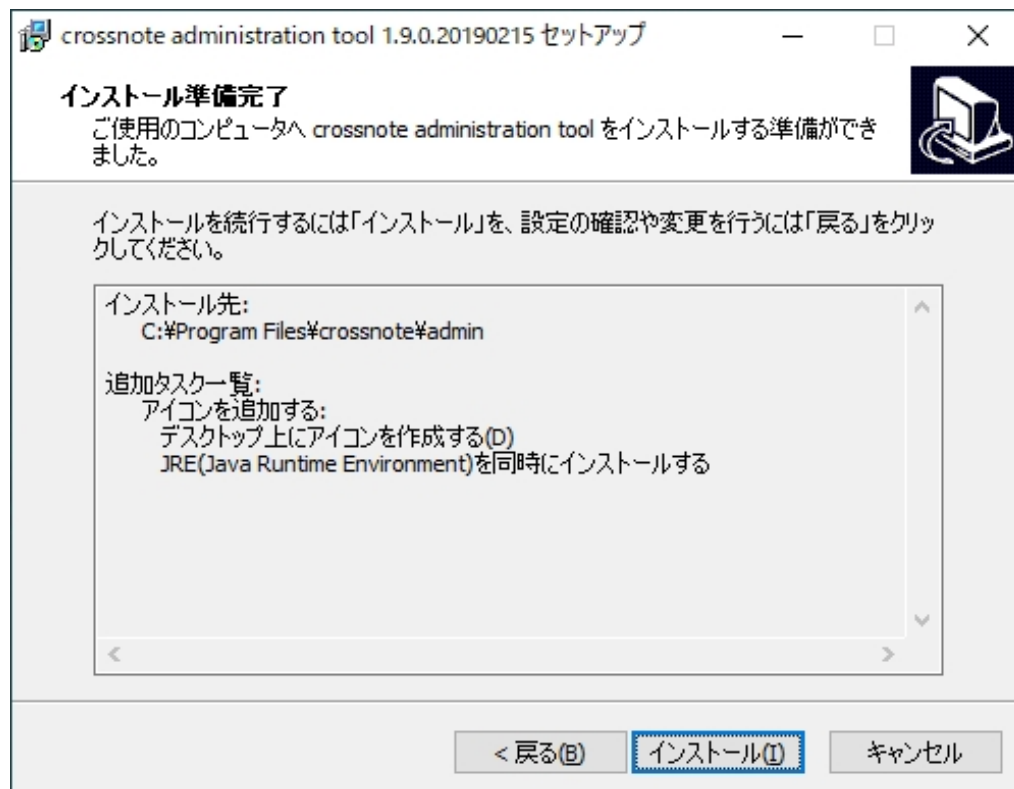
デスクトップにadmintool起動用のアイコンを作成するかどうか、同時にJREをインストールするかどうかの指定です。通常は変更する必要はありません。



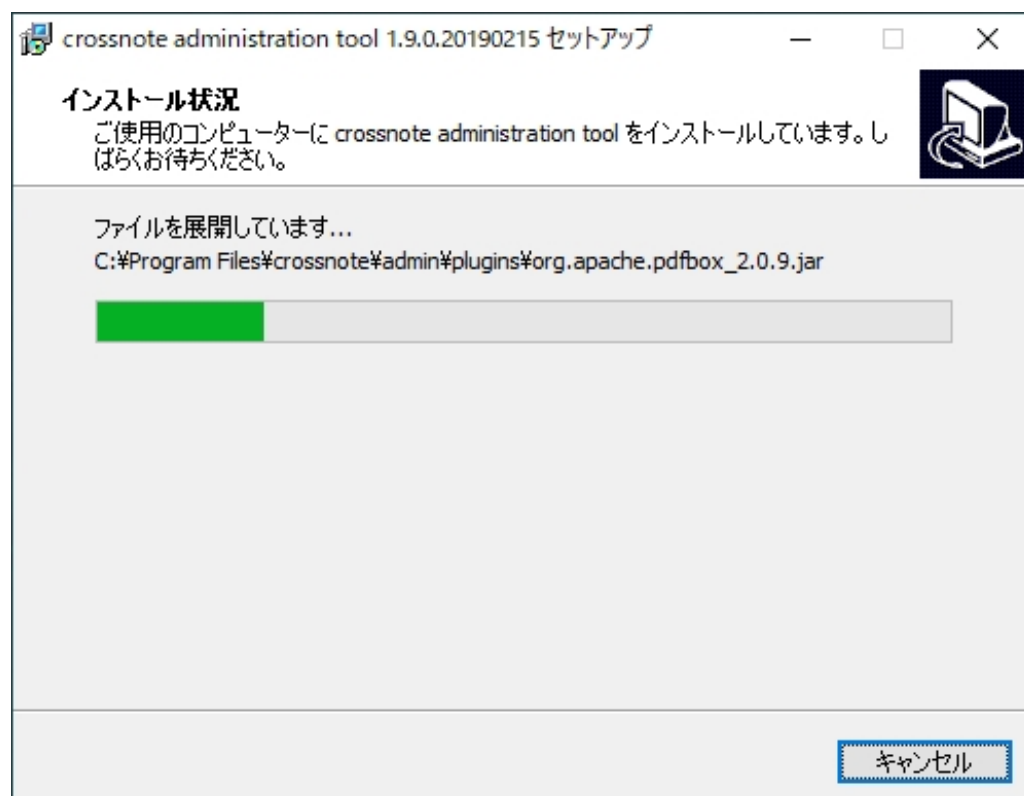
「次へ」を押します。

(6) インストール準備完了

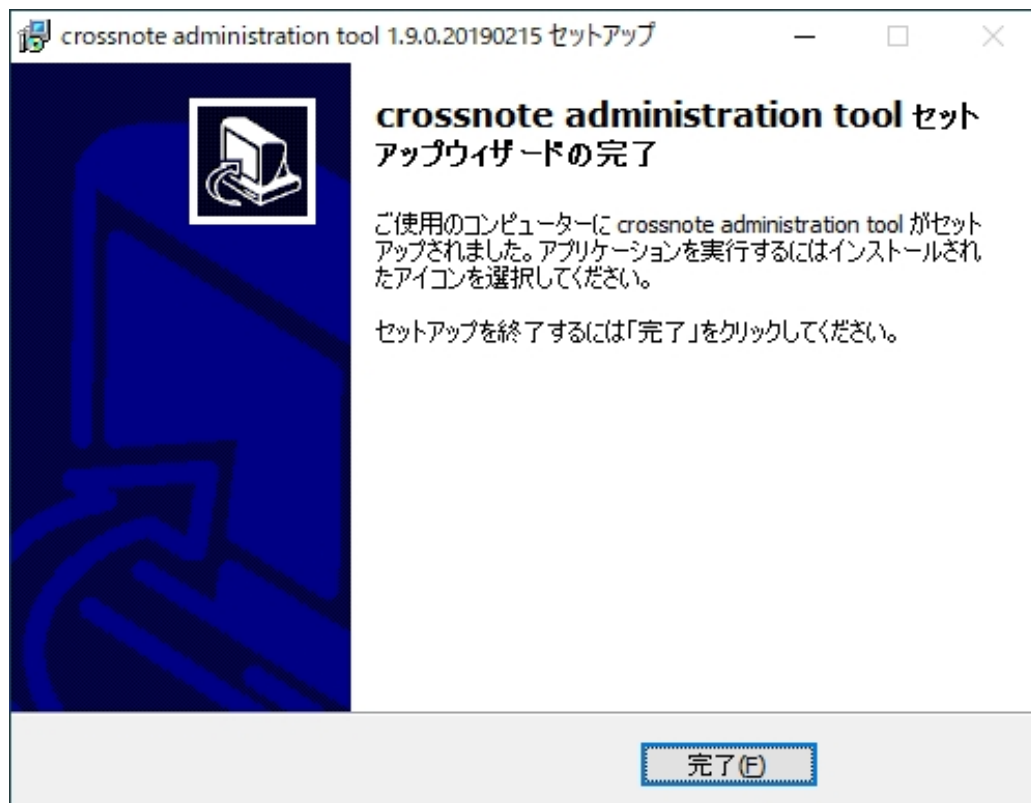
設定を確認して、「インストール」ボタンを押してください。



しばらくインストールが行われます。（通常、数十秒程度です）



完了すると、以下の画面が表示されますので、「完了」ボタンを押して終了します。



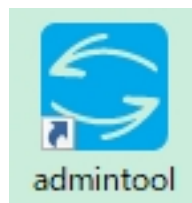
1-3 プロフィールの設定

ログイン時の手間を減らすため、最初にプロフィールとしてユーザーIDと接続先のサーバーのURLなどを設定し、それに名前（プロフィール名）を付けて保存しておきます。一度プロフィールを設定してしまえば、それ以降はパスワードの入力だけでログインできるようになります。

■ admintoolの起動

admintoolはデスクトップ上では以下のようなアイコンで表示されます。

admintoolのアイコン



ダブルクリックしてadmintoolを起動してください。

■ 初回起動時について

(1) crossnoteエンドユーザー利用規約への同意

crossnoteエンドユーザー利用規約が表示されますので、内容を読み、一番したまでスクロールして「同意する」を選択してください。

crossnoteエンドユーザー利用規約

以下の利用規約をよく読んで、同意する/同意しないを選択してください。
一番下までスクロールすると同意ボタンが押せるようになります。

crossnoteユーザ利用規約

crossnoteの利用に関する契約条件は、アップデイトット株式会社とユーザの所属組織との間で結ばれている、crossnote使用許諾契約書にて決められています。本利用規約ではcrossnoteを利用するにあたって、ユーザの方への注意事項について、crossnote使用許諾契約書を基にして説明しています。ユーザがcrossnoteを利用するためには、ここに記載されている事項を遵守していただくことが条件になります。もし遵守することに同意いただけない場合には、crossnoteを利用することはできません。本利用規約で説明しているのは、元となるcrossnote使用許諾契約書において、ユーザに直接関連する部分のみになります。主体の契約にかかる部分、及びここに説明されていない事項についてはcrossnote使用許諾契約書を参照してください。以下の説明では、契約の主体を「ユーザの所属組織」と呼んでいます。これは通常、ユーザの所属する会社などを指しますが、場合によっては契約の主体がユーザの所属する会社ではなく、ユーザがcrossnoteを利用しているプロジェクトを行っている会社の場合があります。その場合には「ユーザの所属組織」としている部分を、その旨読み替えてください。なお以下の利用規約では、crossnoteのソフトウェアについては「本ソフトウェア」、crossnoteの提供するサービスについては「本サービス」と呼びます。

第1条（使用許諾等）

1. アップデイトット株式会社はcrossnote使用許諾契約書記載の条件に従い、ユーザの所属組織のcrossnoteのシステム管理者の方から使用を許諾されたユーザの方へ、非独占的、再許諾不可能かつ譲渡不可能なライセンスを許諾します。
2. ユーザは契約条件を超えて本ソフトウェアを利用することはできません。

第2条（ライセンスに関する制限）

1. アップデイトット株式会社の書面による明示的な事前の許可がある場合を除き、ユーザは以下のことを行うことはできません。
 - a. この契約書で許諾されていない方法で本ソフトウェアを使用すること

同意する(A) 同意しない(D)

(2) プロフィールの設定

最初の起動時には以下のようなプロフィール設定画面が表示されます。

プロフィール名は複数のcrossnoteサーバーを管理する場合にログイン先を切り替えるために使用するものです。管理用ユーザーIDなどを入力しておくといいでしょう。

さらにお渡ししてある URL および管理用ユーザーIDを設定してください。

また社内にcrossnoteサーバーを立てて利用する場合にサーバー証明書が自社で発行したもの（正規の認証局から取得したものではないケース）を利用する場合には、「SSL証明書のエラーを無視する」にチェックしてください。

プロフィール

システム管理者から指定されたプロフィール情報を設定してください。

必須項目

URL:

https://your-url/

ID:

your-admin-id@your-company.com

プロフィール名:

your-admin-id@your-company.com

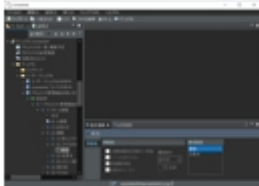
テーマ



☒ Windows



☐ 明るい



☐ 暗い



☐ クラシック

詳細 (プロキシ設定など)

ログ表示

設定

キャンセル

外部接続にProxyを用いている環境から接続する場合にはProxyの設定が必要です。

Proxyの設定については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

▼ 詳細 (プロキシ設定など)

ネットワーク設定

☐ SSL証明書のエラーを無視する

Proxy設定

☐ Proxyがユーザー認証を必要とする

ProxyのユーザーID:

Proxyのパスワード:

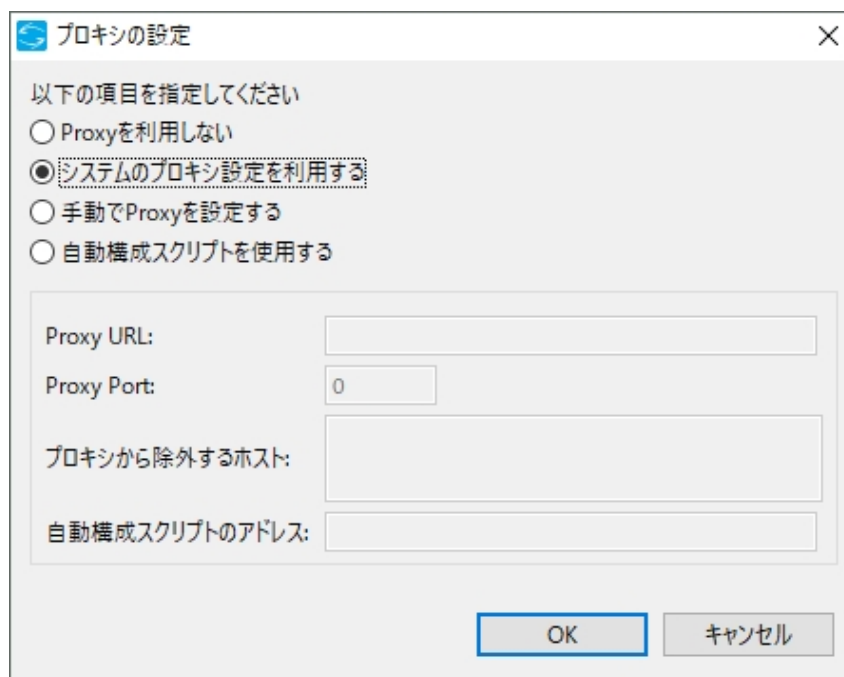
データの保存先

デフォルトの場所

ログ表示

設定

キャンセル



(3) 初回のログイン

プロフィールの設定を行うとログイン画面が表示されます。ここにお渡ししてある 管理用ユーザーの初期パスワードを入力するとログインできるのですが、OKを押す前に初期パスワードを変更しましょう。

まずパスワードを入力してから「パスワード変更」ボタンを押してください。



管理用ユーザーID、サーバーのURL、初期パスワードの3つの設定が正しければ、以下のようなパスワード変更画面が表示されます。もし表示されない場合には正しくログインできていないので、プロフィールの設定および初期パスワードに間違いがないか確認してください。



The screenshot shows a dialog box titled '管理画面へのログイン' (Login to Management Screen) with a close button (X) in the top right corner. The main heading is 'パスワード変更' (Change Password), followed by the instruction '新しいパスワードを入力してください。' (Please enter a new password.). To the right is the 'crossnote' logo. Below the instruction, there are two input fields: the first is labeled '新しいパスワード' (New Password) and the second is labeled '確認の為、再度入力してください' (Please re-enter for confirmation). Below these fields is a 'パスワードの強度:' (Password Strength) indicator, which is a horizontal bar with a red segment on the left and a grey segment on the right. At the bottom left, it says 'Ver. 1.9.0'. At the bottom right, there are two buttons: 'パスワード変更' (Change Password) and 'キャンセル' (Cancel).

新しいパスワードを入力し、「パスワード変更」を押して初回のログインを完了します。

2 ユーザー管理

注意) Active Directory連携を使う場合は、[Active Directoryとの連携](#)を参照してください。

2-1 ユーザー管理画面について

管理業務で最初にやるべきことはユーザーの追加です。admintoolを起動すると、最初のユーザー管理画面が開きます。なおActive Directoryでユーザ管理を行う場合には[Active Directoryとの連携](#)を使ってユーザ登録を行います。

ユーザー管理画面は以下のような画面になります。

The screenshot shows the CROSSNOTE user management interface. Annotations include:

- ユーザー管理画面が選択されています**: Points to the 'ユーザー管理' tab in the top navigation bar.
- ユーザーの新規追加、コピー、削除**: Points to the '+新規', 'コピー', and '削除' buttons in the top right.
- 管理者ユーザー**: Points to the '管理者ユーザー' section header.
- Active Directoryと連携しているユーザー**: Points to the 'Active Directory' link in the left sidebar.
- ユーザー一覧で選択したユーザーの詳細が下に表示される**: Points to the detailed view of the selected user 'adtest2@yasunaka.com'.
- 右側のユーザー一覧に表示する条件**: Points to the '一般ユーザー' section in the left sidebar.
- 選択されたユーザーに対する操作**: Points to the '修正', 'アカウント', 'パスワード再発行', '利用停止', and '利用停止解除' buttons in the bottom right.

ユーザーID	ユーザー名	所属部署	所属プロジェクト
admin2@yasunaka.com	admin2	TEST2	株式会社やすな
admin@yasunaka.com	admin	system administra...	株式会社やすな
admin_nakajima@yasunaka.com	中島さん用管理者	system administra...	株式会社やすな
admintest@yasunaka.com	admintest	TEST2	株式会社やすな
adtest2@yasunaka.com	エーディテスト2	Sales group	株式会社やすな
adtest@yasunaka.com	エーディテスト	Sales group	株式会社やすな
adtesten@yasunaka.com	adtesten	TEST2	株式会社やすな
comment.delete.test...	comment.delete.test	TEST2	株式会社やすな
kubo_protect@yasunaka.com	kubo_protect	system administra...	株式会社やすな
light@yasunaka.com	light	TEST2	株式会社やすな
lightt@yasunaka.com	lightt	TEST2	株式会社やすな
lighttest@yasunaka.com	lighttest	TEST2	株式会社やすな
lighttesten@yasunaka.com	lighttesten	TEST2	株式会社やすな

ユーザーID	名称	所属ポートフォリオ	クライアント・エディション
adtest2@yasunaka.com	エーディテスト2 / エーディテスト2	株式会社やすな	Complete edition
	ふりがな	システム管理者	いいえ
	メールアドレス	ADアカウント	adtest2@updateit.local
	所属会社	セキュリティークン	未予約 / 未割り当て
	所属部署	Sales group / Sales group	

ユーザー管理画面の上部には、登録しているユーザー数、およびサーバーの使用済みディスク量、契約しているディスク容量が表示されます。

ユーザー数： 56 使用したディスク容量： 62.9 GByte (契約ディスク容量： 97.7 GByte)

使用ディスク容量は毎日夜間に使用済み容量を求め、契約ディスク容量の90%を超えていると管理者ユーザーに警告メールを送ります。

なお、使用済み容量には履歴データ分も含まれます。一方、内容が変わらない場合や、違うファイルでも同じ内容の場合には重複しません（重複排除）。

ユーザー一覧のリストからユーザーを選択すると、下にそのユーザーに関する属性が表示されます。

ユーザーID	adtest2@yasunaka.com	所属ポートフォリオ	株式会社やすなが	修正
名称	エーデテスト2 / エーデテスト2	クライアント・エディション	Complete edition	アカウント
ふりがな		システム管理者	いいえ	パスワード再発行
メールアドレス	demo2@updateit.co.jp	ADアカウント	adtest2@updateit.local	利用停止
所属会社	株式会社やすなが / Yasunaka, Inc.	セキュリティークン	未予約 / 未割り当て	利用停止解除
所属部署	Sales group / Sales group			

各項目の意味は以下の通りです。

ユーザーの属性項目について

項目名	内容
ユーザーID	crossnoteでのユーザーID。
名称	ユーザー名（第1言語） / ユーザー名（第2言語）
ふりがな	ふりがな
メールアドレス	ユーザーのメールアドレス。
所属会社	所属会社名（第1言語） / 所属会社名（第2言語）
部・課名称	部・課名称（第1言語） / 部・課名称（第2言語）
所属ポートフォリオ	所属ポートフォリオ名 ポートフォリオはプロジェクトを分類するための入れ物。
クライアントエディション	ユーザーに付与したクライアントエディション
ADアカウント	Active Directoryと連携しているユーザーの場合には Active Directory 側のユーザー・アカウント名が表示されます。（注1）

セキュリティトークン	OTP 認証を使用する際の、トークン割り当て状況。 ソフトウェアのオーセンティケーターを使っている場合には「2段階認証設定済み(Software)」と表示。
------------	--

名称などは第1言語、第2言語と2つの言語で設定できるようになっています。第1言語はローカル言語、第2言語は共通コミュニケーション用言語として使用します。日本語環境で使う場合には第1言語を日本語、第2言語を英語とすると良いでしょう。

所属会社には複数の会社間で共用する場合や、協力会社の社員に使ってもらう場合にそのユーザーの所属する会社を設定します。

所属ポートフォリオは通常は契約会社全体を指定しますが、特定のポートフォリオにのみ所属させたい場合には、そのポートフォリオを指定します。特定のポートフォリオを指定した場合には、そのポートフォリオに属するプロジェクトにしかアサインできません。

(注1) [Active Directoryとの連携](#)の際、「IDとパスワードをサーバーに保存する」「ユーザーID」「パスワード」が未入力の場合、ユーザー管理画面にActive Directoryユーザーアイコン、下段のユーザーに関する属性のADアカウントが表示されません。

さらにユーザー一覧テーブルの右側には各ユーザ毎の使用状況等が表示されます。

- ◆ クライアントAPL最終ログイン
- ◆ HIVE最終ログイン
- ◆ クライアントAPLバージョン

これらの情報より、まだセットアップしていないユーザやバージョンアップを済ませていないユーザをチェックすることが可能です。

更新		+ 新規 複製 削除 セキュリティトークン エクスポート インポート				
	エディション	システム管理者	セキュリティトークン	クライアントAPL最終ログイン	HIVE最終ログイン	クライアントAPLバージョン
B, プロジェ...	Complete edition		2段階認証設定済...	2025-07-29 16:29:53	2025-07-02 22:33:39	3.0.0.20250630
EL02_001,...	Complete edition		2段階認証設定済...	2025-06-25 22:24:13	2025-06-25 20:10:21	3.0.0.20250630
EL02_001,...	Complete edition		未設定	2023-03-24 12:12:07	2018-12-06 00:04:03	2.1.3.20221231
EL02_001,...	テストメニュー2		未設定	2025-07-16 10:28:45	2019-01-15 13:00:29	3.0.0.20250630
EL02_001,...	Light edition		未設定	2025-06-25 22:33:59	2025-06-25 22:35:22	3.0.0.20250630
AAA, A...	Complete edition		未設定	2025-06-25 12:14:42	2025-06-27 12:06:00	3.0.0.20250630
EL02_001,...	Complete edition		未設定			
ver 2.1.5,...	Complete edition		未設定	2025-06-23 17:00:56		3.0.0.20250630
	Complete edition		未設定	2025-06-26 18:37:45	2025-06-26 19:01:38	3.0.0.20250630

2-2 ユーザー登録

ユーザーを新規に登録するには、ユーザー管理画面の右上にある「新規」ボタンを押します。

ユーザー情報

ユーザー情報を入力してください。

ID @yasunaka.com

ユーザー名 (日本語) 必須*

ユーザー名 (英語) 必須*

ふりがな

メールアドレス 必須*

所属会社 株式会社やすなが ...

所属部署 (日本語) TEST2

所属部署 (英語) all

所属ポートフォリオ 株式会社やすなが ...

ユーザーの種別 ☒ 一般ユーザー ☐ システム管理者 (Admin)

クライアント・エディション Complete edition

追加機能ライセンス

- ☐ jp.updateit.apis.option.pi
- ☐ jp.updateit.apis.option.ctd
- ☐ jp.updateit.apis.option.ectd
- ☐ jp.updateit.apis.option.ectdviewer
- ☐ jp.updateit.apis.option.wordcollector
- ☒ jp.updateit.apis.option.hive
- ☐ jp.updateit.apis.option.hive.share
- ☐ jp.updateit.apis.option.contactreport2
- ☐ jp.updateit.apis.option.docflow
- ☐ jp.updateit.apis.option.docflow.rt
- ☐ jp.updateit.apis.option.pdfdiff

特別な役割

- ☐ 全体階層のテンプレートを設定する役割
- ☐ 署名に関する基本設定を行う役割
- ☐ 文書一覧のカラム設定を行う役割
- ☐ 会社階層のワークグループを編集する役割
- ☐ crossnoteをMCPサーバーとして利用する
- ☐ 管理者への昇格が可能な役割(APIのみ)

セキュリティトークン 割り当て 予約

OK キャンセル

複数の会社間で共同利用したり、協力会社の人にも利用してもらったりする場合には、所属会社を設定します。「...」のボタンを押すと、所属会社を追加設定することができます。

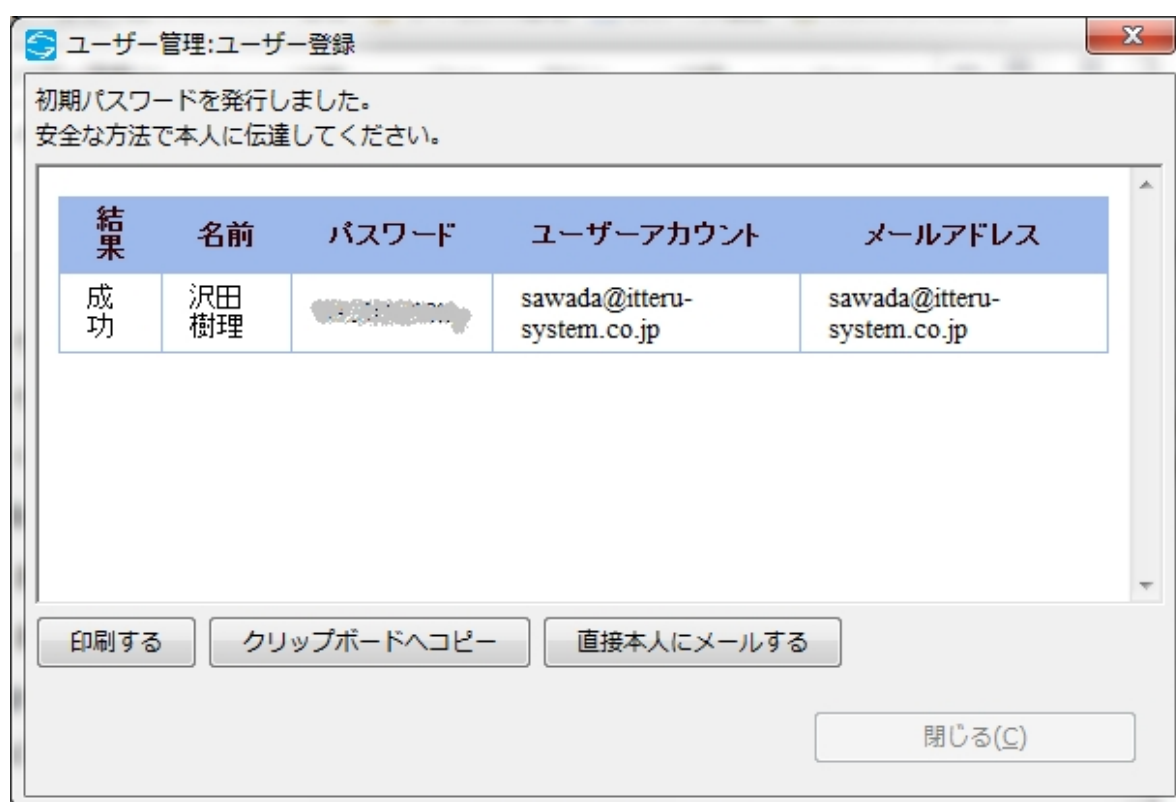
またユーザに追加機能ライセンスや特別な役割を割り当てる場合、チェックを入れます。（なお

ここには契約しているライセンスだけが表示されます)

ハードウェアトークンを利用した**OTP**認証を使用する場合、セキュリティトークンをユーザーに割り当てます。ソフトウェアのオーセンティケーターを利用した**OTP**認証の場合には特に設定は不要です。

トークンの交換や紛失に備えてトークンは予備の「予約」として登録しておくことができます。「予約」したトークンでログインを行うと「割り当て」トークンは使用停止になり、以降「予約」トークンのみでログインが可能になります。

ユーザーを登録すると、以下のような画面が表示されます。

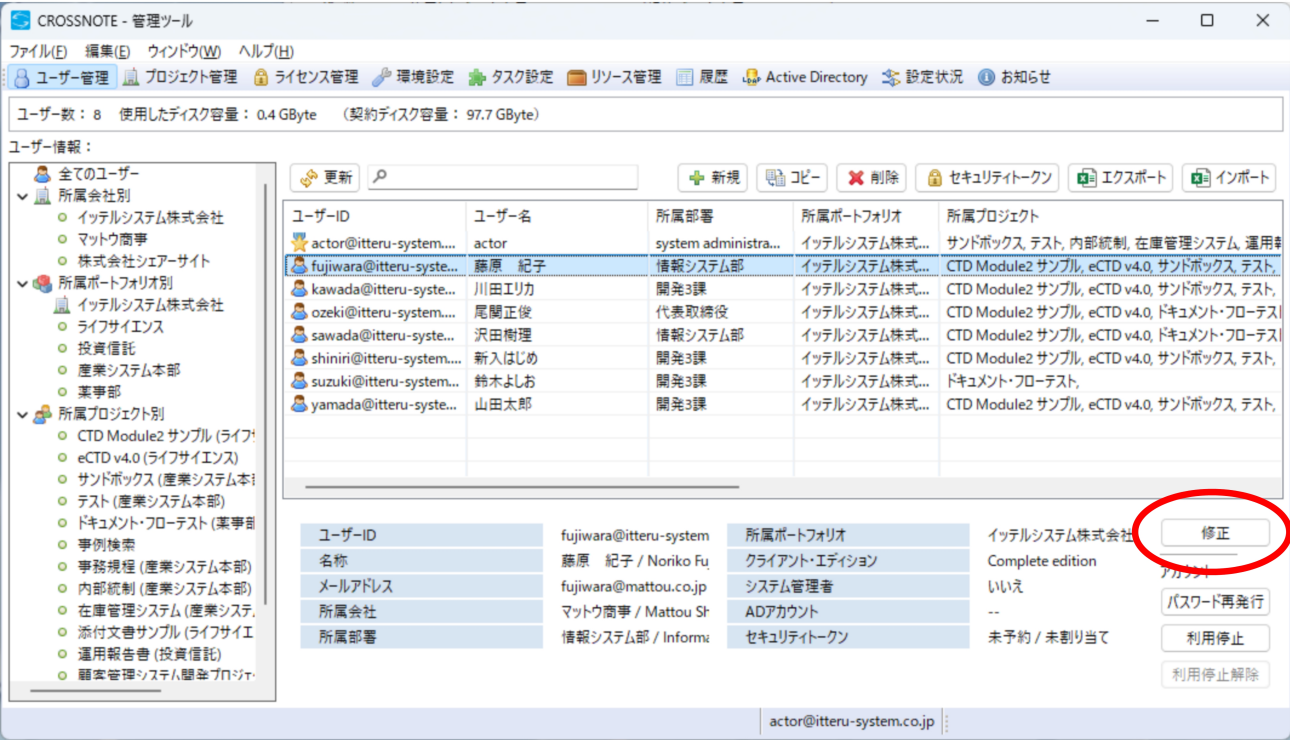


「直接本人にメールする」を押せば登録したメールアドレスにユーザーIDや接続先サーバーのURL、および初期パスワードを送ります。他にも紙に印刷したり、クリップボードに内容をコピーしてメモ帳に貼り付けたりすることも可能です。

下の「印刷する」「クリップボードへコピー」「直接本人にメールする」のいずれかを実行すれば、「閉じる」ボタンが押せるようになります。

2-3 ユーザー情報の変更

ユーザー情報を変更するには、対象のユーザーを選択し、修正ボタンを押します。



ユーザー情報の変更画面は、ユーザー登録の画面に準じますが、IDを変更することはできません。詳細は[ユーザー登録](#)画面を参照してください。

ユーザー情報

ユーザー情報を入力してください。

ID: suzuki @yasunaka.com

ユーザー名 (日本語): 鈴木よしお

ユーザー名 (英語): yoshio suzuki

ふりがな: すずき よしお

メールアドレス:

所属会社: 株式会社やすなか

所属部署 (日本語): 開発3課

所属部署 (英語): Development Sec.3

所属ポートフォリオ: 株式会社やすなか

ユーザーの種別: ☒ 一般ユーザー ☐ システム管理者(Admin)

クライアント・エディション: Complete edition

追加機能ライセンス

- ☐ jp.updateit.apis.option.pi
- ☐ jp.updateit.apis.option.ctd
- ☐ jp.updateit.apis.option.ectd
- ☐ jp.updateit.apis.option.ectdviewer
- ☐ jp.updateit.apis.option.wordcollector
- ☒ jp.updateit.apis.option.hive
- ☐ jp.updateit.apis.option.hive.share
- ☐ jp.updateit.apis.option.contactreport2
- ☐ jp.updateit.apis.option.docflow
- ☐ jp.updateit.apis.option.docflow.rt
- ☐ jp.updateit.apis.option.pdfdiff

特別な役割

- ☐ 全体階層のテンプレートを設定する役割
- ☐ 署名に関する基本設定を行う役割
- ☐ 文書一覧のカラム設定を行う役割
- ☐ 会社階層のワークグループを編集する役割
- ☐ crossnoteをMCPサーバーとして利用する
- ☐ 管理者への昇格が可能な役割(APIのみ)

セキュリティトークン

割り当て: 予約

OK キャンセル

変更すると、以下のような確認画面が表示されます。

ユーザー管理:ユーザー登録

初期パスワードを発行しました。
安全な方法で本人に伝達してください。

結果	名前	パスワード	ユーザーアカウント	メールアドレス
成功	鈴木よしお	v7r3GRKJgg	suzuki@yasunaka.com	

印刷する

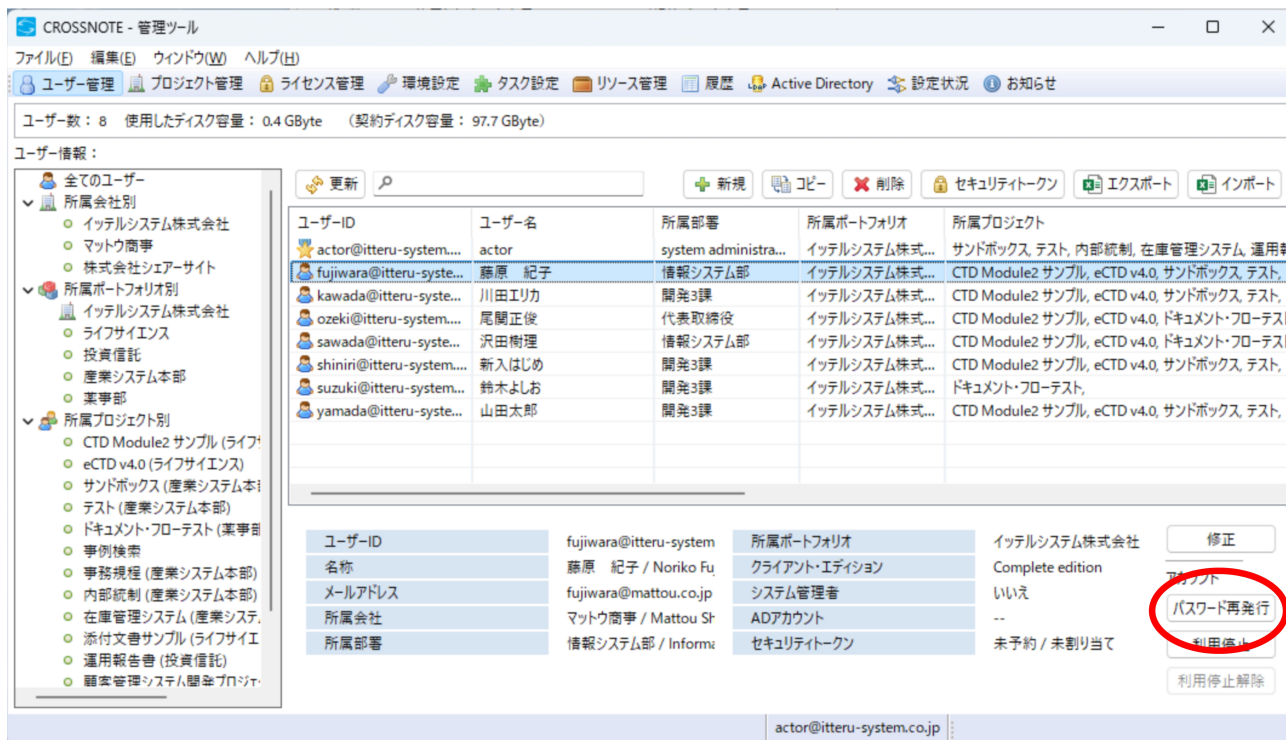
クリップボードへコピー

直接本人にメールする

閉じる

2-4 パスワードの再発行

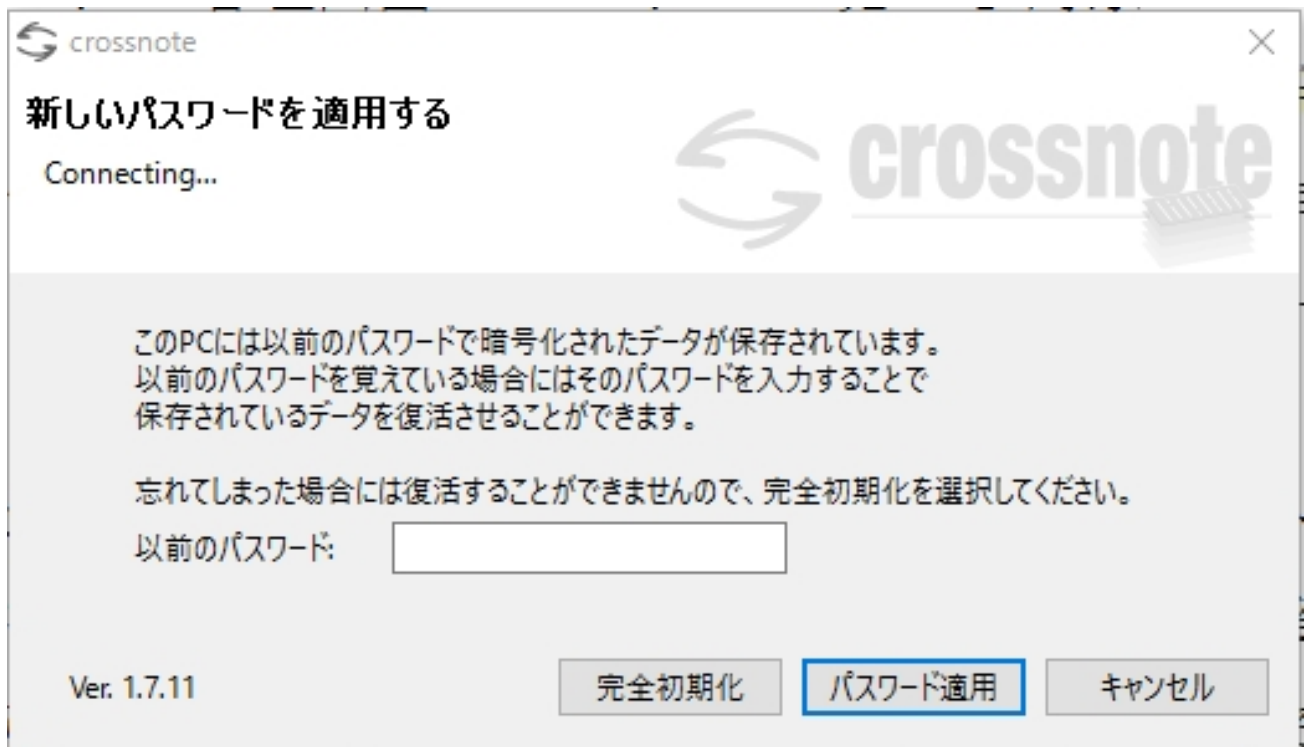
ユーザーがパスワードを忘れてしまった場合への対処です。



ユーザー管理画面のユーザー一覧から対象のユーザーを選択し、下にそのユーザーの詳細が表示されているのを確認してから「パスワード再発行」ボタンを押します。

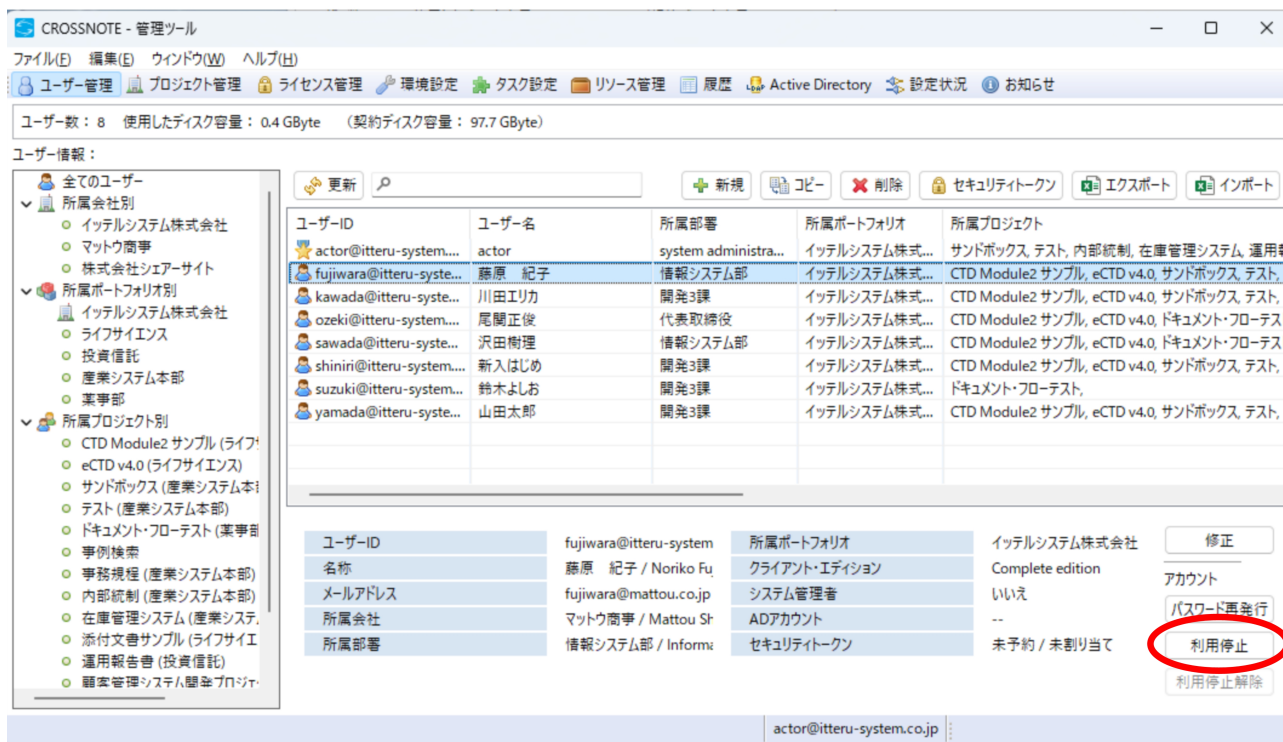
押すとユーザー登録のときと同様にパスワード再発行の確認画面が表示されますので、「印刷」「クリップボードへコピー」「直接本人にメールする」のいずれかで再発行した初期パスワードを送ってください。

なおパスワードを再発行した場合、クライアントに保存してあったPCのデータにアクセスするには、旧パスワードが必要となります。再発行後の初回ログイン時に、再発行以前のPCデータを引き継ぐか確認され、旧パスワードを入力すると引き続きアクセスできるようになります。旧パスワードが分からない場合や、完全初期化で構わない場合は、以降アクセスできなくなりますのでご注意ください。

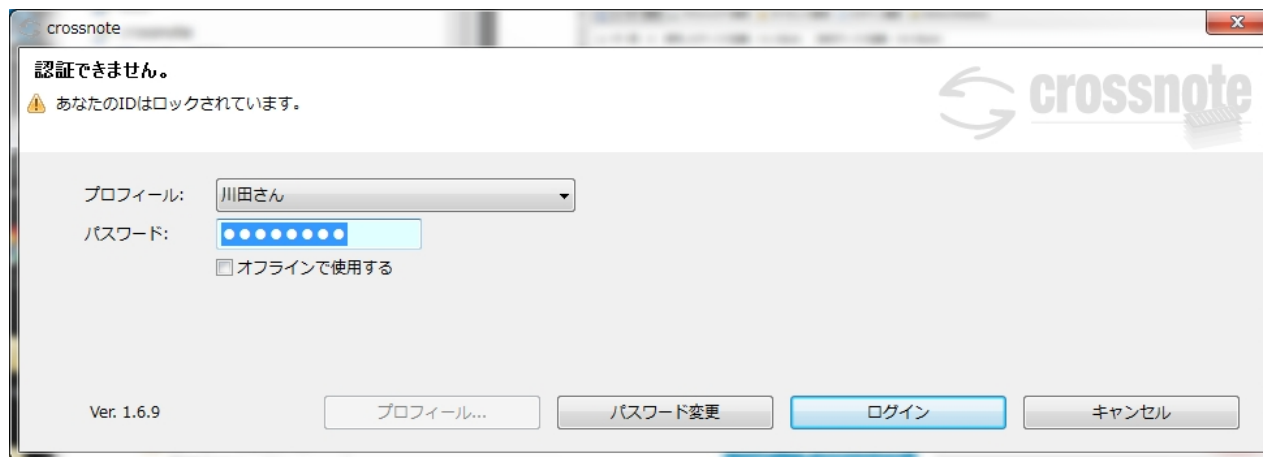


2-5 利用停止および利用停止の解除

利用停止機能を使うと特定のユーザーを、ユーザの定義を残したままログインできないようにすることができます。環境設定において「ユーザの削除操作を禁止する」を指定している場合、ユーザの削除を行う代わりにこの利用停止機能をご利用ください。



利用停止を指定すると、対象ユーザーがログインできなくなります。利用停止されているときに crossnote にログインしようとする、以下のように「あなたのIDはロックされています」と表示されます。

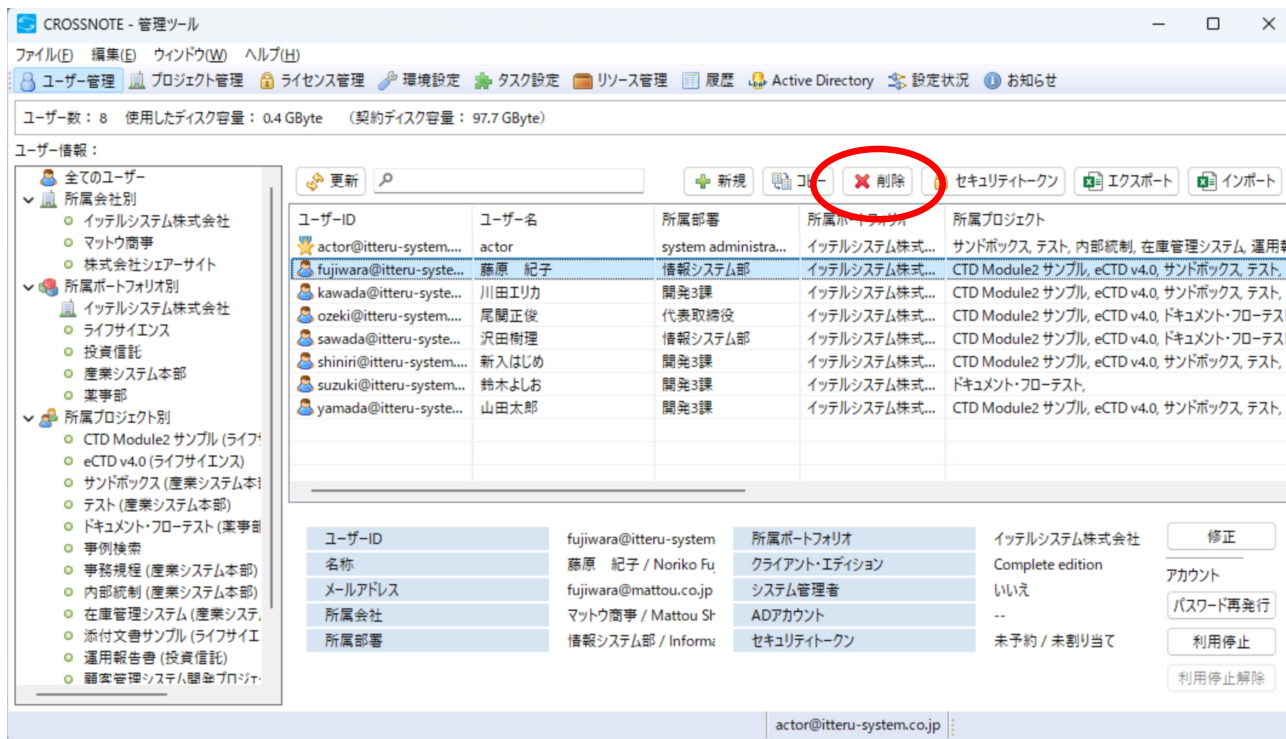


利用停止を解除すれば即時に利用可能になります。

なおパスワードを連続して**20回**（**AD連携**の場合は**10回**）間違えた場合、一時的に対象ユーザーがロックされますが、この場合のロックは利用停止と異なり、**30分**間待つと自動的に解除されます。またこのパスワード間違いによる一時的なロックの場合には、ロック中でも別の**PC**からはログインできます。

2-6 ユーザの削除

ユーザ定義を削除する場合、対象のユーザを選んだ上で削除ボタンを押します。



ユーザを削除した場合、そのユーザが所属しているプロジェクトから強制的に除外します。またユーザの削除操作は物理削除であり、元に戻すことはできません。

履歴などにおいては削除されたユーザはユーザー名ではなくユーザーIDで表示されるようになります。

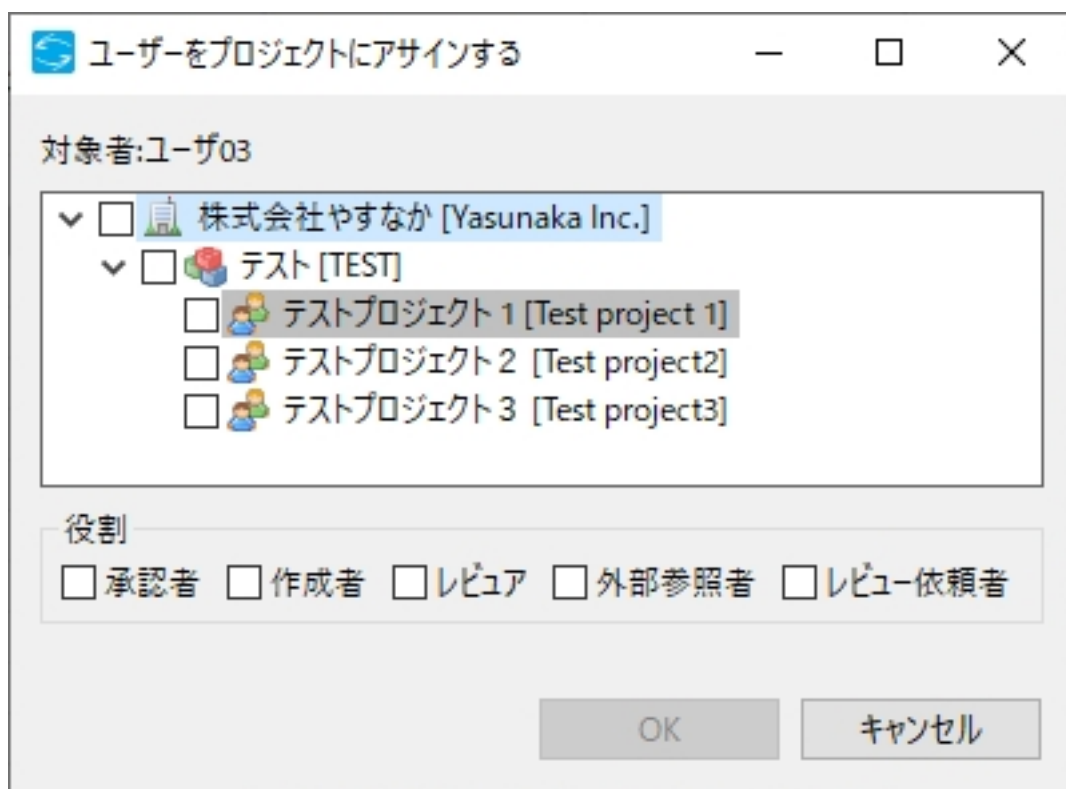
2-7 複数のプロジェクトへのユーザーの一括アサイン

例えば新規ユーザーを複数のプロジェクトへ一括してアサインしたい場合には、ユーザー管理画面から行うことができます。

ユーザーのプロジェクトへのアサイン方法には2つの方法があります。

■ プロジェクトに直接所属させる方法

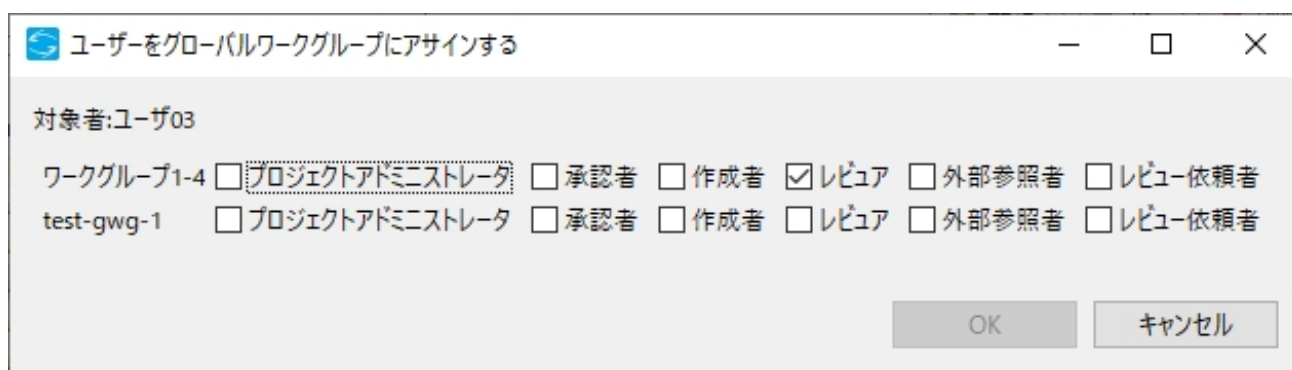
- 1 対象のユーザーを一覧から選択し、右クリック→「ユーザーをプロジェクトにアサインする」を選びます。
- 2 所属させたいプロジェクトと、そのプロジェクトにおける役割を選択し、OKボタンを押します。



■ グローバル・ワークグループを使ってプロジェクトに所属させる方法

グローバル・ワークグループを予め設定しておけば、そこで設定されたプロジェクトに対して一括で所属させることができます。

- 1 対象のユーザーを一覧から選択し、右クリック→「ユーザーをグローバル・ワークグループにアサインする」を選びます。
- 2 所属させたいワークグループにおける役割を選択し、OKボタンを押します。



なおグローバル・ワークグループの設定は[ユーザ設定](#)を参照してください。

2-8 ユーザー登録時のメール文言の修正

「直接本人にメールする」を押せば登録したメールアドレスにユーザーIDや接続先サーバーのURL、および初期パスワードを送りますが、この文面は変更できます。またパスワード変更時のメールも同様に変更可能です。

admintoolの「ウィンドウ」メニューの「設定」を選び、「メール内容 - 新規ユーザー追加」を選ぶと、メール文面の編集画面が表示されます。

文章は各エディションに分けて設定することができます。

設定

フィルタ入力

- Web ブラウザ
- > セキュリティー
- メンテナンス
- メール内容 - パスワード再発行
- メール内容 - 新規ユーザー追加
- 外観
- 自動更新

メール送信内容の編集

送信するメールの件名、本文を編集してください。

エディション Complete edition ▼

件名:

crossnote 導入設定に関するお知らせ

本文:

\${name} 様

crossnoteの利用準備が整いました。
crossnoteをインストール後、プロフィールには以下の値を設定してください。

URL: \${url}
ユーザID: \${id}

初期パスワード: \${password}

プレビュー:

山田太郎 様

crossnoteの利用準備が整いました。
crossnoteをインストール後、プロフィールには以下の値を設定してください。

URL: http://devsv16/
ユーザID: tam@vasunaka2.com

以下の変数が使用可能です。

\${id} ... ユーザーID	\${password} ... パスワード
\${name} ... ユーザー名	\${nameC} ... User Name
\${url} ... URL	\${hive_url} ... HIVE URL (Webブラウザ)
\${review_url} ... Review URL (Webブラウザ)	

デフォルトの復元(D) 適用(L)

適用して閉じる キャンセル

文面中、変数を使うことでメールの内容をユーザー毎に変更することができます。利用可能な変数は以下の通りです。

変数の種類

変数	内容
\${url}	サーバーのURL
\${hive_url}	HIVE(Webブラウザ経由)でログインするためのURL
\${id}	ユーザーID
\${password}	パスワード
\${name}	ユーザー名（第1言語 - ローカル言語：日本語など）
\${nameC}	ユーザー名（第2言語 - 共通コミュニケーション言語：英語など）

プレビュー画面で変数を置き換えた後の文面のイメージを見ることができます。

2-9 一覧の出力およびユーザの一括登録

ユーザの一覧をExcel形式で出力することが可能です。



ユーザの一括登録を行いたい場合には、一旦エクスポートで作成されたExcelファイルをベースとして一旦既存ユーザを消し、新規に登録するユーザを追記し、インポートを実施してください。

2-10 セキュリティートークン（ハードウェアトークン）

ハードウェアのワンタイム・パスワード・トークンによるOTP認証を行う場合に、セキュリティートークンを登録します。

登録は、指定されたテキストデータを用いて一括登録で登録してください。

一時的にセキュリティートークンを利用停止したい場合、「利用停止」「停止解除」を使用してください。

セキュリティトークンを管理します
登録する際には指定のテキストデータを使用してください

機種	No	登録日	状態	ユーザーID
OTP C200			未使用	
OTP C200			未使用	
OTP C200			未使用	
OTP C200			未使用	

一括登録 削除 利用停止 停止解除

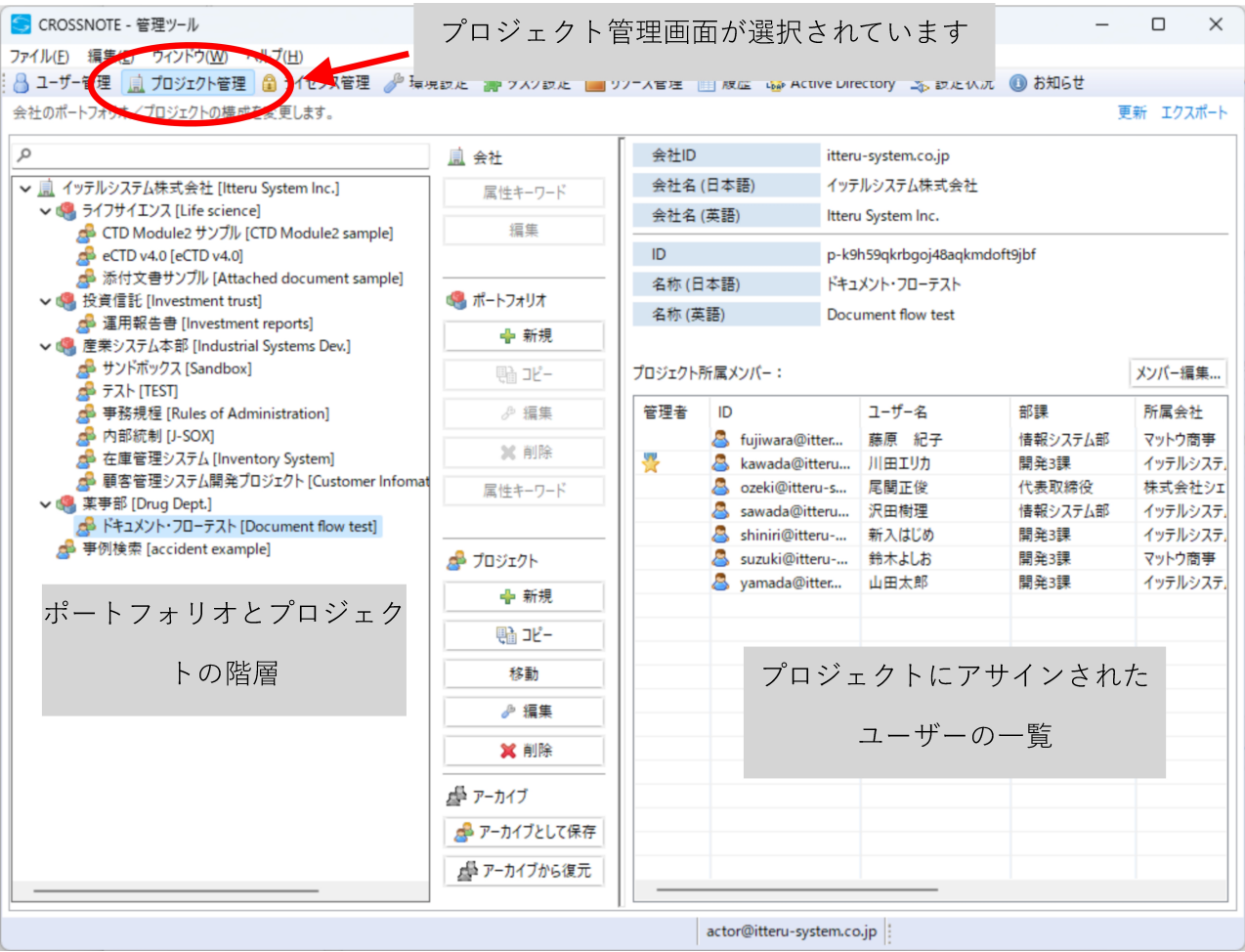
OK キャンセル

3 プロジェクト管理

3-1 プロジェクト管理画面について

crossnoteではドキュメントをプロジェクトと呼ぶ単位で管理します。crossnoteを使うには、プロジェクトを作成し、ユーザーをプロジェクトにアサインします。

プロジェクトを束ねたものをポートフォリオと呼びます。ポートフォリオは階層的に定義することができます。



ポートフォリオとプロジェクトの階層に表示されたアイコンの意味は以下の通りです。

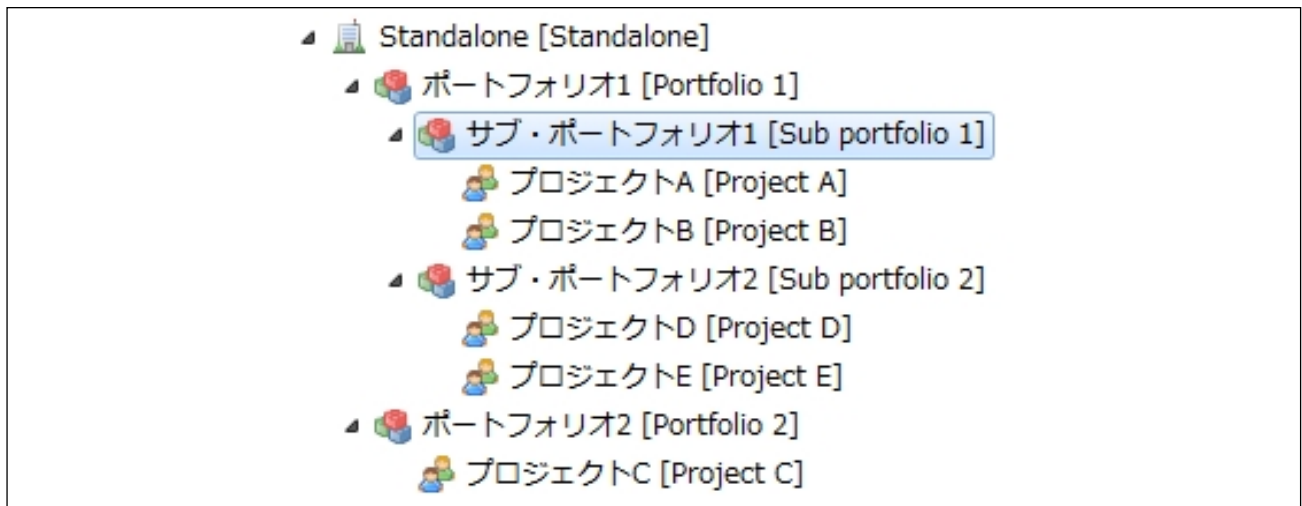
アイコン	内容
	会社全体を現す。一番上に表示される。ポートフォリオでもあり、プロジェクトを直接持つこともできる。

	ポートフォリオ。プロジェクトを複数入れることができる。
	プロジェクト。

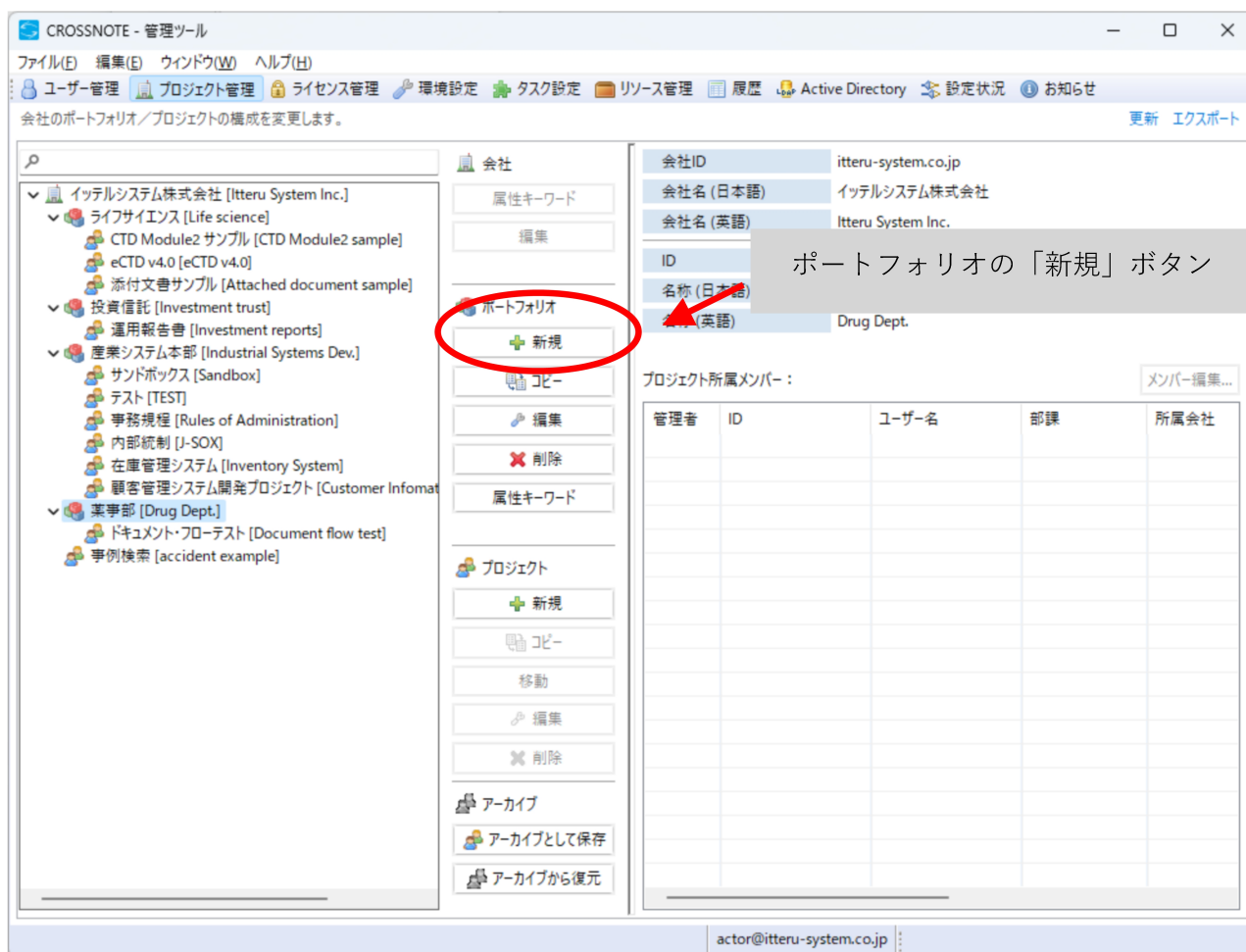
左側の階層の要素を選択すると、右側にその属性情報が表示されます。

3-2 ポートフォリオの登録

ポートフォリオはプロジェクトを分類するための入れ物です。例えば以下のように階層的に定義することができます。



新しくポートフォリオを定義するには、親（会社、またはポートフォリオ）を選択してからポートフォリオの「新規」ボタンを押します。



ボタンを押すと、以下のようなポートフォリオの情報を入力する画面が表示されます。

ポートフォリオ情報

ポートフォリオ情報を入力して下さい

作成先: サブ・ポートフォリオ1 [Sub portfolio 1] ...

ポートフォリオ名 (第1言語): ポートフォリオ3

ポートフォリオ名 (第2言語): Portfolio 3

OK キャンセル

上記の例では、「サブ・ポートフォリオ1」の下にポートフォリオを作ろうとしています。

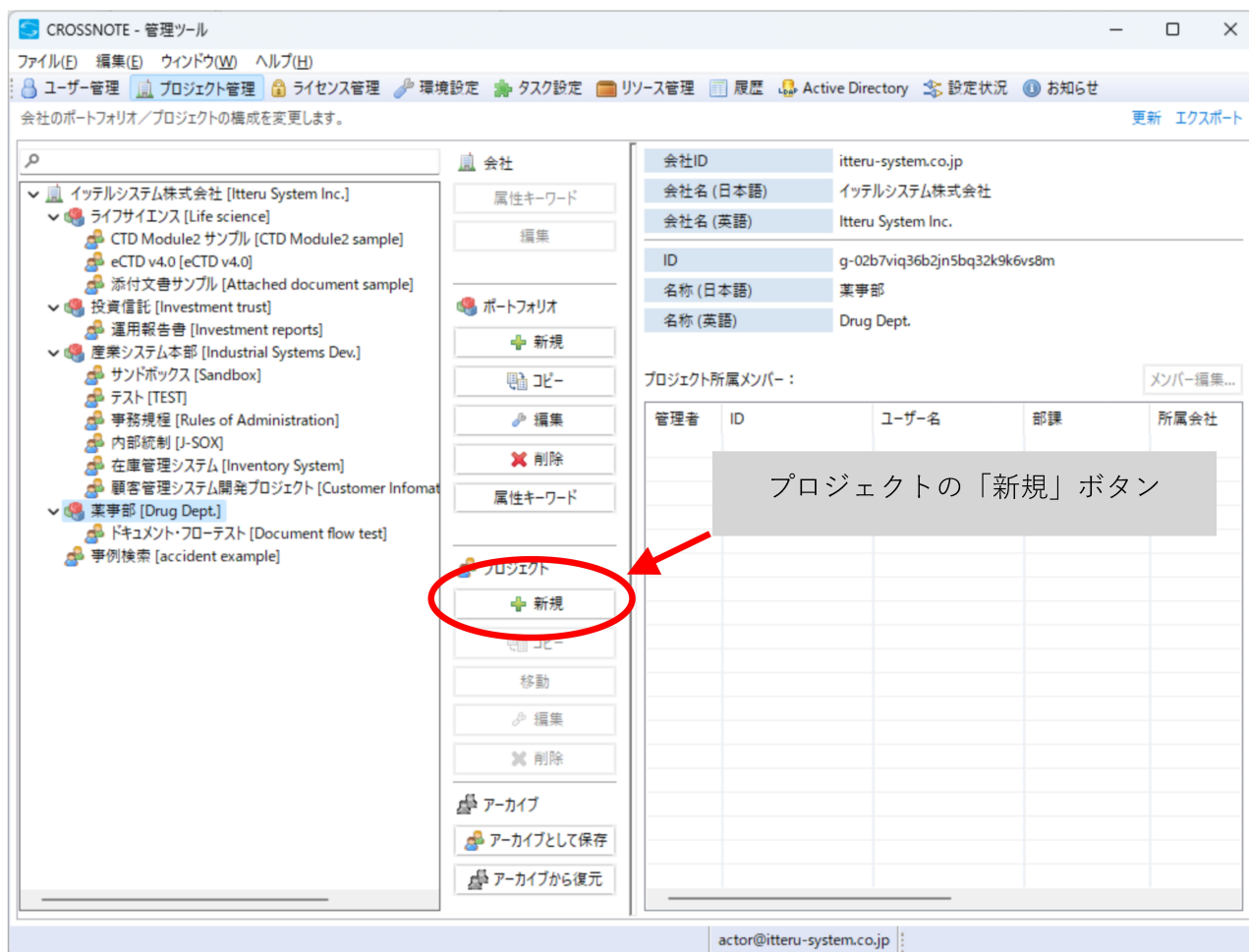
項目名	内容
ポートフォリオ名 (第1言語)	ポートフォリオ名のローカル言語表現。日本語など。

ポートフォリオ名（第2言語）	ポートフォリオ名の共通コミュニケーション言語での表現。英語など。
----------------	----------------------------------

3-3 プロジェクトの登録

プロジェクトを作成し、ユーザーをプロジェクトにアサインすることで**crossnote**が利用できるようになります。

新しくプロジェクトを定義するには、親（会社、またはポートフォリオ）を選択してからプロジェクトの「新規」ボタンを押します。



ボタンを押すと、以下のようなプロジェクトの情報を入力する画面が表示されます。

プロジェクト情報

プロジェクト 情報を入力して下さい

作成先

RELEASE TEST [RELEASE TEST]

...

プロジェクト名 (日本語)

プロジェクト名 (英語)

プロジェクトにおける優先言語

日本語

ファイル公開方法

非公開

リンク形式にするファイルの大きさ

120

リンク形式でのファイル保存世代数

☒ 無制限

Tips

ファイルを保存する際、ここで示した大きさ以上のファイルはリンク形式で保存します。
リンク形式の場合、プロジェクトのセットアップ時にファイルの実体がダウンロードされません。

プロジェクトの有効期日

Tips

プロジェクトの有効期日を設定した場合、その期日以前にはプロジェクトを削除できなくなります。
またいったん設定したプロジェクトの有効期日は取り消せません。

OK

Cancel

上記の例では、「ポートフォリオ2」の下にプロジェクトを作ろうとしています。

項目名	内容
プロジェクト名 (第1言語)	プロジェクト名のローカル言語表現。日本語など。
プロジェクト名 (第2言語)	プロジェクト名の共通コミュニケーション言語での表現。英語など。
第1言語 (通常使う言語)	このプロジェクトにおけるローカル言語を何語とするかを設定する。
第2言語 (コミュニケーション用言語)	このプロジェクトにおける共通コミュニケーション言語を何語とするかを設定する。
ファイル公開設定	ドキュメント・ステータスを「公開」とした際にそのファイルを公開する方法を指定する。

リンク形式にするファイルの大きさ	ここで指定した大きさより大きなファイルはリンク形式で保存する。最大は120MByte。
リンクファイルの保存世代数	120MBを超えるファイルはcrossnoteではリンクファイルという仕組みで扱います。リンクファイルの履歴を何世代保持するかを設定します。 保存世代数を減らした場合、即時に超過した世代のファイルは削除され、復旧できませんので十分注意して設定してください。
プロジェクトの有効期日	プロジェクトの有効期日を設定した場合、その期日以前ではプロジェクトを削除できなくなります。また、一旦設定したプロジェクトの有効期日は取り消せません。

ファイルの公開設定については、サーバーの設定により利用できる設定方法が異なります。（設定できない公開方法は選択項目に表示されません）

ファイルの公開設定の種類	内容
非公開	公開しない。
Webで公開	ファイルをWebでアクセスできる形で公開する。
ファイル共有で公開	ファイルを共有フォルダの上に置いて公開する。ファイル共有が使えるオンプレミス環境の場合にのみ利用可能。
FTPで公開	ファイルを他のサーバーにFTP転送して公開する。必要なパラメータを予め設定してある環境でなければ使用できない。

ファイルの公開方法は、クライアントのcrossnote側で設定状態を確認することができます。プロジェクトを選択し、右クリック→「プロパティ」でプロジェクト・プロパティを表示し、「ファイル公開方法」を選択してください。URLなど、公開する際の場所の情報もこちらから知ることができます。

ファイルの公開方法は設定後、変更するとプロジェクトの全ファイルを指定方法に置き換えます。（変更前の公開方法で公開していたファイルは削除します） ユーザーインターフェース上は切り替えはすぐに行われますが、ファイルの置き換え処理には時間がかかるため、バックグラウンドで

実行されます。ファイルが大量にある場合にはこれらの置き換え作業に時間がかかりますので注意してください。

3-4 プロジェクトへのユーザーのアサイン

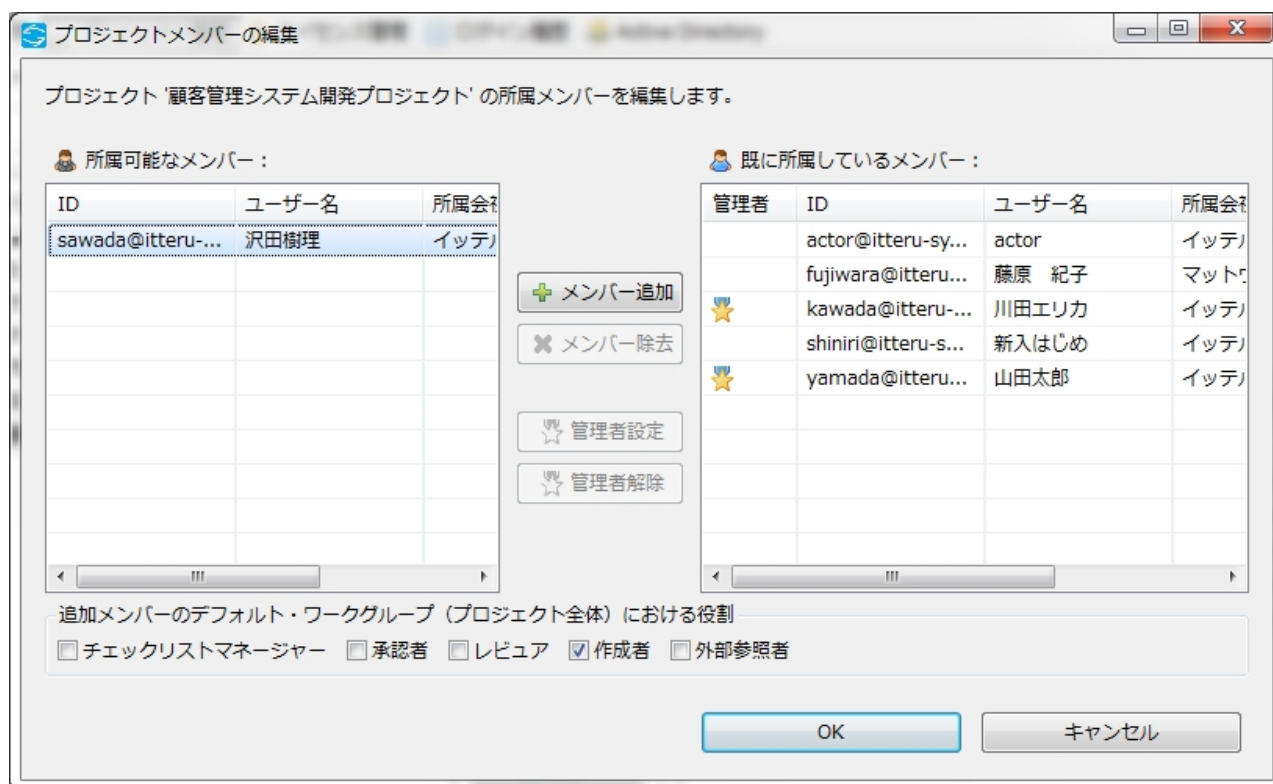
プロジェクトを作成したら、プロジェクトにユーザーをアサイン（割り当て／選任）します。プロジェクトにアサインしたユーザーをメンバーと呼びます。

対象プロジェクトを選択し、右側の「メンバー編集」画面を押します。

The screenshot shows the CROSSNOTE management tool interface. On the left, a tree view lists various projects under 'イッテルシステム株式会社 [Itteru System Inc.]'. The project 'ドキュメント・フローテスト [Document flow test]' is selected and circled in red. A red arrow points to it with the label '(1) 対象 プロジェクトの選択'. On the right, the 'メンバー編集' (Edit Members) button is circled in red, with a red arrow pointing to it and the label '(2) 「メンバー編集」 ボタン'. Below this, a table lists the project's members.

管理者	ID	ユーザー名	部課	所属会社
	fujiiwara@itteru...	藤原 紀子	情報システム部	マツウ商事
	kawada@itteru...	川田エリカ	開発3課	イッテルシステ
	ozeki@itteru-s...	尾関正俊	代表取締役	株式会社シェ
	sawada@itteru...	沢田樹理	情報システム部	イッテルシステ
	shinini@itteru-...	新入はじめ	開発3課	イッテルシステ
	suzuki@itteru-...	鈴木よしお	開発3課	マツウ商事
	yamada@itteru...	山田太郎	開発3課	イッテルシステ

ボタンを押すと、以下のようなプロジェクトのメンバーを設定する画面が表示されます。



左側が新たにアサイン可能なメンバー一覧、右が対象のプロジェクトにアサイン済みのメンバー一覧が表示されています。

追加する場合には左側で追加したいメンバーを選択し、「メンバー追加」ボタンを押します。さらに追加メンバーをどのような役割でプロジェクトにアサインするかを選択してからOKボタンを押してください。この役割により、そのプロジェクト内で追加メンバーが使える機能が変わります。

■ プロジェクト管理者（プロジェクトアドミニストレータ）

★のマークがセットされているメンバーはプロジェクト管理者（プロジェクトアドミニストレータ）としての役割がアサインされています。プロジェクトにアサインしたメンバーを選んで「管理者設定」のボタンを押すと、そのユーザーに対象のプロジェクトにおけるプロジェクト管理者の役割がアサインされます。

このプロジェクト管理者（プロジェクトアドミニストレータ）とは、対象のプロジェクト内における管理者ですので、プロジェクト管理者としてアサインされていないプロジェクトでは一般のユーザーと同じ扱いになります。またそのユーザーIDではadmintoolは利用できません。

プロジェクト管理者の役割があればプロジェクトへのユーザーのアサインを始め、権限の設定・変更や各種設定などが可能になります。ただしプロジェクト管理者の権限だけではドキュメントへの参照や作成権限はありませんので、管理者を務めつつ、ドキュメントの作成業務を行うような場合

には同時に「作成者」などの役割も与える必要があります。

次の表に、**admintool**を利用できる**crossnote**管理者(admin)と、プロジェクト管理者との違いをまとめました。

管理者によるできること・できないこと（例）	crossnote管理者 (admin)	プロジェクト管理者 (プロジェクトアドミニ ストレータ)
admintoolの利用	○	△
crossnoteクライアントの利用		○
ユーザーの追加・編集・削除	○	
ポートフォリオの作成・編集	○	
会社全体、またはポートフォリオに対するキーワード設定	○	
プロジェクトの作成	○	
プロジェクトの名称変更	○	
プロジェクトの移動、削除	○	
プロジェクト公開方法の設定	○	
プロジェクト管理者の最初のアサイン	○	
プロジェクト内の他のユーザーをプロジェクト管理者としてアサイン	○	○
プロジェクト内における役割・権限設定		○
プロジェクトへのユーザーのアサイン	○	○
プロジェクトに対するキーワードの設定		○
ワークグループの設定		○
その他プロジェクトに関する設定		○

注意) **admin**専用ユーザーID (crossnote管理者) でも**crossnote**クライアントにログインできますが、通常は使わないようにしてください。

■ デフォルト・ワークグループにおける役割

ワークグループとはプロジェクト内に作成することができるメンバーの集合です。**crossnote**ではドキュメントの所有者（権限を設定できる人）は個人ではなく、ワークグループになります。またワークグループ毎に権限の設定を行います。

プロジェクトのメンバーは、特定の役割を持って、ワークグループに所属します。

例)

ワークグループAにおいて、田中さんはレビューであり、山田さんは作成者、川田さんは外部参照者です。
ワークグループBでは山田さんがレビューであり、川田さんが作成者です。田中さんは所属しません。

どのワークグループにも所属しない、役割を一切持たないメンバーは、例えプロジェクトにアサインされても何の権限も持たず、実質的に何もできません。

プロジェクトを作成すると、デフォルト・ワークグループが1つ自動的に作成されます。**admintool**でメンバーをプロジェクトにアサインする場合には、このデフォルト・ワークグループにおける役割を設定して、追加するメンバーが対象のプロジェクトを使えるようにしてください。

追加メンバーのデフォルト・ワークグループ（プロジェクト全体）における役割

☐ チェックリストマネージャー ☐ 承認者 ☐ レビュー ☒ 作成者 ☐ 外部参照者

デフォルト・ワークグループ以外のワークグループの作成や役割設定はプロジェクト管理者の仕事で、**crossnote**クライアントで設定します。**admintool**ではデフォルトの設定のみ可能です。

3-5 既存プロジェクトをテンプレートとしてプロジェクトをコピー作成する

新しいプロジェクトを作成する際、既存のプロジェクトをテンプレートとして、その設定を引き継ぎながら新しいプロジェクトを作成することができます。

テンプレートとするプロジェクトを選択し、プロジェクトの「コピー」画面を押します。

The screenshot shows the CROSSNOTE management tool interface. On the left, a tree view lists projects under '会社' (Company). The project 'ドキュメント・フローテスト [Document flow test]' is selected and circled in red. A red arrow points to this project. A text box with the label '(1) テンプレートとするプロジェクトの選択' (Selection of project as template) points to the selected project. On the right, the 'プロジェクト' (Project) tab is active, and the 'コピー' (Copy) button is circled in red. A red arrow points to this button. A text box with the label '(2) プロジェクトの「コピー」ボタン' (Project's 'Copy' button) points to the button. The right pane displays project details for 'ドキュメント・フローテスト'.

会社ID	itteru-system.co.jp
会社名 (日本語)	イッテルシステム株式会社
会社名 (英語)	Itteru System Inc.
ID	p-k9h59qkrbg0j48aqkmdoft9jbf
名称 (日本語)	ドキュメント・フローテスト
名称 (英語)	Document flow test

管理者	ID	ユーザー名	部課	所属会社
	fujiiwara@itter...	藤原 紀子	情報システム部	マツウ商事
	kawada@itteru...	川田エリカ	開発3課	イッテルシステ...
	ozeki@itteru-s...	尾関正俊	代表取締役	株式会社シェ...
	sawada@itteru...	沢田樹理	情報システム部	イッテルシステ...
	shinini@itteru-...	新入はじめ	開発3課	イッテルシステ...
	suzuki@itteru-...	鈴木よしお	開発3課	マツウ商事
	yamada@itter...	山田太郎	開発3課	イッテルシステ...

ボタンを押すと、以下のようなプロジェクトの情報を入力する画面が表示されます。

プロジェクト情報

プロジェクト情報を入力して下さい

コピー元: プロジェクトA [ProjectA]

作成先: 全社 [all]

プロジェクト名 (第1言語): プロジェクトAのコピー

プロジェクト名 (第2言語): ProjectAのコピー

第1言語 (通常使う言語): 日本語

第2言語 (コミュニケーション用言語): 英語

ファイル公開方法: 非公開

リンクファイル保存世代数: ☒ 無制限

プロジェクトの有効期日:

Tips
プロジェクトの有効期日を設定した場合、その期日以前にはプロジェクトを削除できなくなります。
またいったん設定したプロジェクトの有効期日は取り消せません。

コピーする定義と設定内容:

☒ フォルダ構成	☐ ファイル	☐ ファイル (拡張コピー)	☒ プロジェクト・メンバー	☒ ワークグループ	☒ 役割・権限
☒ ドキュメント・ステータス	☒ 属性キーワード	☒ タグ	☒ 質問のカテゴリ	☒ XMLタグ種別	☒ 校正支援のルール

OK キャンセル

作成先（親のポートフォリオ）を変更したい場合には、作成先の右側の「…」のボタンを押して、親のポートフォリオを選択してください。

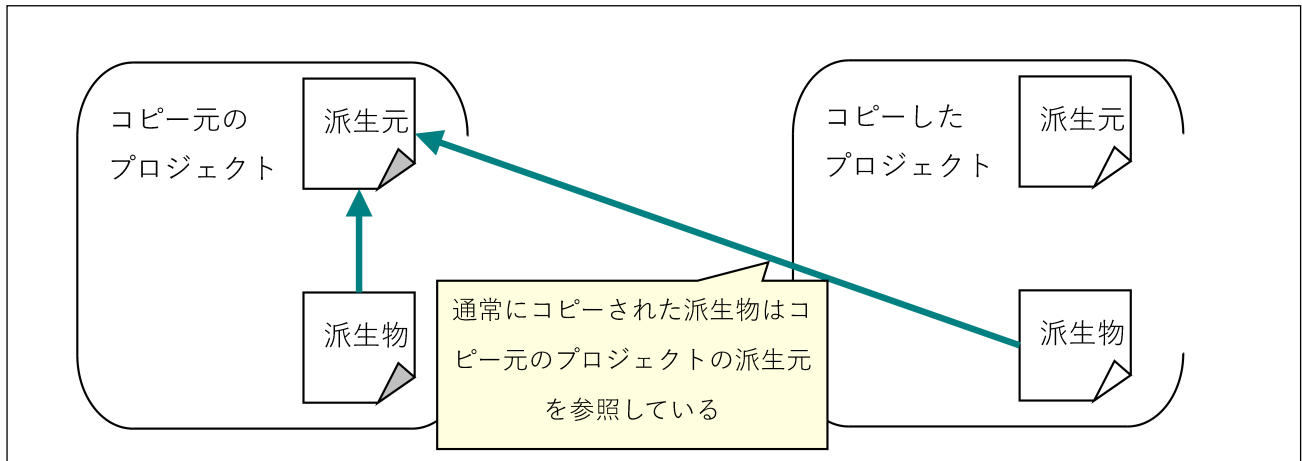
コピーできる設定は以下の通りです。いずれもコピー元のプロジェクトが独自設定した情報がコピー対象となります。

- ◆ フォルダ構成、ファイル、ファイル（拡張コピー）、プロジェクト・メンバー、ワークグループ、役割・権限、ドキュメント・ステータス、キーワード、タグ、質問のカテゴリ、XMLタグ種別、校正支援のルール、セキュリティ

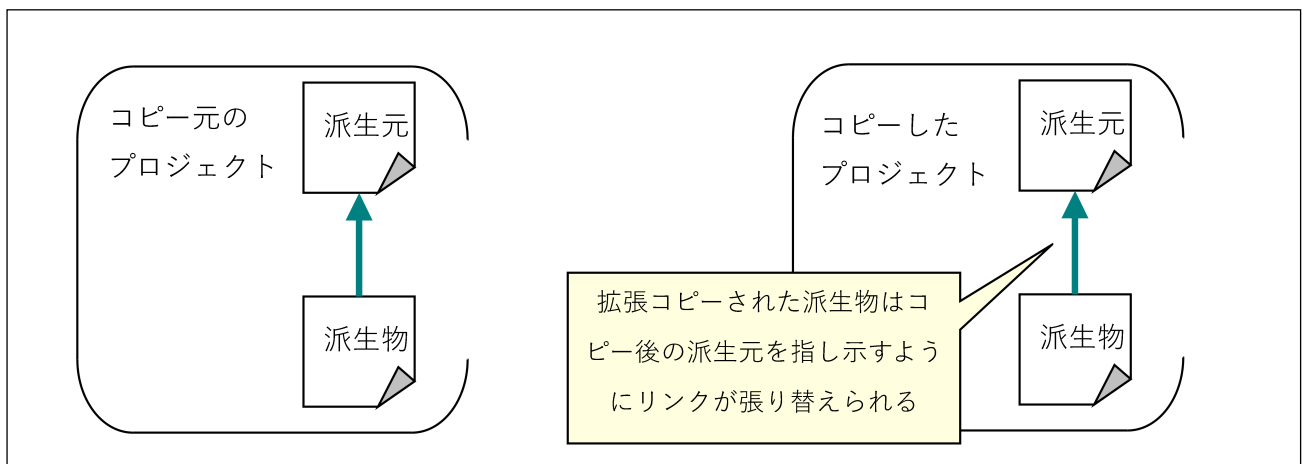
なお、フォルダ構成、ファイル、ファイル（拡張コピー）はどれか1つの選択となります。

拡張コピーとは、派生元と派生物（もしくは参照元と参照物）のような関係のドキュメントが両方ともコピー元のプロジェクト内に含まれている場合、コピーされた派生物（もしくは参照物）がコピーされた派生元（もしくは参照元）を派生元となるようにリンクを張り替えてコピーするものです。

通常のファイルコピー



拡張コピーによるファイルコピー



3-6 キーワード設定

キーワードとは、プロジェクトやドキュメントに設定することができる管理用の属性項目のことです。**crossnote**にはいくつかのキーワードが予めプロジェクト・キーワードやドキュメント・キーワードとして定義されています。

キーワードにはプロジェクトに対する属性を設定するための「プロジェクト・キーワード」と、ドキュメント毎に属性を設定するための「ドキュメント・キーワード」があります。

キーワードのうち、ドキュメント・キーワードでかつ「ドキュメント作成時に入力項目とする」をチェックしたキーワードは、プロパティ画面やドキュメントの一覧・編集予定画面などでドキュメントの属性として自動的に追加表示されますので、ドキュメントを識別するために便利です。

ドキュメント・キーワードを入力項目とした場合の「ドキュメントの一覧・編集予定」画面の例

一覧・編集予定(プロジェクト2) ✕

ドキュメントの一覧・編集予定

● 全ドキュメント ○ 編集予定 ○ 編集担当 ○ レビュー担当

ドキュメント	▼ ステータス	▼ 担当チーム	▼ 担当状態	▼ 終了予定日	▼ 担当者
概要設計書	作成中	要件定義チーム	担当中	2016/08/31	ユーザー-1
アプリケーション開発ガイド	作成中	要件定義チーム	担当中	2016/09/30	ユーザー-1

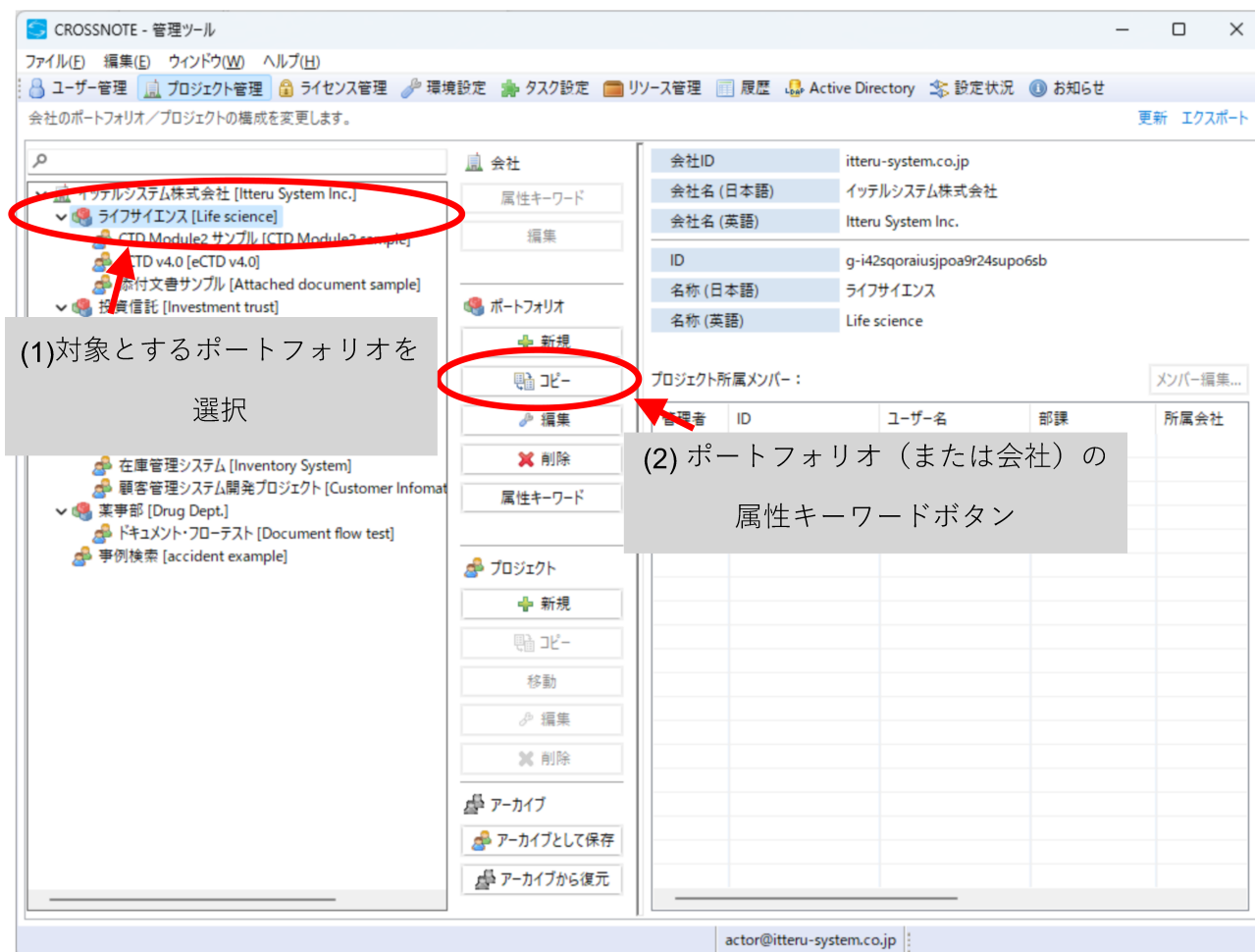
入力項目としたドキュメント・キーワードが自動的に追加される

admintoolでは会社全体で使うキーワード、およびポートフォリオ単位で使うキーワードなどを階層的に定義することができます。

- ◆ 会社で定義したキーワード
 - すべてのプロジェクトで利用可能
- ◆ ポートフォリオで定義したキーワード
 - 対象のポートフォリオ以下に所属するプロジェクトで利用可能

さらにキーワードの定義と同時にキーワードの値を設定することもできます。上位階層で定義された値は規定値として引き継がれます。規定値は途中の階層で上書きして変更することが可能です。

設定する対象のポートフォリオを選択し、それに応じた「キーワード編集」を押すとキーワードの設定画面が開きます。



ボタンを押すと、以下のようなキーワードを編集する画面が表示されます。

プロジェクト・キーワードの設定画面

キーワード

キーワードを編集してください。
編集対象の会社／ポートフォリオに独自項目を追加できます。
グレーアウトされている部分（上位階層やシステム標準の項目名、種類など）は編集できません。

プロジェクト ドキュメント

カテゴリ/項目名	値	既定値	種類	必須
イッテルシステム株式会社	--	--	--	--
会社	--	--	--	--
会社名		イッテルシステム株式...	文字列	いいえ
Company name		Itteru System Inc.	文字列	いいえ
会社略称		イッテルシステム	文字列	いいえ
Company name(abb		Itteru System	文字列	いいえ
著作権表示		このドキュメントはイ...	文字列	いいえ
Copyright		(C) 2007, Itteru Sys...	文字列	いいえ
著作権表示・長文		このドキュメントはイ...	文字列	いいえ
Copyright(long)		(C) 2007, Itteru Sys...	文字列	いいえ
会社（カスタム）	--	--	--	--
プロジェクト・マネー			メンバ	いいえ
Project manager			メンバ	いいえ
システム名			文字列	いいえ
System name			文字列	いいえ

☐ 値、既定値が未設定の項目を表示しない

新規(N) 編集(E) 削除(R)

OK キャンセル

上記の例で規定値に表示されている値は、上の階層（例えば会社のプロジェクト・キーワードとして）で定義されたものです。

タブにより、「プロジェクト・キーワード」の設定画面と「ドキュメント・キーワードの設定画面」が切り替わります。

ドキュメント・キーワードの設定画面

キーワード

キーワードを編集してください。
編集対象の会社／ポートフォリオに独自項目を追加できます。
グレーアウトされている部分（上位階層やシステム標準の項目名、種類など）は編集できません。

プロジェクト ドキュメント

カテゴリ/項目名	値	既定値	種類	必須
イッテルシステム株式会社	--	--	--	--
会社	--	--	--	--
会社（カスタム）	--	--	--	--
プロジェクト	--	--	--	--
産業システム本部	--	--	--	--
ポートフォリオ	--	--	--	--
ドキュメント管理	--	--	--	--
版番号		--	文字列	はい
lang	ja	--	リスト	はい

☐ 値、既定値が未設定の項目を表示しない

新規(N) 編集(E) 削除(R)

OK キャンセル

設定画面の「カテゴリー／項目名」には上記の階層で定義されている項目と、対象のポートフォリオで追加定義している項目が表示されています。フォルダのアイコンは、キーワードのカテゴリーです。

- ◆ 値を変更する場合には、表の値の欄をクリックして編集し、**OK**ボタンを押します。
- ◆ キーワードを追加したい場合には、「新規」ボタンを押します。
- ◆ 定義の並び順を変更したい場合には、対象の項目を選んで右側の△▽で上下させ、**OK**ボタンを押します。

キーワードを新規に追加する場合には、以下のような項目定義画面から入力します。

ドキュメント・キーワードの項目定義画面

項目定義

×

カテゴリー：

ドキュメント属性

項目名：

lang

種類（入力方法）：

☐ 文字列を入力する

☐ 数値を入力する

☐ 日付を入力する

☐ 時刻を入力する

☐ プロジェクト・メンバを選択する

☒ 候補リストを選択する

ja

en

新規(N)

編集(E)

削除(R)

↑

↓

☐ 未選択状態を許す

☐ ドキュメントを選択する

☐ 改訂バージョンを入力する

☐ カスタム（外部プラグインによる設定）

☒ 管理画面等でプロジェクトの属性として表示する（必須とする）

OK

キャンセル

キーワードの種類（入力方法）は以下の通りです。

キーワードの種類

種類（入力方法）	説明
文字列を入力する	テキスト・フィールドから文字列を入力します。
数値の入力する	テキスト・フィールドから数値を入力します。

(C) 2026, update it, Inc.. All rights reserved.

-52/144-

日付を入力する	日付を入力します。入力補助としてカレンダーから日付を選択入力することができます。
時刻を入力する	日時を入力します。入力補助としてカレンダーから日時を選択入力することができます。
プロジェクト・メンバーを選択する	プロジェクトにアサインされているメンバーをリストから選択できます。
候補リストを選択する	リストから選択します。予め設定した候補以外の入力はありません。
ドキュメントを選択する	入力補助からドキュメントを選択します。なおcrossnoteのURI形式で入力することも可能です。
改訂バージョンを入力する	改訂バージョンを入力します。
カスタム	外部プラグイン導入時に指定された場合に利用します。

ドキュメント・キーワードの場合、「ドキュメント作成時に入力項目とする」をチェックしておくと、以下のようになります。

- ◆ ファイルの作成時の画面に入力項目として追加されます。
- ◆ ファイルを選択したときに下に表示されるプロパティ**View**において
 - 「情報」タブに管理項目として追加されます。
 - 「類似ファイル」タブに項目が追加表示されます。
- ◆ ドキュメントの一覧・編集予定画面でドキュメントの属性として追加表示されます。

注意：一度定義して入力された属性キーワードは、属性キーワードの定義を削除しても値が残ります。（定義の削除後も設定情報のファイル属性などに表示されます）

3-7 プロジェクトの公開設定について

crossnoteにはドキュメント・ステータスを「公開」にした場合に自動的に対象ファイルを外部に公開する機能があります^{注1}。

詳しくは[プロジェクトの登録](#)を参照してください。

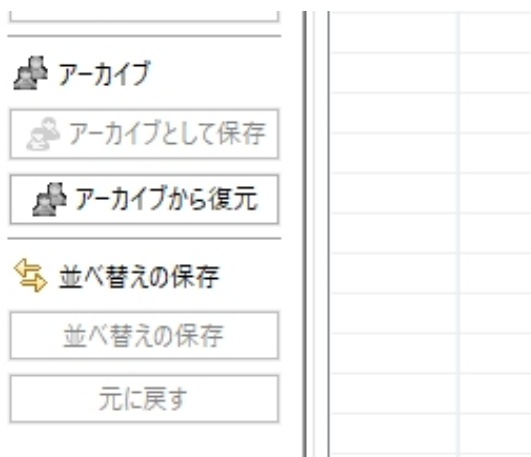
ファイルの公開設定の種類	内容
非公開	公開しない。
Webで公開	ファイルをWebでアクセスできる形で公開する。
ファイル共有で公開	ファイルを共有フォルダの上に置いて公開する。ファイル共有が使えるオンプレミス環境の場合にのみ利用可能。
FTPで公開	ファイルを他のサーバーにFTP転送して公開する。必要なパラメータを予め設定してある環境でなければ使用できない。

注1 ただし利用環境により利用できる種類に限りがあります。

3-8 ポートフォリオ・プロジェクトの並び替え

自動ソートの設定がOFFの場合、プロジェクト管理上でポートフォリオ・プロジェクトを並び替えることができます。（設定値の変更については、[\(5\) Smart View機能（ドキュメントを編集集中の時に、ワークスペースから関連しない機能を自動的に隠す機能）をデフォルトとする。](#)を参照してください。）

並び替えが実行可能な場合、以下の画像のように[並び替えの保存]という項目が追加されます。これらが表示されていれば、管理者はD&D操作によって順番を並び替えることが可能です。



並び替え機能には、以下の制約が存在します。

- ◆ ポートフォリオは、同列のポートフォリオ同士でのみ並び替えが可能。
- ◆ プロジェクトをポートフォリオの上位に並べることはできない。
- ◆ 並び替え中に並び替え以外の機能を実行することはできない。

並び替えが完了した場合は、[並び替えの保存]を押下してください。ボタン押下を以て、結果を反映します。並び替えを取り消したい場合は、[元に戻す]を押下してください。

4 ライセンス管理

4-1 crossnoteにおけるライセンス管理の仕組み

crossnoteはサーバーに弊社から提供するライセンス・ファイルを配置することで、一定期間、指定されたユーザー数だけcrossnoteを利用できるようになります。

ユーザー数の数え方は以下の通りです。

- ◆ 毎日0:00AM^{注1}から利用ユーザー数を積算し、ライセンス・ファイルに設定されたユーザー数に達した場合、それ以上ログインできなくなります。（それまでログインしていたユーザーはそのまま使い続けることができます）
- ◆ 0:00AMを過ぎた時点で、当日の積算ユーザー数は0クリアされます。
- ◆ ユーザー数は端末ごとに数えます。同じユーザーIDであっても、別の端末から利用している場合には別のユーザーとしてカウントされます。
- ◆ ライセンス・ファイルを越える数のユーザーを定義することが可能です。
- ◆ 追加機能ライセンスは使用するユーザー分必要です。当日利用ユーザーのカウントはcrossnoteの各エディションライセンスのみに適用されます。
- ◆ AdminTool用の管理者ユーザーはライセンス数としてカウントしません。（crossnoteは使用できません）

ライセンスの更改期には、弊社からライセンス・ファイルを送付しますので、これを crossnoteサーバーの以下の場所に置き、サーバーのtomcatユーザーから読める権限設定をしてください。

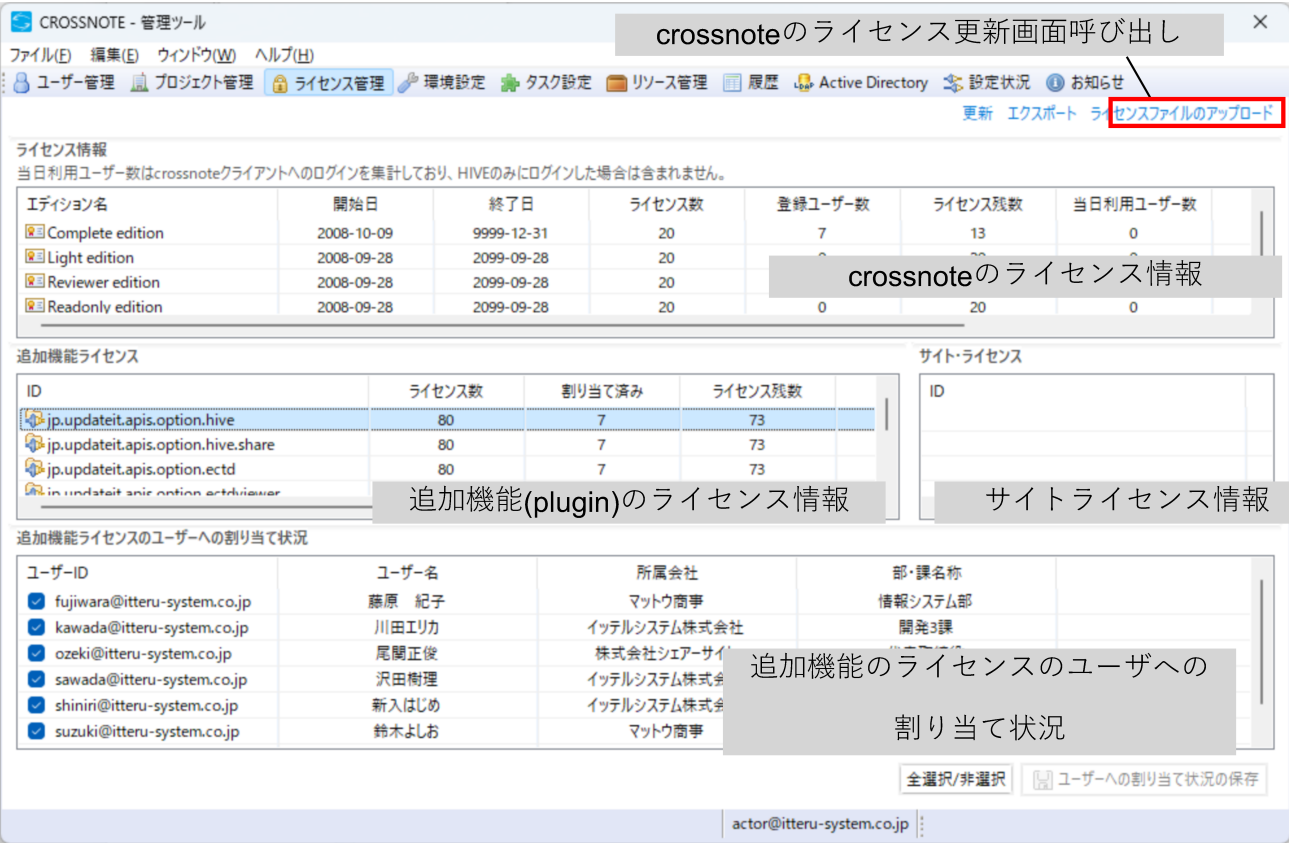
`/var/crossnote/storage`

通常は1分以内でcrossnoteサーバーがライセンス情報を読み直し、再設定します。なお、もしうまく更新されていないようであれば、ライセンスファイルの更新日時を、touchコマンドなどを用いて変更してください。

注1 これはサーバーの置いてある場所におけるローカルタイムです。

4-2 ライセンス管理画面について

ライセンス管理画面は以下のような構成になっています。



ライセンス情報の項目は以下の通りです。

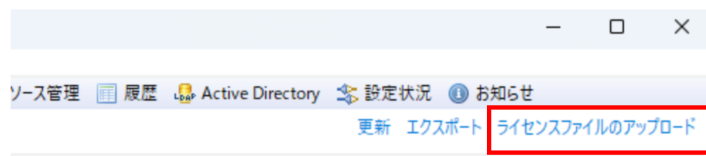
ライセンス情報の項目

項目名	説明
エディション名	エディション
開始日	ライセンス・ファイルの有効期限の開始日。
終了日	ライセンス・ファイルの有効期限の終了日。ここに指定された日付の0:00AM（サーバー設置場所のローカルタイム）にライセンスが終了したと判断される。
ライセンス数	ライセンスされた利用可能ユーザー数

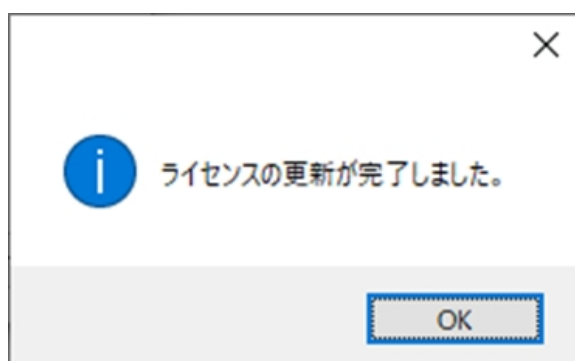
登録ユーザー数	admintoolに登録されたユーザー数
ライセンス残数	ライセンス数から登録ユーザー数を引いた数
当日利用ユーザー数	当日0:00AMから積算した利用ユーザー数

4-3 ライセンス更新について

ライセンス有効期間内にライセンス更新を行いたい場合、ライセンス管理画面の「ライセンスファイルのアップロード」をクリックし、ライセンス更新画面を呼び出して行います。



以下のようなライセンス更新画面が呼び出されます。表示内容に間違いがなければ、OKを押します。「更新完了」ポップアップが表示されたら、更新完了です。

A screenshot of a 'ライセンス更新' (License Update) dialog box. The title bar says 'ライセンス更新'. The main text says '選択したファイル、入力したユーザーパスワードに間違いがなければ、OKを押してください。' (If there are no errors in the selected file or the entered user password, please press OK). There are four input fields: 'プロフィール:' (Profile), 'サーバー:' (Server), 'ライセンス:' (License), and 'パスワード:' (Password). The 'プロフィール:' field contains a redacted string. The 'サーバー:' field contains 'http://' followed by a redacted string. The 'ライセンス:' field contains 'C:\Users\%redacted%\dummy' and a '選択' (Select) button. The 'パスワード:' field contains three black dots. At the bottom right are 'OK' and 'Cancel' buttons.

4-4 追加機能ライセンスについて

ライセンス・ファイルには追加機能についてのライセンスが設定されている場合があります。設定されている場合、追加機能ライセンスの欄にその一覧が表示されます。

追加機能ライセンスは静的に対象ユーザーへ割り当てを行います。指定されたユーザーのみが対象の追加機能を利用することができます。

追加機能ライセンスの項目は以下の通りです。

追加機能ライセンスの項目について

項目	説明
ID	追加機能ライセンスをあらわすPlug-in ID
ライセンス数	ライセンスされた利用可能ユーザー数
割り当て済み	ライセンスを割り当てたユーザー数
ライセンス残数	ライセンス数から割り当て済みを引いた数
備考	

追加機能ライセンスの行を選択すると、下にその追加機能におけるユーザーへの割り当て状況が表示されます。

追加機能ライセンス

ID	ライセンス数	割り当て済み	ライセンス残数
 jp.updateit.apis.option.contactreport2	100	0	100
 jp.updateit.apis.option.hive	200	3	197
 jp.updateit.apis.option.hive.share	200	3	197
 jp.updateit.apis.option.ectd	80	0	80
 jp.updateit.apis.option.ectdviewer	80	0	80

< >

サイト・ライセンス

ID

< >

追加機能ライセンスのユーザーへの割り当て状況

ユーザーID	ユーザー名	所属会社	部・課名称
☒ user1@sample.com	ユーザー-1	サンプル株式会社	スタッフ
☒ user2@sample.com	ユーザー-2	サンプル株式会社	スタッフ
☒ user3@sample.com	ユーザー-3	サンプル株式会社	スタッフ
☐ user4@sample.com	user4	サンプル株式会社	system administrator

全選択/非選択

 ユーザーへの割り当て状況の保存

チェックが付いたユーザーがライセンスを割り当てられたユーザーです。変更すると「ユーザー

への割り当て状況の保存」ボタンが活性化しますので、押すと保存されます。

追加機能ライセンスはライセンス数を越えて割り当てることはできません。

4-5 サイトライセンスについて

追加機能の中には、サイトライセンスという形で提供されるものもあります。サイトライセンスはライセンス形態の一種で、会社で1つ契約すればその会社のユーザーは原則全員が利用できるようなになるというものです。（会社の判断で利用制限をしない限り）

追加機能ライセンスと異なり、ユーザー毎のライセンス数といった概念はありません。

5 環境設定

5-1 環境設定で出来ること

環境設定メニューでは会社全体の利用方法に関わる各種の設定を行うことができます。設定できる項目は以下の通りです。

環境設定の項目一覧

項目	説明
ユーザ設定	一般ユーザがシステム管理者(admintoolを使うことができるユーザ)を兼ねることができるようにします。
グローバル・ワークグループ	複数のプロジェクトにまたがったワークグループを設定できます。
役割・権限	プロジェクトメンバーの編集画面で指定する役割と、その役割が持つ権限の追加・変更ができます。
ドキュメント・ステータス	作成中、承認待ち、承認済などといった、ドキュメントの状態を追加・変更することができます。
タグ	ファイルに追加情報をタグ付けすることができ、ここでタグの追加・変更ができます。
言語	会社全体の言語設定を指定します。
セキュリティ設定	パスワードの強度など、セキュリティ関連の項目を設定します。
URLリンク	ヘルプメニューに表示される「お知らせ」の名前やリンク先のURLを設定し、会社独自のページを用意することができます。日本語・英語でのお知らせページを切り替えるといった場合に設定します。
メニュー設定	※カスタム・メニューエディションのライセンスが設定されている場合のみ利用できる機能です。 利用可能なメニューをグループ化したものがエディションであり、ここでは利用可能なメニューを選択して独自のエディションをメニュー設定として作成できます。各ユーザーのクライアント・エディション選択時に、作成したメニュー設定を適用することができます。

クライアントアプリケーション 設定	crossnoteクライアントアプリケーションの動作を設定します。 ・ログイン後のホーム画面 ・コピー時のファイル名の扱い ・旧バージョンとの互換性設定（エディタでのレイアウト） ・ソフトウェアアップデートサイトの設定 ・自動ソート機能有効化の設定
crossnote Shareのセキュリティ ポリシー	crossnote Shareの外部ユーザに対するセキュリティポリシーを設定します。この項目はcrossnote Shareのライセンスがあり、かつサーバーのバージョンがver 2.1.2以上の場合にのみ表示されます。
レビューシステム（廃止）	レビューシステムを使う構成に移行する場合に設定します。この仕組みを利用するにはレビューのユーザにレビューシステムのライセンスが必要となります。この設定は一度設定してしまうと元には戻せませんのでご注意ください。

5-2 ユーザ設定

一般ユーザがシステム管理者(**admintool**を使うことができるユーザ)を兼ねることができるようにする場合、設定してください。なおこの機能を使うにはサーバー/クライアントが**ver 2.1.2**以上である必要があります。

ユーザ設定

☐ 一般ユーザがシステム管理者(Admintoolを使うことが出来るユーザ)を兼ねることが出来るようにする

5-3 グローバル・ワークグループ

グローバル・ワークグループとは、複数のプロジェクトにまたがるワークグループです。一般にユーザをプロジェクトに所属させる場合、次の2つの方法があります。

- 1 プロジェクト毎にユーザをアサインする方法
- 2 ユーザをグローバル・ワークグループにアサインする方法

ユーザをグローバル・ワークグループにアサインした場合には、そのグローバル・ワークグループに設定されたプロジェクトに自動的に所属したことになります。

グローバル・ワークグループ

名前(第1言語)	名前(第2言語)	コメント(第1言語)	コメント(第2言語)	プロジェクト
test-gwg-1	test-gwg-1	for test	for test	テストプロジェクト 2
ワークグループ1-4	Workgroup 1-4	コメントですよ	This is comment.	テストプロジェクト 1

グローバル・ワークグループの追加

グローバル・

なおこの機能はadmintoolおよびサーバーがver 2.0以降の場合に利用できます。

■ グローバル・ワークグループの追加／設定確認・変更

「グローバル・ワークグループの追加」、もしくは「グローバル・ワークグループの設定確認・変更」ボタンを押すと以下のような画面が表示されます。

 グローバル・ワークグループの設定確認・変更 ×

グローバル・ワークグループの定義を入力してください。

名前(第 1 言語)

名前(第 2 言語)

コメント(第 1 言語)

コメント(第 2 言語)

▼ ☐  株式会社やすなか [Yasunaka Inc.]

▼ ☐  テスト [TEST]

☒  テストプロジェクト 1 [Test project 1]

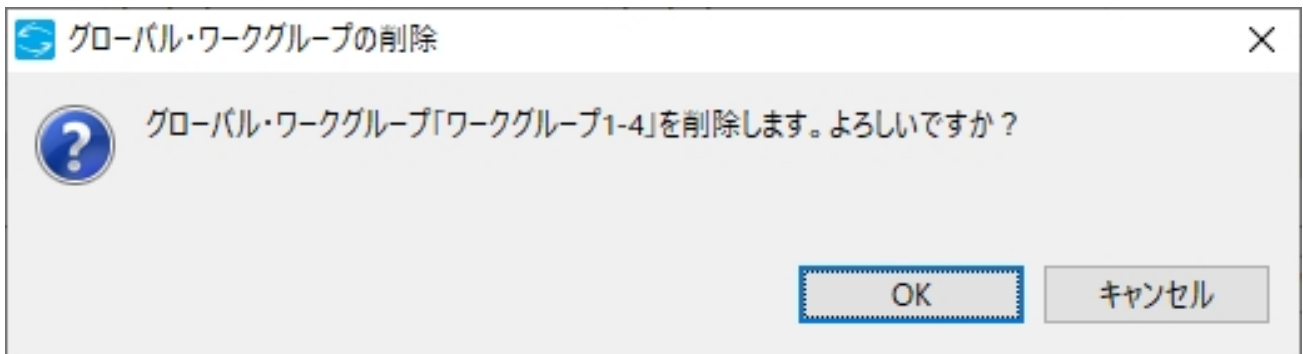
☐  テストプロジェクト 2 [Test project2]

☐  テストプロジェクト 3 [Test project3]

グローバル・ワークグループの名前、コメント、および対象のプロジェクトを設定します。

■ グローバル・ワークグループの削除

対象のグローバル・ワークグループを選択し、「グローバル・ワークグループの削除」ボタンを押すと、確認の画面が表示され、OKを押すと削除されます。



グローバル・ワークグループを削除すると、そこに所属していたユーザーも対象のプロジェクトへの所属が解除されます。

5-4 役割・権限

プロジェクトにメンバーをアサインする際、各メンバーがプロジェクトの中でどのようなことが実行できるのか、役割を指定することで設定していました。

(設定方法は[プロジェクトへのユーザーのアサイン](#)参照)

環境設定では、役割の名前や役割が持つ権限を定義することができます。

デフォルトでも承認者、作成者、レビューといった役割が用意されていますが、よりきめ細かく役割を分けたい場合に利用してください。

名前(第1言語)	名前(第2言語)
プロジェクトアドミニストレータ	Project administrator
承認者	Approver
作成者	Worker
レビュー	Reviewer
外部参照者	Viewer

役割の追加 役割の変更 役割の並び替え 各役割に対する権限の変更

■ 役割の追加・変更

役割の追加を押すと以下のようなダイアログが表示され、第1言語、第2言語の名前を設定すると新たな役割が作成されます。ダイアログにもある通り、一度作成した役割は削除できませんのでご注意ください。

 役割の追加

設定済みの役割は名称の編集は可能ですが削除できませんので、ご注意ください。

第1言語

第2言語

OK キャンセル

役割の変更についても、同様のダイアログで既に存在する役割の名前を変更することができます。

■ 役割の並び替え

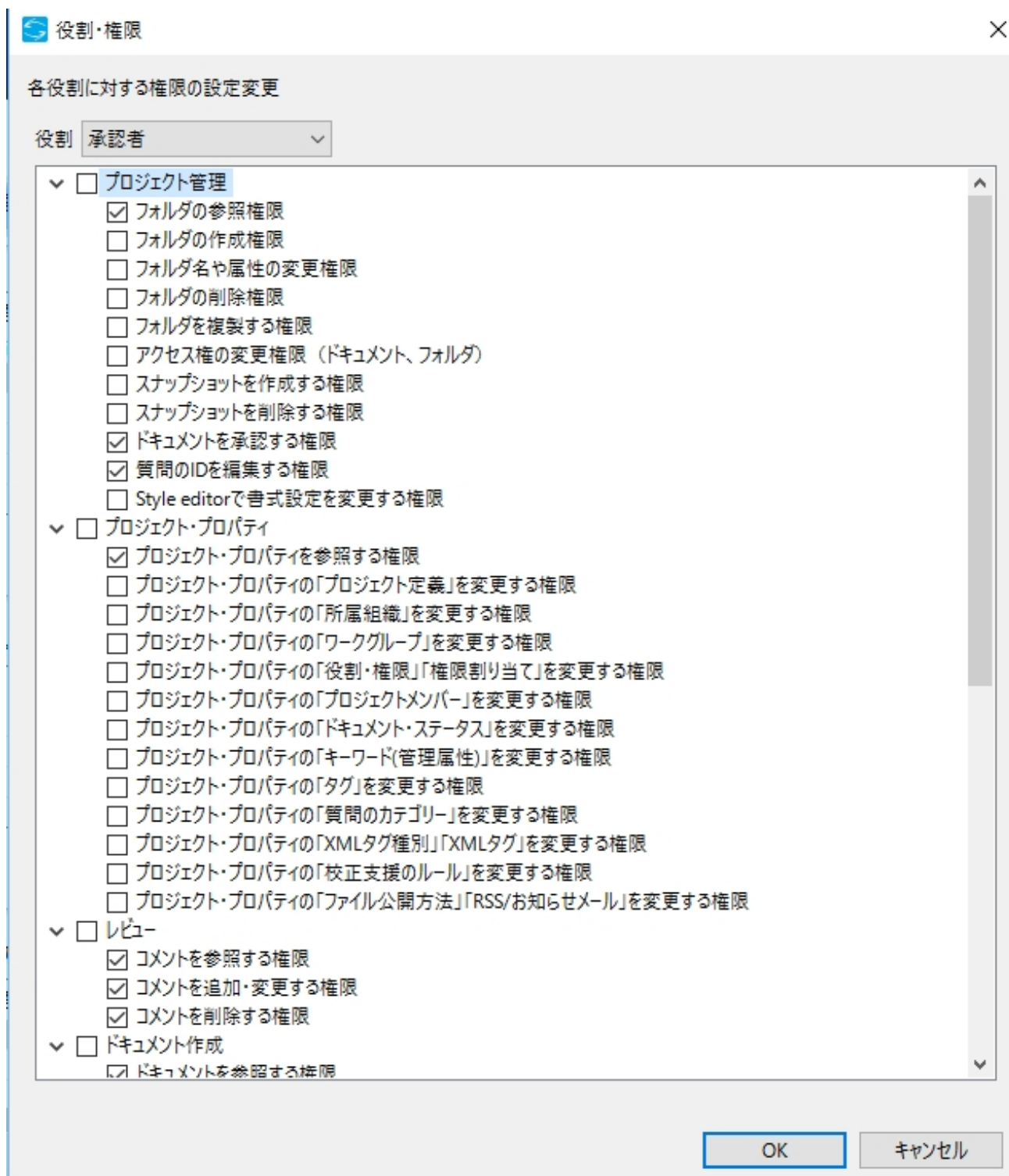
役割の並び替えを押すと、以下のようなダイアログが表示されます。

[illegible]

役割を選択して↑↓のボタンで順番を入れ替えます。入れ替えた順番はプロジェクトメンバーの編集画面等に反映されます。

■ 権限の変更

各役割に対する権限の変更を押すと、以下のようなダイアログが表示されます。



役割・権限

各役割に対する権限の設定変更

役割 承認者

- プロジェクト管理
 - ☒ フォルダの参照権限
 - ☐ フォルダの作成権限
 - ☐ フォルダ名や属性の変更権限
 - ☐ フォルダの削除権限
 - ☐ フォルダを複製する権限
 - ☐ アクセス権の変更権限 (ドキュメント、フォルダ)
 - ☐ スナップショットを作成する権限
 - ☐ スナップショットを削除する権限
 - ☒ ドキュメントを承認する権限
 - ☒ 質問のIDを編集する権限
 - ☐ Style editorで書式設定を変更する権限
- プロジェクト・プロパティ
 - ☒ プロジェクト・プロパティを参照する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「プロジェクト定義」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「所属組織」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「ワークグループ」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「役割・権限」「権限割り当て」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「プロジェクトメンバー」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「ドキュメント・ステータス」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「キーワード(管理属性)」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「タグ」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「質問のカテゴリ」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「XMLタグ種別」「XMLタグ」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「校正支援のルール」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「ファイル公開方法」「RSS/お知らせメール」を変更する権限
- レビュー
 - ☒ コメントを参照する権限
 - ☒ コメントを追加・変更する権限
 - ☒ コメントを削除する権限
- ドキュメント作成
 - ☒ ドキュメントを参照する権限

OK キャンセル

ここに表示されている権限に対して、チェックを入れるとその役割で実行することができるようになります。各ユーザーのクライアントでの操作に反映させるには、アップデートしてから再起動する

必要があります。

5-5 ドキュメント・ステータス

ドキュメント・ステータスは、作成中・承認待ちといった進捗情報や公開・非公開や編集可能・不可能の切り替えなど、ドキュメントの状態を管理するために使用します。環境設定では、ドキュメント・ステータスを新たに定義したり名前を変更したりできます。

ドキュメント・ステータス
Action IDがPUBLICのステータスはファイルの公開対象です。(プロジェクトが公開設定されている場合)

名前(第1言語)	名前(第2言語)	編集可	コメント(第1言語)	コメント(第2言語)	Action ID	タスク専用ステータス	表示	
作成中	Working	OK				いいえ	する	
公開	Public	OK				いいえ	する	
承認済	Approved	NG				いいえ	する	

ドキュメント・ステータスの追加 ドキュメント・ステータスの変更 ドキュメント・ステータスの並び替え

■ ドキュメント・ステータスの追加・変更

ドキュメント・ステータスの追加を押すと、以下のようなダイアログが表示されます。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

(6)

(7)

ドキュメント・ステータスの変更

ドキュメント・ステータス

日本語 英語

ドキュメントステータス名称 レビュー

☒ 編集可

公開範囲

公開範囲がPUBLICのステータスは、プロジェクト設定で指定したファイル公開方法にて公開対象となります。

日本語 英語

コメント

☐ タスク専用ステータス
チェックすると手動では変更できなくなり、タスクを介してのみ利用できるステータスとなります。

設定に必要な役割 (指定した役割のユーザのみがこのステータスに変更できます)

(設定なし)

解除に必要な役割 (指定した役割のユーザのみが他のステータスへ変更できます)

(設定なし)

解除に必要な役割や、設定に必要な役割を指定したステータスはファイル新規作成時には選択できません。

☒ 表示する(チェックを外すと一覧表示の対象外となります)

OK キャンセル

(1) ドキュメント・ステータスの名称を設定します。

(2) 「編集可」のチェックをはずすと、当該ドキュメント・ステータスのドキュメントは編集ができなくなります。

(3) 公開範囲はドキュメントの公開方法を設定するのに使用します。**PUBLIC**を選択すると、当該ドキュメント・ステータスのドキュメントは公開対象となります。どのような形で公開するかは、[プロジェクトの登録](#)を参照してください。

(4) 各ユーザーがステータスを変更する際の画面に表示させるコメントを付けることができます。どのような場合に当該ステータスを使うのかの補足情報や注意事項を必要に応じて記載してください。

(5) 「タスク専用ステータス」は、タスク機能と連動させる場合に使用します。主に、承認申請機能において、承認待ちや承認済といったステータスを承認フローと必ず連動させたい場合、タスク専用ステータスにチェックを入れると、承認機能を介してしかステータスを変更できなくなります。

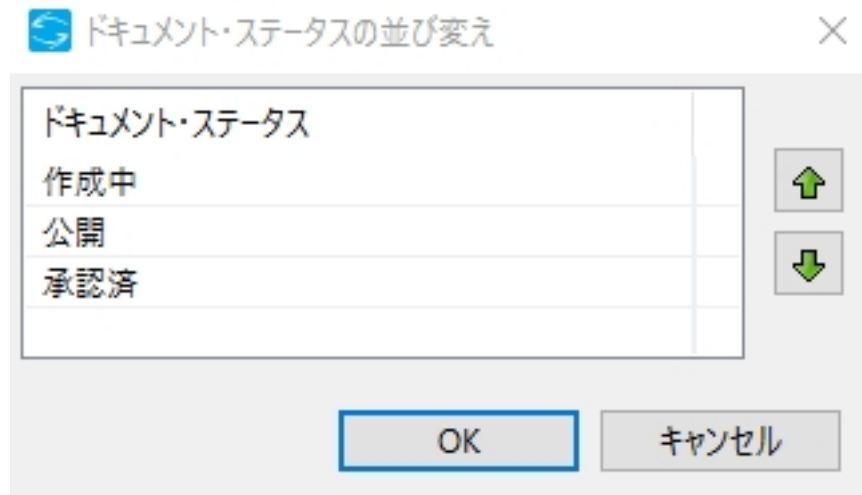
(5) 当該のドキュメントステータスを設定することができる権限と、当該のドキュメントステータスから他のドキュメントステータスに変更できる権限を指定することができます。

(7) 「表示する」のチェックを外すと、ユーザーがステータスを変更する際の選択肢に表示されません。一度作成したステータスは削除することができないため、使用しなくなったステータスは非表示としてください。

ドキュメント・ステータスの変更についても追加と同様の画面です。既に存在するステータスの定義を変更したい場合に使用します。

■ 並び替え

ステータスの表示順を変更する場合に使用します。



ステータスを選択して↑↓で順番を変更します。

5-6 タグ

ドキュメントの状態を管理するドキュメント・ステータスとは別の切り口でドキュメントを分類したい場合、ドキュメントにタグを付けることで分類することができます。

タグの利用方法はユーザー・マニュアルの[タグによる絞り込み](#)を参照してください。指定のタグが付加されたドキュメントのみをワークスペースに表示させるといった際に使用します。

環境設定では、タグの名称や新規追加などを行います。

タグ
ファイルを新規作成する際、タグの並び順で一番上にくるものがデフォルトのタグとなります。

名前(第1言語)	名前(第2言語)	表示
成果物	Deliverables	する
整理	Studies	する

タグの追加 タグの変更 タグの並び替え

■ タグの追加・変更

タグの追加を押すと、以下のようなダイアログが表示されます。

タグの追加

表示をしないとしたタグは一覧表示から除外されます。

第1言語

第2言語

☒ 表示対象とする

OK キャンセル

第1言語、第2言語に名前を入力し、OKを押すと新規のタグが作成されます。

表示対象とするのチェックを外すと、ユーザーがタグを選択する際に表示されません。一度作成したタグを削除することはできないため、使用しなくなったタグはタグの変更にて表示対象とするのチェックを外してください。

タグの変更についても、タグの追加と同じ画面で、既に存在するタグの名称変更や表示・非表示の設定を変更します。

■ 並び替え

並び替えについても、他の項目と同様に、ダイアログにて↑↓で順番を変更できます。

5-7 言語

会社全体の言語設定を行います。ここで設定した言語設定は、管理ツールやクライアントソフトのメニュー表示などの言語を切り替えるものではありません。プロジェクト定義や所属組織などのプロパティの項目に影響します。クライアントソフトの使用言語、ユーザーが入力した文字、ここでの言語設定で切り替わる項目はそれぞれ異なりますのでご注意ください。以下はクライアントソフトは日本語のまま、環境設定の言語設定第1言語と第2言語を英語にしてプロジェクトのプロパティを表示した例です。本設定において影響しているのは赤丸で囲まれた部分となります。

言語テストのプロパティ

プロジェクト定義

英語 英語

Project name 言語テスト

Project name(abbreviation)

プロジェクトWebページ

URL:

☐ Webページを起動時に開く

アクセス権

所有者グループ The whole of project

アクセス権の設定

元に戻す 適用

閉じる(C)

第1言語、第2言語それぞれについて、ドロップダウンメニューから選択し、言語設定の更新を押すと設定が変更されますが、反映するには再起動が必要であるため、再起動するかの確認ダイアログが表示されます。

言語

通常用いる言語 (=Lang 1 / ローカル言語) 、およびローカル言語が通じない場合のコミュニケーション用の共通言語(=Lang 2)を指定します。
言語設定はプロジェクト等にも行います。ここでの設定は会社全体としての設定で、たとえば「所属組織」プロパティでの使用言語などに影響します。

第1言語 ローカル言語を指定します。例えば日本の会社の場合には通常、日本語を指定します。

第2言語 英語など、ローカル言語が通じない場合のコミュニケーション用の共通言語を指定します。

言語設定の更新

5-8 セキュリティ設定

ここではセキュリティに関わる各種の設定を行います。

セキュリティ設定
FDA 21 CFR Part11対応などに必要なセキュリティ設定を行います。

(1) ☐ ユーザーの削除操作を禁止する (注意: この項目は一度設定すると戻せなくなります)

(3) ☒ オフラインでの利用を認める

(5) ☐ パスワードのセキュリティ要件を厳しくする

(4) ☒ crossnoteクライアントでのパスワードの保存を認める

(7) ☐ 多段階認証を必須とする

(6) ☒ 多段階認証の簡便化を許可する

(2) ☐ パスワードをメモリに保持する (通常はOFF。Pluginで必要な場合にのみONにすること)

Tips
パスワードのセキュリティ要件を厳しくすると、複雑なパスワード、および定期的なパスワード変更(90日毎)が必要となります。
なおパスワードのセキュリティ要件の設定はActive Directoryユーザーには影響しません。
多段階認証の簡便化を許可した場合、前回と同一クライアント、同一ユーザーで、かつ前回ログインから7日以内のアクセスの場合には多段階認証を設定していてもスキップします。

(8) ☐ セッション・タイムアウトを用いる 120 (分) (設定)

Tips
セッション・タイムアウトを指定すると、ネットワークを利用する機能を使わない状態でその時間を過ぎた場合、オフライン状態となります。
オンライン状態に戻すためにはパスワードの再入力が必要です。

(9) プロジェクトの有効期間(日数)のデフォルト値 [] (日数(または空白)) (設定)

Tips
プロジェクトの有効期日はプロジェクトのデータや監査用の履歴などを削除できなくする期間を指定するためのもので、プロジェクト毎に設定します。
プロジェクトを新規に作成する際、ここで指定した日数分だけ後の日付をプロジェクトの有効期日のデフォルト値とします。
この値が空白の場合、プロジェクトの有効期日はデフォルトでは設定されません。

(10) ファイル検証用キーの種類 検証用キー(SHA-1) (v)

(1) 「ユーザーの削除操作を禁止する」にチェックを入れると、管理ツールからもユーザーを削除することができなくなります。一度設定すると戻せなくなるため、ユーザー管理の運用方法を事前に良く検討の上、設定してください。

(2) 「オフラインでの使用を認める」にチェックを入れると、オフライン状態でログインできるようになります。ネット環境のない場所で作業を行う必要が想定される場合などにチェックを入れます。チェックが入ると、クライアントソフトのログイン時に☐オフラインで使用するにチェックを入れてログインすることができるようになります。(設定していないと、ログインに失敗します)

(3) 「パスワードのセキュリティ要件を厳しくする」にチェックを入れると、パスワード設定の際に3種類以上、合計8文字以上のパスワードが要求され、また、定期的なパスワード変更(90日毎)が要求されるようになります。

(4) 「crossnoteクライアントでのパスワードの保存を認める」にチェックを入れると、Webブラウザのようにパスワードをcrossnoteクライアント内に保存できるようになります。なおこの場合、パスワードは暗号化してPC内に保存されます。

(5) 「多段階認証を必須とする」にチェックを入れると、まだ多段階認証を設定していないユーザーがログインした時に多段階認証の登録画面に推移します。(ver 3.0以降)

(6) 「多段階認証の簡便化を許可する」にチェックを入れると、**crossnote**ユーザは前回と同一クライアント、同一ユーザで、かつ前回ログインから7日以内のアクセスの場合には多段階認証を設定していてもスキップされます。(ver 3.0以降)

(7) 「パスワードをメモリに保持する」は利用するプラグインでこれにチェックを入れるように指示がある場合のみお使いください。

(8) 「セッション・タイムアウトを用いる」にチェックを入れると、指定した分数の間ネットワークを利用していないとオフライン状態となり、ネットワーク利用時に再度ログインが必要となります。

(9) プロジェクトの有効期間のデフォルト値はデフォルトで空白となっていますが、日数を入力すると、プロジェクト毎に設定するプロジェクトの有効期間のデフォルト値（下限値）を設定することができます。有効期間の設定されたプロジェクトは、期間中に削除することができなくなります。

(10) ファイル検証用キーのアルゴリズムを指定できます。

5-9 URLリンク

URLリンクは、ヘルプメニューに掲載されているお知らせやマニュアルへのリンクについて、名前を変更したりリンク先を変更したりする場合に設定します。例えば、日本語用のマニュアルと英語用のマニュアルのリンク先を分けたい場合などに利用します。

URLリンク

URLリンクはlang毎に別々のURLを設定できます。
またURLリンクを設定しない場合には、crossnoteのデフォルトのURLが使用されます。

項目	名前	lang	URL	説明
お知らせ				お知らせはcrossnoteの起動時に該当のURLページが変更されたときに自動的に...
▼ マニュアル	マニュアル	ja	http://devsv06/manual/	crossnoteのマニュアルへのページを指定します。
最初にお読みください				ユーザーが最初に利用した際に開くページですが、変更しても有効に作用しません。...
リリースノート				crossnoteのバージョンアップ後に1回だけ開くページです。
品質管理(QMS)				品質管理用のページを指定します。

リンクの追加

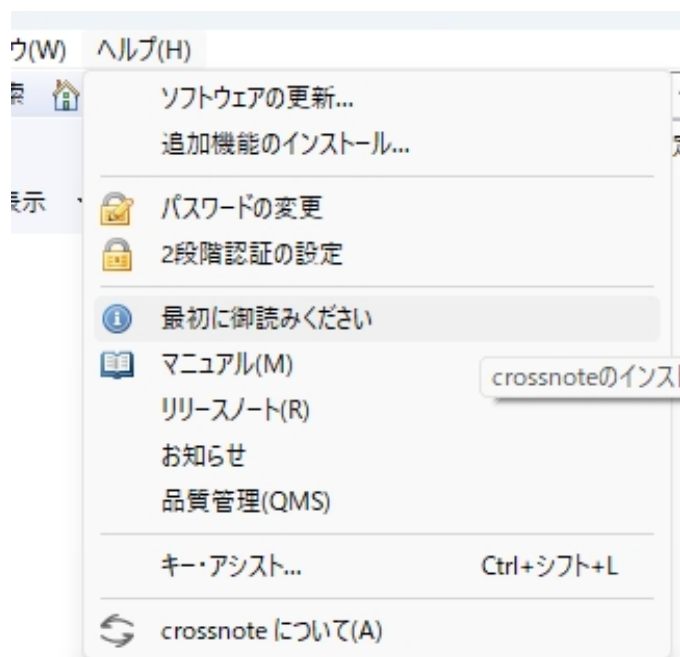
リンクの変更

リンクの削除

ここで設定を変更できる項目は5種類あります。

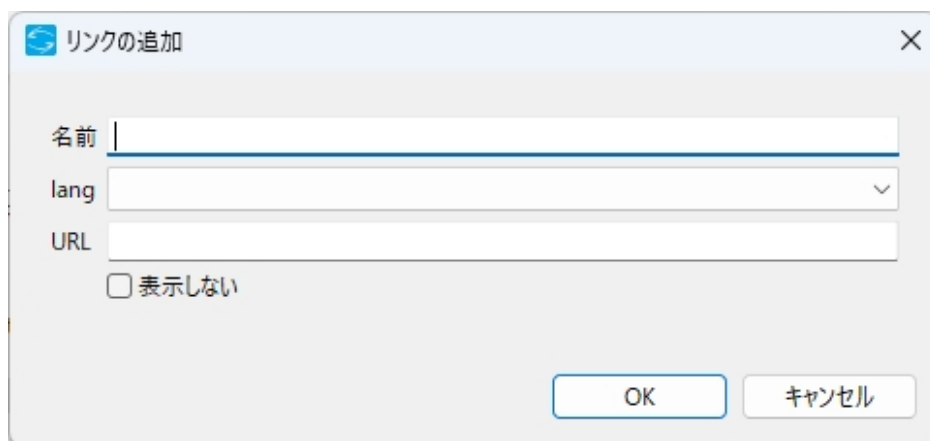
項目	内容
お知らせ	crossnoteの起動時に当該のURLページが変更された時に自動的に開きます。
マニュアル	crossnoteのマニュアルのページ
最初にお読みください	インストール直後に表示されるページです。変更しても有効に作用しませんのでご注意ください。
リリースノート	crossnoteのバージョンアップ後に1回だけ開くページです。
品質管理	品質管理用のページを指定します。

これらはcrossnoteクライアントのヘルプメニューの中にリンクがあります。



■ リンクの追加・変更

デフォルトで用意されているリンク先を変更する場合、変更したい項目を選択した状態でリンクの追加を押すと下のようダイアログが表示されます。



「名前」はメニューに表示させる名前、「lang」はクライアントソフトの言語設定に対応した使用言語、「URL」にリンク先のURLを指定します。

もしメニューに対象の項目を表示させたくない場合には「表示しない」にチェックを入れてください。なおマニュアルに対しては「表示しない」は使えません。

上記の設定変更をcrossnoteクライアント側に反映するには、crossnoteクライアントでアップデートをした上で再起動する必要があります。

リンクの変更についても、追加と同じ画面で、既に存在するリンクの情報を変更します。

リンクの削除については、作成したリンクを選択した状態でリンクの削除を押すと確認ダイアログが表示されますので、**OK**を押すとリンクが削除されます。1つもリンクがない場合はデフォルトのものが適用されます。

なお、同じ言語に対して複数のリンクを設定しても、リンクが適用されるのは最後に作成した1つのみとなりますのでご注意ください。

5-10 メニュー設定

本設定はカスタム・エディションをご契約の場合にのみ設定できます。ユーザーが使用できる機能・メニューは権限設定などで制限を掛けることもできますが、そもそもメニューに表示させたくないといった場合には、使用できる機能・メニューのレベルでカスタマイズする必要があります。使用できるメニューはエディションの単位で管理しており、コンプリートエディションなど通常のはメニューが固定されています。カスタム・エディションを利用すると、本設定によりメニューをカスタマイズすることができ、いわば任意のエディションを作成することができます。ここで作成したメニュー設定をユーザーの新規作成や修正時に適用することで、特定のユーザーグループには限られたメニューしか表示させない、といったことが実現できます。

メニュー設定

業務に合わせて必要のないメニューを外します

名前(第1言語)	名前(第2言語)	
ライター用メニュー	writer menu	

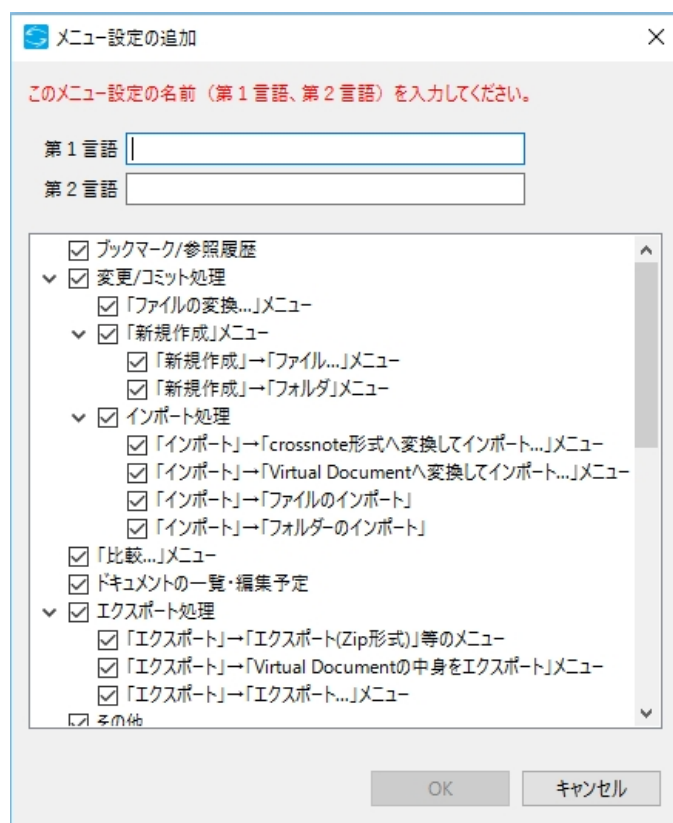
メニュー設定の追加

メニュー設定の変更

メニュー設定の削除

■ メニュー設定の追加・変更・削除

メニュー設定の追加を押すと、以下のようなダイアログが表示されます。



様々なメニューに対して、使用する・しないを設定できます。メニューは階層構造となっていますので、親のメニューのチェックボックスをクリックすると子のメニューすべてのチェックが切り替わります。もちろん部分的にチェックを外すこともできます。

メニュー設定の変更についても、追加と同じ画面にて、既に作成されたメニュー設定を変更します。

メニュー設定の削除については、選択したメニュー設定を削除します。1人でも当該メニュー設定が割り当てられているユーザーがいると削除はできませんので、ユーザー管理の修正にてクライアント・エディションの項目から該当者のエディションを変更した後、メニューの削除を実行してください。

5-11 クライアントアプリケーション設定

クライアントアプリケーション設定

crossnoteクライアントの動作の設定します。なおこの設定はユーザの初回利用時には反映されません。

☒ ログイン後にホーム画面を開く

☒ コピー時に同じファイル名が存在している場合に、数字部分を+1する

☐ crossnoteドキュメントのEditorに旧レイアウト設定を用いる (旧レイアウト設定の場合、ディスプレイのフォント設定変更の影響を受けやすくなります)

☐ crossnoteドキュメントをPDFエクスポートする際、テキストのサイズを以前のバージョン(ver 2.1.6以前)の状態に戻す

☐ Smart View機能(ドキュメントを編集中の時に、ワークスペースから関連しない機能を自動的に隠す機能) をデフォルトとする

☐ Portfolio/Projectの表示順番を自動的にソートする。

☐ ファイルの表示順序を自動的にソートする (※ユーザによる変更可)

☒ 変換されたファイルの操作履歴を扱う (※ ONにするとver 1.9.5以前のクライアントではエラーが発生する場合があります)

Tips

Portfolio/Projectの表示順番を手動で変更する場合、チェックを外したのち「プロジェクト管理」上から並べ替えを実施してください。また、本項目を再度チェックした場合、並べ替え情報は消去されます。

デフォルトフォントの設定

プラットフォーム	デフォルトフォント	デフォルト英数字フォント名	デフォルトフォント(明朝/Serif)	デフォルト英数字フォント名(明朝/Serif)
Windows	游ゴシック	游ゴシック	游明朝	游明朝
MacOS	YuGothic	YuGothic	YuMincho	YuMincho
Linux	Noto Sans CJK JP	Noto Sans CJK JP	Noto Serif CJK JP	Noto Serif CJK JP

デフォルトフォントの追加

Tips

(明朝/Serif)のフォントは明朝体/Serif系のフォントが指定されているときに、それがPCにインストールされていない場合に用いられるフォールバックフォントです。
デフォルトフォントの設定はプラットフォーム(Windows/MacOS/Linux/Chromebook)毎に設定できます。特定のプラットフォームによらない場合は「特定せず」とします。

(1) ログイン後にホーム画面を開く

チェックされている場合、crossnoteクライアントの起動直後にホーム画面を自動的に開きます。デフォルトはONです。

(2) コピー時に同じファイル名が存在している場合、数字部分を+1する

crossnoteクライアントでファイルをコピーした時の挙動は以下のようになります。

コピー時のファイル名

設定状態	説明	例
------	----	---

チェック	ファイル名に数字を含む場合、数字部分を+1する	「テスト文章」をコピーして貼り付けた場合、以下になる。 「コピー～テスト文章」 「コピー(2)～テスト文章」 「テスト文章1.0」をコピーして貼り付けた場合、以下になる。 「テスト文章2.0」 「テスト文章3.0」
非チェック	ファイル名に数字を含む、含まないに関わらず、「コピー」を付加する形式の名前に変更する	「テスト文章」をコピーして貼り付けた場合、以下になる。 「コピー～テスト文章」 「コピー(2)～テスト文章」 「テスト文章1.0」をコピーして貼り付けた場合、以下になる。 「コピー～テスト文章1.0」 「コピー(2)～テスト文章1.0」

(3) crossnoteドキュメントのEditorに旧レイアウト設定を用いる

crossnoteのver 1.9.0以前のバージョンではディスプレイの解像度を変更した際にテキストの折り返し位置が変わってしまっていました。この問題に対処するため、crossnoteのver 1.9.0のメンテナンスリリース#2（2019年2月18日リリースバージョン）において、Editorのレイアウト設定部分を更新し、ディスプレイの解像度を変更しても影響を受けにくくなるようにしました。

旧バージョンのレイアウト設定のまま利用した場合には、この項目をチェックすることで旧レイアウトを保つことができます。（ただしこの場合、ディスプレイの解像度を変更した場合の影響を受けやすくなります）

(4) crossnoteドキュメントをPDFエクスポートする際、テキストのサイズを以前のバージョン(ver 2.1.6以前)の状態に戻す

crossnoteのver 2.1.7においてPDFエクスポートの際のテキストのサイズをcrossnote上での表示に近づける修正を行っていますが、過去の出力結果との整合性の問題からこの修正の影響が出ないようにしたい場合、チェックしてください。

(5) Smart View機能（ドキュメントを編集の時に、ワークスペースから関連しない機能を自動的に隠す機能）をデフォルトとする。

Smart View機能はドキュメントを編集する際に、ワークスペースには編集のドキュメントのみを表示するようにする機能で、余計な項目が表示されなくなります。ただし編集ではない他のドキュメントを参照したい場合、ワークスペースの「すべて表示」を選択する必要があります。

このSmart View機能は各ユーザ毎に設定を変えることができます（「ウィンドウ」→「設定」→「一般設定」→「ワークスペースのフィルタ機能(Smart View設定)」）。ここでは全体としてのデフォルトとして、ON/OFFどちらの状態にしておくかを設定することができます。

(6) Portfolio/Projectの表示順番を自動的にソートする

crossnoteのver 1.9.3（2019年9月末リリースバージョン）から、ポートフォリオ・プロジェクトの並び順について、管理者による一括管理・操作ができるようになりました。

本項目をOFFにすると、プロジェクト管理画面から順番の並び替え機能が追加されます（操作方法は[3-8 ポートフォリオ・プロジェクトの並べ替え](#)参照）

従来通りの並び順を戻したい場合は、本項目を再度ONに戻してください。ONに戻した時点で、すべての利用者の画面に対して自動的にソートするようになります。その際、手動で並び替えた順番は、再度OFFにして復元することができます。（本項目のデフォルト値はONです）。

(7) ファイルの表示順序を自動的にソートする

ワークスペースにおけるファイルの表示順序のデフォルト設定を指定します。なおワークスペースにおけるファイルの表示順序は各ユーザ毎に設定を変えることができます。

(8) 変換されたファイルの操作履歴を扱う

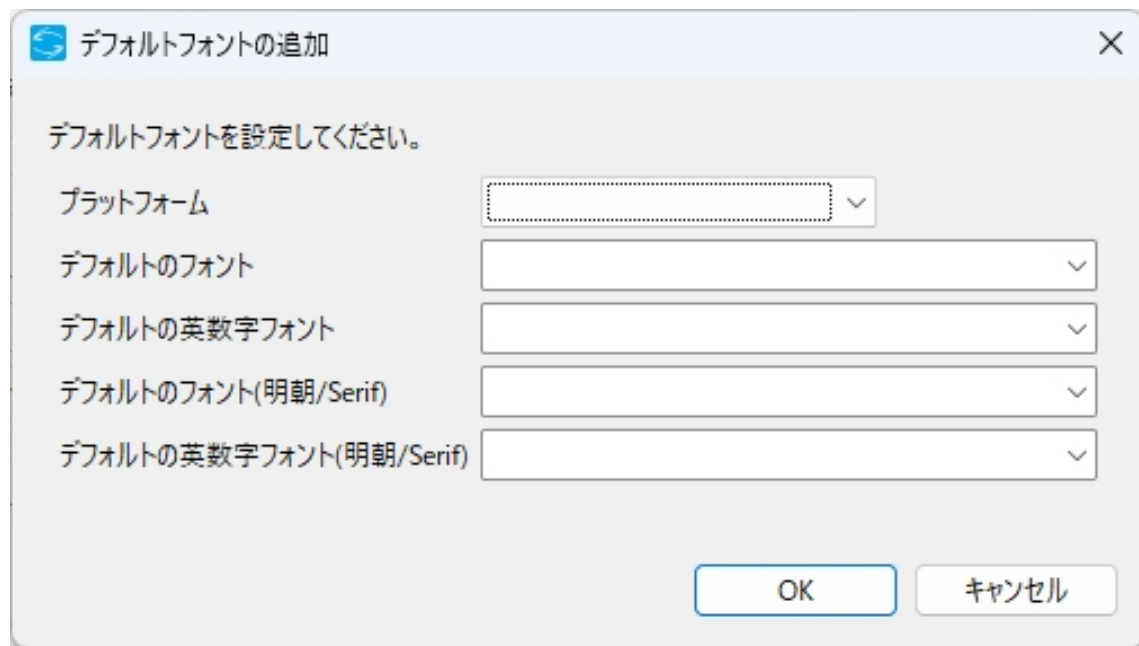
この機能は変換されたファイルを開いた場合に、それを操作履歴に含めるかどうかを指定します。この機能をONにした場合、**ver 1.9.5**以下の**crossnote**クライアントではエラーが発生する場合がありますので、必ずすべてのクライアントが**ver 1.9.5**以上である状態で利用してください。

(9) デフォルトフォントの設定

デフォルトフォントとは、テンプレートなどにおいてフォント設定が行われていない場合に用いられるフォントです。また実行環境に指定されたフォントがインストールされていない場合にも用いられます。**ver 2.X**まではデフォルトフォントは指定方法がなく、**Windows**環境では「**MSゴシック**」のように決まっていたましたが、**ver 3.0**以降ではプラットフォームごとにデフォルトフォントが指定できるようになりました。

項目	説明
プラットフォーム	対象とするプラットフォーム Windows / MacOS / Linux / Chromebook / 特定せず
デフォルトフォント	日本語文字列に対する基本とするデフォルトフォント
デフォルト英数字フォント	英数字に対する基本とするデフォルトフォント
デフォルトフォント(明朝/Serif)	指定されているフォントがインストールされていない場合において、元のフォントが明朝/Serifだと判定した場合に用いるデフォルトフォント
デフォルト英数字フォント(明朝/Serif)	指定されているフォントがインストールされていない場合において、元のフォントが明朝/Serifだと判定した場合に用いる英数字に対するデフォルトフォント

設定画面は以下のようになっています。



各プラットフォームごとにフォントを指定する場合、**admintool**の実行環境にインストールされていないフォントを指定できるように、フォントはドロップダウンリストだけでなく、直接フォント名を指定できるようになっています。

5-12 ソフトウェアのアップデート

crossnoteクライアントの自動バージョンアップや、プラグインの配布等をコントロールする場合に使用します。

ソフトウェアのアップデート

crossnoteクライアントのソフトウェアの自動更新用モジュールの場所(URL)を指定します。また自動インストールするpluginを設定します。

crossnoteクライアント・ソフトウェアのアップデートサイト(URL): [URLの設定](#)

Tips

 crossnoteクライアントのソフトウェアのアップデートサイトは一旦設定すると削除できません。ソフトウェアのアップデートサイトには自己証明書(オレオレ証明書)は利用できません。

追加インストールするPlugin

エディション	リポジトリURL	Plugin ID
▼ Complete edition	http://devsv06/tools/	jp.updateit.apis.option.docflow2excel
▼ Light edition	http://devsv06/option/3.0/	jp.updateit.apis.option.textpallet.conv
▼ テストメニュー1	http://devsv06/tools/	jp.updateit.apis.option.refcleaner

(1) crossnoteクライアント・ソフトウェアのアップデートサイト(URL)

crossnoteクライアントのソフトウェアのアップデートサイトを独自に設定することにより、crossnoteクライアントの自動バージョンをコントロールできるようになります。アップデートサイトとはcrossnoteのアップデート用モジュールを配置しておくWebサイトで、独自に設定したい場合にはお客様自身が用意する必要があります。

なお一旦URLを設定すると削除できません。またcrossnoteが使用しているベースソフトウェアの制限により、ソフトウェアのアップデートサイトには自己証明書（オレオレ証明書）は利用できません。

ソフトウェアのアップデートサイトは各PC毎に設定されています。このため同じPCで他のログインユーザに切り替えた場合、前のログインユーザでソフトウェアのアップデートサイトが切り替えられていた場合にはその切り替え後のURLが使用されます。

(2) 追加インストールするPlugin

ver 3.0から追加インストールするpluginを自動配布できるようになりました。その場合、ライ

センスのエディション（カスタムライセンスの場合にはメニュー）毎に配布する**plugin**と、その配布元となるリポジトリ**URL**を指定します。

5-13 crossnote Shareのセキュリティポリシー

以下のcrossnote Shareのセキュリティポリシーは、crossnote Shareのライセンス(jp.updateit.apis.option.hive.share)があり、かつサーバーのバージョンがver 2.1.2以上の場合にのみ表示されます。

crossnote Shareのセキュリティポリシー

crossnote Shareの外部ユーザに対するセキュリティポリシーを設定します。

- ☒ パスワード登録時に複雑なパスワードを要求する
- ☒ 定期的なパスワード変更を要求する
- ☐ 二段階認証を要求する
- ☒ メールダウンロードURLを表示させない

Shareに表示するロゴ(100px X 100px)

(未設定)

ロゴを設定

ロゴの設定を解除

(1) パスワード登録時に複雑なパスワードを要求する

選択すると、パスワードを登録・変更する際、全体で8文字以上、大小英数字および記号から3種類以上を組み合わせ、よくある単語に類似しない文字列でないと登録できなくなります。

(2) 定期的なパスワード変更を要求する

選択すると、90日ごとにパスワードの変更が必要となります。

(3) 二段階認証を要求する

選択すると、パスワードを登録する際、ソフトウェアトークン(Google AuthenticatorやMicrosoft Authenticatorなどのスマホアプリ)を用いたワンタイム・パスワードによる2段階認証の登録が必要となります。

(4) メールのダウンロードURLを表示させない

選択すると、ファイルを外部ユーザに送る際の通知メールにおいて、**crossnote Share**のURLは含めないようにします。

(5) Shareに表示するロゴ

crossnote Shareで外部ユーザの画面に表示するロゴを指定できます。ファイルは**PNG**、**GIF**、**JPEG**のいずれかのフォーマットで、**100px × 100px**の大きさで表示しますので、それに合わせたロゴのイメージファイルをご用意ください。

6 タスク設定

crossnoteではドキュメントの承認やレビューといった業務フローをタスクという単位で管理しています。承認申請やレビュー依頼の利用方法については、ユーザー・マニュアルの[承認フローおよびタスクについて](#)を参照してください。ここでは、会社毎の業務フローに合わせて、承認とレビューそれぞれのステータスの設定を変更することができます。

基本的な設定方法は承認、レビュー共通です。ステータスの項目自体は固定となっており、追加・削除することはできません。ここで設定できるのは「対応するドキュメント・ステータス」を紐付けすることと、「このタスクステータスに変更するのに必要な役割」を設定することです。

The screenshot shows the 'タスク設定' (Task Settings) window in the CROSSNOTE management tool. It contains two main sections: '承認依頼' (Approval Request) and 'レビュー依頼' (Review Request). Each section has a table for configuring task dependencies and checkboxes for additional settings.

承認依頼 (Approval Request)

タスク・ステータス	対応するドキュメント・ステータス	このタスクステータスに変更するのに必要な役割
依頼中	承認中	
承認	承認済	
棄却	棄却	
済		
キャンセル	作成中	

承認依頼の設定変更

- ☒ 承認済みのドキュメントについては全員にアクセス権を付与する
- ☒ 可能であれば、ドキュメントの承認時にPDFに変換して保存する

レビュー依頼 (Review Request)

タスク・ステータス	対応するドキュメント・ステータス	このタスクステータスに変更するのに必要な役割
依頼中	レビュー中	
完了	レビュー終了	レビュー
条件付完了	レビュー終了	レビュー
再レビュー	レビュー終了	レビュー
レビュー不要	作成中	レビュー
済	レビュー終了	
対応済み		
キャンセル	作成中	

レビュー依頼の設定変更

☒ crossnoteクライアントでWord, Excel, PDFでレビューを行う際、レビューモードを使用する

admin@yasunaka.com

6-1 対応するドキュメント・ステータス

タスク・ステータスを変更した際に、ドキュメント・ステータスを連動して変更する設定にできます。例えば、承認申請において、タスク・ステータスが「承認」となった場合にドキュメント・ステータスも合わせて「承認済」にするように設定できます。承認済のドキュメント・ステータスが公開対象となっていれば、承認したものを即時公開としたり、編集不可となっていれば承認後のドキュメントの編集を禁止したりといったことが実現可能です。承認申請上は承認されているのに、ドキュメント・ステータスを承認済に切り替えていなかったためにファイルの内容を変更してしまった、などという不整合を防ぐことができます。

また、環境設定の [ドキュメント・ステータス](#) の設定画面において、タスク専用ステータスに指定したドキュメント・ステータスについては、ここで設定したタスク・ステータスに変更することによって、当該ドキュメント・ステータスに変更することができなくなります。タスク専用ステータスに設定しておくことで、ドキュメント・ステータスの側を手入力することで発生する不整合も防ぐことができます。

設定の方法は、承認申請かレビュー依頼のタスク・ステータスを選択した状態で右下の設定変更を押すと以下のようなダイアログが表示されます。後述の役割についても、同じ画面で一度に設定できます。

承認申請タスクに関する設定

タスクステータスに対する条件を設定します。
ドキュメントステータスを設定する場合には、対象のドキュメントが書き込み可能でなければ動作しないことに留意してください。
例えば書き込み不能なドキュメントステータスを設定されたドキュメントは自動的にドキュメントステータスを変更することはできません。

タスク・ステータス 依頼中

対応させるドキュメントステータス: 設定しない

ドキュメントステータスを設定した場合、タスクのステータスに応じてドキュメント・ステータスが自動的に設定されます。

役割: 設定しない

役割を設定した場合、このタスク・ステータスを実行できるのはその役割を持ったユーザーのみにになります。
誤って設定するとタスクが割り振られたのにユーザーが何もできなくなる場合がありますので、注意してください。

OKキャンセル

6-2 このステータスに変更するのに必要な役割

本設定は、タスク・ステータスを変更できる役割を限定したい場合に設定します。

ただし、承認申請における「承認」「棄却」については役割・権限の設定において「ドキュメントを承認する権限」が設定された役割を割り当てられたユーザーに固定されていますので、本設定で変更することはできません。

利用場面としては、例えば承認申請のタスク・ステータスを「依頼中」にできる（つまり承認申請を起案できる）のを「作成者」に限る、といったことが想定されます。その場合、承認者の権限のみが与えられているユーザーは、メニューに承認申請が表示されず、自分が申請することはできなくなります。（他のユーザーから申請された承認タスクを承認することは可能です）

設定方法是对应するドキュメント・ステータスと同じ画面から行います。

6-3 リリース管理機能

リリース管理機能については、ユーザー・マニュアル「[リリース管理機能について](#)」を参照してください。

リリース管理

リリース管理機能は下記のすべてのドキュメント・ステータスの種類について、ドキュメントステータスを設定しない場合には利用できません。

ドキュメント・ステータスの種類	対応するドキュメント・ステータス	
リリース実行後のワーキングコピー側ドキュメントのステータス	リリース中	
リリース実行後のリリースプロジェクト側ドキュメントのステータス	リリース	
リリース解除後のワーキングコピー側ドキュメントのステータス	作成中	
リリース解除の対象とするリリースプロジェクト側ドキュメントのステータス	リリースチェック済み	

6-4 AIサポート機能の設定

Open AIのChar GPTやGoogle Geminiなど、LLM (Large Language Model)を使ったAIサポート機能をcrossnoteで使用する場合の設定です。なおこの機能を利用するには `jp.updateit.apis.option.llm` というサイトライセンスが必要です。

[illegible]

各**crossnote**クライアントでAIサポート機能の設定が「管理設定(**admintool**での設定)に従う」になっている場合にはここでの設定が使われます。なお各**crossnote**クライアント側で独自の設定にすることも可能です。（カスタムタスクについては「管理設定(**admintool**での設定)に従う」の場合でも各**crossnote**クライアント側で設定を追加することができます）

利用しない AIサポート機能を利用しない場合に選択します。

Open AI Open AI社のChat GPTを使う場合に選択します。

Google Gemini Google社のGeminiを使う場合に選択します。

Anthropic Claude Anthropic社のClaudeを使う場合に選択します。

Legacy Open AI Chat completions APIを使うLLMに接続する場合に選択します。

Ollama (Local LLM)	自社内のサーバーで設定したLocal LLMを使う場合に選択します。Ollamaはオープンソースで公開されているLocal LLMを稼働させるための仕組みです。
Amazon Bedrock (Converse API)	Amazon社の提供するBedrockを使う場合に選択します。
Azure Open AI	Microsoft社のAzure上でOpen AIモデルを利用する場合に選択します。
サービスのURL	LLMのサービスを提供しているサーバーのURLを設定します。
API Key	Open AI、Google Gemini、もしくはClaudeを利用する場合に、その認証キーを設定します。
認証用ユーザID	Ollamaを利用する際にBASIC認証を必要とする際に設定します。
認証用パスワード	Ollamaを利用する際にBASIC認証を必要とする際に設定します。
Prompt cache	Chat GPTもしくはClaudeでPrompt cacheの仕組みを使う場合にONにします。（Geminiは常にONとなっています。） なおこれが使えるかどうかはモデルで異なります。
改善フィードバック ・ルールの作成	改善フィードバック・ルールとはAIエージェントの過去の履歴から問題の要点を整理して記録し、以降の実行に反映できるようにする仕組みです。 過去のメッセージ履歴（記憶）を整理してルールを作成し、以降の実行時にそのルールをシステムプロンプトに反映させることができますようにします。
コンテキストウィンドウサイズの最大値	Chat Completion APIやOllamaなどを利用する際に、対象のモデルが処理可能なコンテキストウィンドウサイズの最大値を設定します。
MCPサーバーの利用	MCPサーバーの利用を許可するかどうかを設定します。
エージェント機能におけるローカルファイルの添付	エージェント機能において、crossnoteに登録されていないPCローカルファイルの添付を認めるかどうかを指定します。

表にはcrossnoteのAIサポートのサービスについての情報が表示されます。

項目名	内容
タスクの種類	どのようなAIサポート機能に関する設定か
カスタム・タスク名	カスタムサービスの場合に設定したタスク名
有効/無効	このサービスの有効・無効の設定状態
カスタム・タスクの処理方式	カスタム・タスクの場合に設定
対象部品	変換対象となる部品の種類
モデル	LLMのモデル
プロンプト文	処理を行う際のプロンプト文
備考	上記以外の個別の設定項目

タスクの追加、変更、削除、並び変えが可能です。

なお対象のタスクの種類によっては変更可能な項目が限られる場合があります。

AIサポートで利用する機能の修正

タスクの種類カスタムタスク

カスタム・タスク名TEST

☒有効/無効

カスタム・タスクの処理方式AIエージェントによる処理 (エージェント・モード)

カスタム・タスクのエージェント・モードの実行方法

クライアント・エディションによる対象ユーザの絞り込み

全ユーザを対象とする

設定...

実行レベル ☒ 調べるだけ ☐ 編集操作を含む

☒ メニューから

☐ ファイルの新規作成・追加時

☐ ファイルの保存・更新時

☐ ファイルを開く時

☐ コミット前

範囲の選択 参照可能範囲:RELEASE TEST

☒ ファイルの修正にCode interpreterを利用する (Code interpreterはうまく動作しない場合があります)

☒ Memory Baseを利用する (保存された内容は社内で共有されます)

カスタム・タスクのドキュメントに対する処理

☒ 見出しを変換対象とする

☒ 本文を変換対象とする

☒ 辞書枠の説明部を変換対象とする

☒ 表枠を変換対象とする

☒ 図形枠を変換対象とする

☒ タイトル (辞書枠のタイトル部、表枠のタイトル、図形枠のタイトル) を変換対象とする

モデルgpt-5.4

Reasoning effortdefault

与えられた文章を〜してください。

OK

キャンセル

なお各設定項目の中身についてはcrossnoteユーザマニュアルの[AIサポート機能 \(オプション機能\)](#)をご参照ください。

6-5 機械翻訳の設定

crossnoteではDeepLを用いた機械翻訳に対応しています。なお利用にはお客様自らサービスの提供元（DeepL社）と契約し、認証キーを入手して頂く必要があります。

[illegible]

6-6 リマインドメール

タスクの終了予定日の少し前から、完了していないタスクについてはリマインドメールが毎日送られます。終了予定日を過ぎても完了していない場合、しばらくは送られます。

リマインドメール

送信時間

00:00

▼

送信を開始する日 期限前

2

日

送信を停止する日 期限後

7

日

送信時間は、毎日何時に送るかを設定します。

送信を開始する日 期限前は、タスクの終了予定日の何日前からリマインドメールを送るようにするのかを設定します。

送信を停止する日 期限後は、終了予定日を過ぎても完了していないタスクについて、リマインディングメールを送るのをやめる日にちを設定します。

6-7 Webhookの設定

Webhookの設定はWebhookのサイトライセンス(jp.updateit.apis.option.webhook)が設定されている場合にのみ表示されます。

Webhookの設定

Webhookを設定すると、crossnoteにファイルをコミットしたり、ドキュメントステータスを変更した際に外部サービスへ通知することができます。

有効	Webhook URL	説明	対象	ファイルパターン	アクション	認証ヘッダーキー
☒	https://example.com/webhook	テスト用Webhook	ver 2.1.2	(未定義)	ファイル追加,ファイル更新,フ...	(未定義)
☐						
☐						

追加更新削除

項目名	説明
有効	この項目が有効かどうか（はい/いいえ）
Webhook URL	Webhookの通知先URL
説明	このWebhookの設定についての説明
対象	Webhookの対象とする範囲（プロジェクト、もしくはポートフォリオ、もしくは会社全体）
ファイルパターン	Webhookを通知する際のファイルパターン。例) *.xlsx
アクション	どのようなアクションに対してWebhookを発生させるか
認証ヘッダーキー	Webhookを通知する際のヘッダーに対する認証キーを指定する

■ Webhookの追加・更新

Webhookの追加および更新の場合、以下のような画面が表示されます。

Webhookの設定

Webhookの通知先のURLや通知を行う際の条件、認証情報などを設定してください。

サンプル

☒ 有効

Webhook URL

説明

対象範囲を選択...

(未設定)

☐ ファイルパターンを指定

ワイルドカード「*」を使い、対象のファイルを絞り込むことができます。例えば*.pdfとすると、対象範囲にあるすべてのpdfという拡張子のファイルが対象となります。なお特定のフォルダを指定する場合には「/」から始めてください。また複数のパターンを指定するには「;」で区切ってください。

通知を送信する条件

☐ ファイル追加

☐ ファイル更新

☐ ファイル削除

☐ ドキュメントステータスの変更

☐ 属性キーワードの変更

☐ コメント追加

☐ EDITROOMでのドキュメント生成

☐ EDITROOMでの検証失敗

認証用ヘッダーキー

認証用ヘッダー値

☐ テンプレートを用いて送信するメッセージをカスタマイズする

☒ 一括して送信する ☐ ファイルごとに送信する

ContentType

テンプレート

ファイルごとに送信する間隔

0

(msec)

テンプレートのテスト

OK

Cancel

(1) サンプル

Webhookの設定をサンプルから取得することができます。なおこのサンプルはEDITROOMサービス用のもので、EDITROOMが使えない場合には中身がありません。

(2) 有効

このWebhookの設定を有効にする場合、チェックします。無効の場合にはWebhookを発生させません。

(3) Webhook URL

Webhookの通知先のURLを指定します。

(4) 説明

このWebhookについての説明を記述します。

(5) 対象範囲を選択...

Webhookを発生させる範囲（会社全体、指定ポートフォリオ、指定プロジェクト）を設定します。

(6) ファイルパターンを指定

チェックするとWebhookを発生させる対象のファイル名のパターンを指定できます。もし特定のフォルダ以下のファイルだけを指定したい場合には、/から開始して、フォルダのパスを指定してください。また複数のパターンを指定する場合、;で区切ります。

(7) 通信を送信する条件

Webhookを発生させるアクションを指定します。

- ◆ ファイル追加
- ◆ ファイル更新
- ◆ ファイル削除
- ◆ ドキュメントステータスの変更
- ◆ 属性キーワードの変更

- ◆ コメント追加
- ◆ EDITROOMでのドキュメント生成
- ◆ EDITROOMでの検証失敗

(8) 認証ヘッダーキー および 認証ヘッダ値

Webhookを通知する際に認証用のヘッダーのキーと値を指定する必要がある場合、設定します。

(9) テンプレートを用いて送信するメッセージをカスタマイズする

チェックすると、送信メッセージをテンプレートを使って記述することができます。チェックしなかった場合、既定のWebhook通知が送信されます。

(10) 一括して送信する および ファイルごとに送信する

テンプレートを用いて送信メッセージをカスタマイズする場合、複数ファイルが対象となっている際に、それらを一括して1回で送信するか、もしくはファイル数の回数に分けて送信するかを選択します。

(11) ContentType

テンプレートを用いて送信メッセージをカスタマイズする場合、送信ヘッダーのContentTypeを指定します。なおエンコーディングは常にUTF-8です。

(12) テンプレート

テンプレートを用いて送信メッセージをカスタマイズする場合の、テンプレートを記述します。テンプレートには変数を指定することができます。

この際、変数として属性キーワードの値を指定することができます。\$(属性キーワード)のように指定します。

さらに以下のような変数を指定することができます。

変数名	対象のAction	意味
\$(id)	常に利用可	WebHookのユニークID、または bw_publisherのrequestId
\$(companyId)	常に利用可	テナント(会社)のID
\$(projectId)	常に利用可	projectのID
\$(date)	常に利用可	発生日時
\$(shareBox)	ADD_FILE,UPDATE_FILE, DELETE_FILE	インポートしたShareのBOX名。これは crossnote Shareからインポートした場合の み変換される。
\$(action)	常に利用可	WebhookのAction
\$(apisUri)	BW_PUBLISHER_VALIDATE _ERROR以外	生成されたドキュメントのApisURI
\$(nodeId)	BW_PUBLISHER_VALIDATE _ERROR以外	生成されたドキュメントのID
\$(filePath)	BW_PUBLISHER_VALIDATE _ERROR以外	生成されたドキュメントのパス
\$(documentStatus)	UPDATE_DOCUMENT_STA TUS	ドキュメントステータス
\$(exportType)	BW_PUBLISHER_COMPLET ED	生成ドキュメントの種別
\$(secureUrl)	BW_PUBLISHER_COMPLET ED	生成ドキュメントへのURL(要API Key)
\$(publicUrl)	BW_PUBLISHER_COMPLET ED	生成ドキュメントへの公開URL
\$(num)	-	ファイルのインデックス番号 (0, 1, 2, ...)

以下の変数はファイル数だけ繰り返す場合にのみ利用可能です。

◆ \$(action), \$(apisUri), \$(nodeId), \$(filePath) \$(documentStatus)

以下の変数はEDITROOMからの出力の場合のみ利用可能です。

◆ \$(exportType), \$(secureUrl), \$(publicUrl)

また\$(publicUrl)は公開設定となっているファイルの場合のみセットされます。

一括して送信する場合に、ファイル数分繰り返しを指定するには以下のように記述します。

```
${この中ではファイル数だけ繰り返す$$区切り文字$}
```

この場合、中の変数にはファイル数だけ繰り返す場合のものを使うことができます。例えば以下の例ではurlを""でくくり、,で繋げています。

```
`${$(url)}$$,$}
```

ファイルの繰り返しの指定はネストさせることはできません。

指定した変数が定義されている場合のみ出力する場合には以下のように記述します。

```
`${変数名}{ここに内容を書く$!}
```

下の例は、変数boxが定義されている場合のみ、"box": "ほにゃらら"; と出力する例です。

```
`${(box)}{"box": "${(box)}";$!}
```

この指定もネストさせることはできません。

上記の変数や制御用構文はテンプレートのエディタ上で右クリックによるポップアップメニューから選択することができます。

(13) ファイルごとに送信する間隔

テンプレートを用いて送信メッセージをカスタマイズしている際にファイルごとに送信する場合に、Webhookの1回あたりの送信の間隔をmsecで指定します。

(14) テンプレートのテスト

テンプレートを用いて送信メッセージをカスタマイズする場合、各変数や制御用構文がどのように展開されるのかをダミーの値を用いてテストするための仕組みです。ボタンを押すと以下のような画面が表示されます。



対象とするアクション

ADD_FILE

▼

☐ Shareからのインポート操作時

再評価

結果

```
=== 0 ===
{
  "docflow_name": "docflow4",
  "export_type": "pdf",
  "records": {
    "shareBox": "${shareBox}",
    "source-file": "apis:¥/¥/p-yyyy¥/d-ddd"
  }
}
=== 1 ===
{
  "docflow_name": "docflow4",
  "export_type": "pdf",
  "records": {
    "shareBox": "${shareBox}",
    "source-file": "apis:¥/¥/p-yyyy¥/d-eee"
  }
}

```

Close

アクションによって展開対象となる変数が異なりますので、指定したアクションで正しく変換されているかどうかをチェックしてください。

7 リソース管理

リソース管理画面では、プロジェクト毎のファイル数やデータのサイズ、アクセス状況などを把握することができます。

CROSSNOTE - 管理ツール									
ファイル(F) 編集(E) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)									
ユーザー管理 プロジェクト管理 ライセンス管理 環境設定 タスク設定 リソース管理 履歴 Active Directory 設定状況 お知らせ									
プロジェクトのリソース状況									
ファイル数は削除されたファイルの分も含みます。またデータサイズは概算であり、1日1回更新されます。									
履歴データの自動削除の設定:OFF 古い履歴データの削除 更新 エクスポート									
プロジェクト名	ファイル数	データサイズ	プロジェクト作成日	最大revision	最初の履歴日	ユーザー数	セットアップ数	30日間のアクセ...	60日間のアクセ...
▼ テスト									
EDITROOM1	17	5,419(kb)	2022/01/11	28	2022/01/11	3	4	0	0
Share link test 1	1	110(kb)	2024/08/20	12	2024/08/20	19	1	0	0
a	0	5(kb)	2022/02/04	4	2022/02/04	2	1	0	0
テストプロジェクト1	26	35,049(kb)	2021/04/07	301	2021/04/07	6	9	0	0
テストプロジェクト1のコピー	17	8,579(kb)	2024/05/13	16	2024/05/13	0	0	0	0
テストプロジェクト5	0	3(kb)	2022/04/20	2	2022/04/20	1	0	0	0
テストプロジェクト2	208	330,605(kb)	2021/03/31	1795	2021/03/31	8	6	0	0
テストプロジェクト3	75	11,669(kb)	2021/04/07	132	2021/04/07	7	3	0	0
テストプロジェクト4	27	369(kb)	2021/10/11	46	2021/10/11	8	6	0	0
テストプロジェクト5	76	699(kb)	2022/06/02	23	2022/06/02	5	2	0	0
テストプロジェクト6	0	11(kb)	2022/06/02	4	2022/06/02	6	1	0	0
テストプロジェクト7	0	6(kb)	2022/06/24	4	2022/06/24	3	0	0	0
自動分類テスト	2807	20,018(kb)	2021/12/24	20	2021/12/24	3	1	0	0
全ポートフォリオ数: 1, 全プロジェクト数: 13						admin@yasunaka2.com			

以下のような項目があります。

項目名	内容
プロジェクト名	対象のプロジェクトの名称
ファイル数	プロジェクトに登録されているファイル数
データサイズ	プロジェクトの過去の履歴を含めたデータサイズ
プロジェクト作成日	プロジェクトを作成した日付
最大revision	プロジェクトの履歴の数
最初の履歴日	プロジェクトの履歴の最初の日付
ユーザー数	プロジェクトにアサインされたユーザーの数
セットアップ数	プロジェクトをセットアップしているユーザーの数。ただし同一ユーザーで複数個所にセットアップしている場合にはそれらもカウントする。
N日間のアクセス数	過去N日間においてプロジェクトにおいて参照されたファイル数。 (N=30, 60, 90, 180)

右上には以下のようなアクション・ボタンがあります。

履歴データの自動削除の設定	ONにするとプロジェクト毎にセットアップ済みのユーザがアップデイトして取得済みの履歴より以前の履歴（承認履歴やスナップショットの履歴を除く）を自動的に削除します。
古い履歴データの削除	選択したプロジェクト（複数選択可）について、指定した日付より以前の履歴を削除します。 なお指定日以降アップデートを行っていないユーザのプロジェクトは次回のログイン時にセットアップが自動的に解除されます。またその場合、未コミットのドキュメントの修正は破棄されます。
更新	画面の内容を更新します。
エクスポート	画面の内容をExcelファイルへエクスポートします。

8 履歴

AdminToolではログイン履歴、ログイン数推移、Admin操作履歴、ユーザー参照履歴、メール送信履歴を切り替えて見ることができます。

8-1 ログイン履歴画面について

ログイン履歴画面では各ユーザーのログイン履歴を確認することができます。また一定回数ログインに失敗した場合にも記録されますので、不正ログインの可能性などをチェックすることができます。一度に表示できる件数の上限は1万件です。表示期間に制限はなく、利用開始から本日までのログイン履歴を確認することができます。

ログイン履歴画面は以下のようになっています。

ログイン日時	サービス名	結果	ユーザーID	ユーザー名	クライアントPC名	接続元IPアドレス	クライアントversion
2025-08-28 15:36:52	crossnote	ログイン成功	user13@yasunaka.com	ユーザ13	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-28 15:35:58	crossnote	ログイン成功	user13@yasunaka.com	ユーザ13	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-28 14:15:50	Admin tool	ログイン成功	admin@yasunaka.com	admin	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-28 13:46:31	Admin tool	ログイン成功	admin@yasunaka.com	admin	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-28 11:08:10	crossnote	ログイン成功	user7@yasunaka.com	ユーザ7	mac004.local	192.168.2.105	3.0.0.20250630
2025-08-28 11:07:27	Admin tool	ログイン成功	admin@yasunaka.com	admin	mac004.local	192.168.2.105	3.0.0.20250630
2025-08-28 11:07:08	crossnote	ログイン成功	user7@yasunaka.com	ユーザ7	mac004.local	192.168.2.105	3.0.0.20250630
2025-08-28 10:22:12	Admin tool	ログイン成功	admin@yasunaka.com	admin	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-28 09:22:14	Admin tool	ログイン成功	admin@yasunaka.com	admin	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-27 22:12:47	crossnote	ログイン成功	user7@yasunaka.com	ユーザ7	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-27 22:01:45	Admin tool	ログイン成功	admin@yasunaka.com	admin	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-27 21:48:31	crossnote	ログイン成功	user7@yasunaka.com	ユーザ7	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-27 19:34:49	Admin tool	ログイン成功	admin@yasunaka.com	admin	penguin	192.168.2.106	3.0.0.20250630

表示期間やフィルターなどを使って、確認したい履歴を絞り込んでください。

項目は以下の通りです。

ログイン履歴の項目

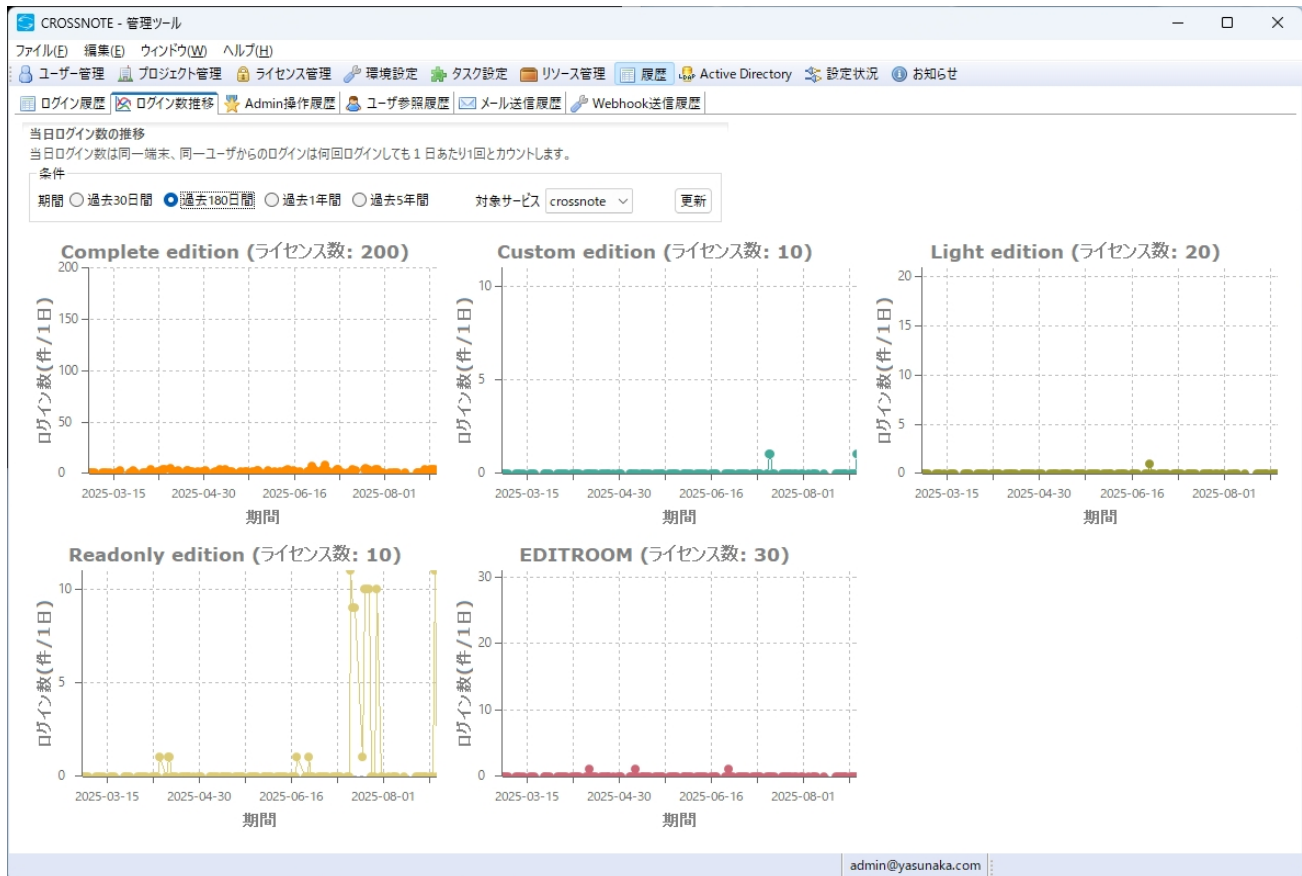
項目名	説明
ログイン日時	ログインした（もしくは試みた）日時

サービス名	crossnote、admintool、HIVE、SHARE、Contact Report2
結果	 ログイン成功、  パスワード・エラー、  ロックされています、  ライセンスが足りません
ユーザー	対象のユーザーID
ユーザー名	対象のユーザー名
クライアントPC名	クライアントPC名
接続元IPアドレス	サーバー側から見た接続元のIPアドレス
クライアントversion	crossnoteクライアント、もしくはadmintoolでログインした場合、そのバージョン
Web Browser (User-Agent)	HIVE、SHARE、Contact Report2でログインした場合、ブラウザの種類を表すUser-Agentとして送られてきた値。

検索結果はエクスポートボタンをクリックすることで、**Excel**ファイルとして取り出すことも可能です。

8-2 ログイン数推移

各エディション毎に当日ログイン数の状態をグラフ化して表示します。



表示期間は以下の4つから選べます。

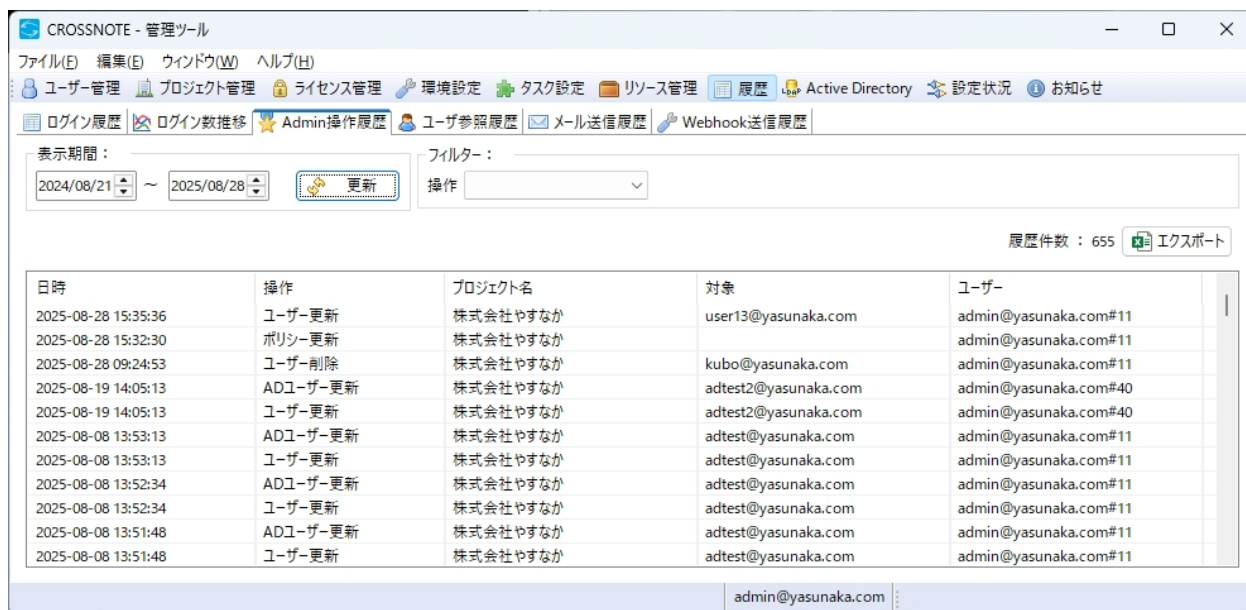
- ◆ 過去30日間
- ◆ 過去180日間
- ◆ 過去1年間
- ◆ 過去5年間

さらに表示対象のサービスとして **crossnote / HIVE / Share**を選択できます。

8-3 Admin操作履歴について

Admin操作履歴画面ではAdminツールで行った操作の履歴を確認することができます。一度に表示できる件数の上限は1万件です。表示期間に制限はなく、利用開始から本日までの操作履歴を確認することができます。

Admin操作履歴画面は以下のようになっています。



表示期間やフィルターなどを使って、確認したい履歴を絞り込んでください。

項目は以下の通りです。

Admin操作履歴の項目

項目名	説明
日時	操作を行った日時
操作	操作名称
プロジェクト名	対象のプロジェクト名
対象	操作対象
ユーザー	操作を行ったユーザー

検索結果はエクスポートボタンをクリックすることで、Excelファイルとして取り出すことも可能です。

8-4 ユーザー参照履歴について

ユーザー参照履歴画面では、選択したユーザーの操作履歴を確認することができます。表示できる件数の上限はありません。表示期間に制限はなく、利用開始から本日までの操作履歴を確認することができます。

ユーザー参照履歴画面は以下のようになっています。

The screenshot shows the 'CROSSNOTE - 管理ツール' (CROSSNOTE - Management Tool) window. The '履歴' (History) menu is active, and the 'ユーザー参照履歴' (User Reference History) sub-menu is selected. The interface includes a search bar for '対象ユーザ' (Target User) and a date range selector for '表示期間' (Display Period) set to '2025/08/21' to '2025/08/28'. A table lists users with columns for 'ユーザ-ID', 'ユーザ名', and '部・課名称'. The user 'user7@yasunaka.com' is selected. Below the table, a large table displays the operation history with columns: '日時' (Date/Time), '操作' (Operation), 'プロジェクト' (Project), 'ドキュメント' (Document), and 'Apis URI'. The history shows various '開く' (Open) actions on documents like 'docstructure2.apisd' and 'docstructure2.apisd'. At the bottom, the user 'admin@yasunaka.com' is logged in.

表示期間欄で確認する期間を、対象ユーザ欄で参照履歴を確認したいユーザーを選択し、更新ボタンをクリックすることで、履歴を確認できます。

対象ユーザー欄に表示されるユーザーを絞り込むことも可能です。対象ユーザー欄のテキストボックスにユーザー名、ID、部・課名称の一部を入力することで、ユーザーを絞り込んで対象ユーザー欄に表示することができます。表のタイトルをクリックするとソートされます。

検索結果はエクスポートボタンをクリックすることで、**Excel**ファイルとして取り出すことも可能です。

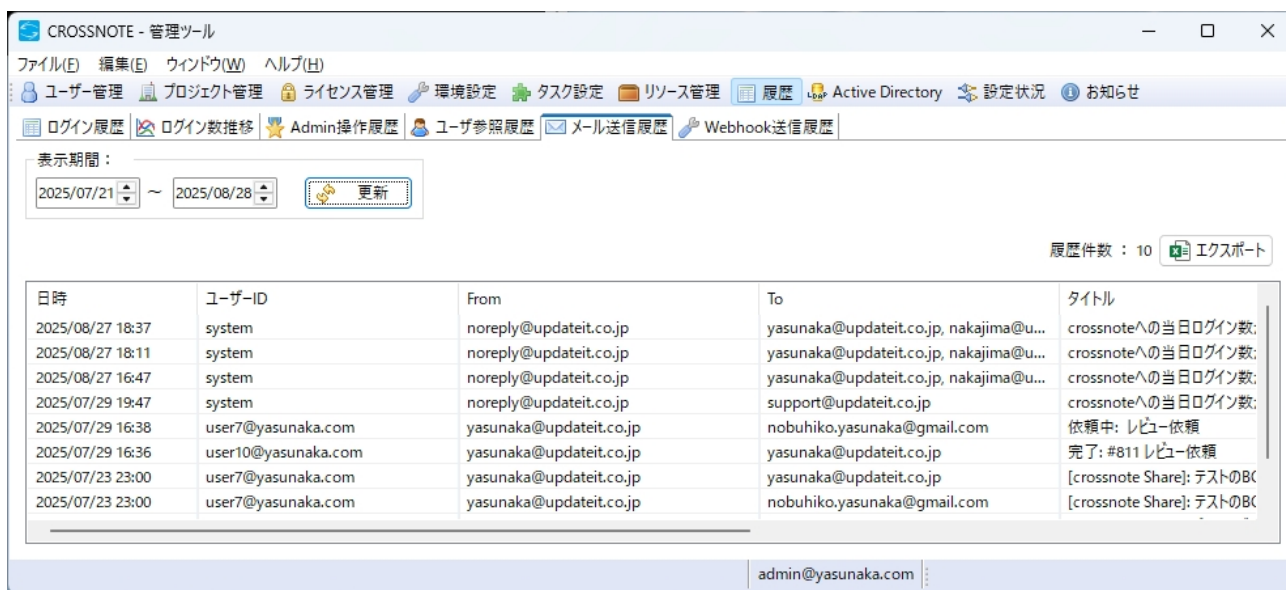
ユーザー参照履歴の項目

項目名	説明
日時	操作を行った日時
操作	操作名称
プロジェクト名	対象のプロジェクト名
ドキュメント	対象のドキュメント名
Apis URI	対象のドキュメントのApis URI

8-5 メール送信履歴について

メール送信履歴画面では全ユーザーのcrossnote、SHARE、Contact Reportでのメール送信履歴を確認することができます。一度に表示できる件数の上限はありません。表示期間に制限はなく、利用開始から本日までのメール送信履歴を確認することができます。検索結果はエクスポートボタンをクリックすることで、Excelファイルとして取り出すことも可能です。

メール送信履歴画面は以下のようになっています。



メール送信履歴の項目

項目名	説明
日時	メール送信日時
ユーザーID	メール送信者のユーザーID
From	メール送信者メールアドレス
To	メール宛先メールアドレス
タイトル	送信メールのタイトル
内容	送信メール内容
サービス	メール送信に用いたサービス名 (crossnote、Contact Report2のいずれか)

※SHAREは、crossnoteとしてサービス欄に表示されます。

また、SHAREでのユーザー追加、パスワード変更メールはメール送信履歴に表示されません。

8-6 AI稼働ログ

AI稼働ログ画面では全ユーザーのAI機能の使用状況を確認することができます。Tokenサマリーにはユーザ毎の利用状況のサマリーが表示され、その行をクリックすると選ばれたユーザの履歴のみに絞り込むことができます。検索結果はエクスポートボタンをクリックすることで、Excelファイルとして取り出すことも可能です。

AI稼働ログ画面は以下のようになっています。

CROSSNOTE - 管理ツール

ファイル(F) 編集(E) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

ユーザー管理 プロジェクト管理 ライセンス管理 環境設定 タスク設定 リソース管理 履歴 Active Directory 設定状況 お知らせ

ログイン履歴 ログイン数推移 Admin操作履歴 ユーザ参照履歴 メール送信履歴 AI稼働ログ Webhook送信履歴

表示期間: 2026/05/23 ~ 2026/06/30 更新

履歴件数: 270 エクスポート

Tokenサマリー

ユーザID	件数	入力Token	出力Token	合計Token
(全合計)	270	25,089,515	90,681	25,180,196
user6@yasunaka.com	4	18,277	1,304	19,581
user7@yasunaka.com	237	24,892,592	82,560	24,975,152
user8@yasunaka.com	29	178,646	6,817	185,463

開始時刻	終了時刻	ユーザID	ステータス	処理名称	プロンプト	入力Token	出力Token
2026/06/30 23:14:14	2026/06/30 23:14:24	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	crossnoteでコミットするにはどうし...	20,022	765
2026/06/25 17:37:56	2026/06/25 17:38:18	user7@yasunaka.com	COMPLETED	改善フィードバック・ルール...	Your role is that of a rule mak...	16,612	1,972
2026/06/25 17:21:33	2026/06/25 17:21:43	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	【ユーアで聞くとフリーズするよ】D...	5,643	363
2026/06/25 17:20:50	2026/06/25 17:20:57	user7@yasunaka.com	FAILED	AIエージェント	GLAY_14MB.pdf<apis://p-ci0...	5,397	113
2026/06/24 23:57:28	2026/06/24 23:58:13	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	7月分をもう一度作って	222,314	183
2026/06/24 23:57:47	2026/06/24 23:58:00	user7@yasunaka.com	COMPLETED	ファイルの中身を修正する	Modify the contents of the fil...	2,687	575
2026/06/24 23:50:58	2026/06/24 23:51:37	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	もう一度6月分を作って	218,840	187
2026/06/24 23:51:13	2026/06/24 23:51:27	user7@yasunaka.com	COMPLETED	ファイルの中身を修正する	Modify the contents of the fil...	2,716	577
2026/06/24 23:47:39	2026/06/24 23:48:15	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	8月分も作って	215,389	166
2026/06/24 23:47:52	2026/06/24 23:48:05	user7@yasunaka.com	COMPLETED	ファイルの中身を修正する	Modify the contents of the fil...	2,666	566
2026/06/24 23:44:58	2026/06/24 23:45:43	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	7月分も作って	211,957	169
2026/06/24 23:45:11	2026/06/24 23:45:32	user7@yasunaka.com	COMPLETED	ファイルの中身を修正する	Modify the contents of the fil...	2,892	653
2026/06/24 23:40:27	2026/06/24 23:41:06	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	はい。実行してください。	208,476	203
2026/06/24 23:40:40	2026/06/24 23:40:56	user7@yasunaka.com	COMPLETED	ファイルの中身を修正する	Modify the contents of the fil...	2,553	432
2026/06/24 23:35:02	2026/06/24 23:35:15	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	請求書2020-AAA-001-202604....	205,014	410
2026/06/24 23:33:51	2026/06/24 23:34:02	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	セキュリティポリシーだけに限定して	201,685	38

検索結果の表を右クリックすると「詳細...」「会話を追跡...」のメニューが表示されます。

詳細画面は以下のようになっています。

AI稼働ログ

×

ステータス

開始時刻 2026/06/24 23:51:13

終了時刻 2026/06/24 23:51:27

ユーザID user7@yasunaka.com

処理名称

モデル

提供ベンダ

Reasoning Effort

Prompt cache

入力Token

出力Token

合計Token

消費率(%)

プロンプト

Modify the contents of the file according to the following instructions.

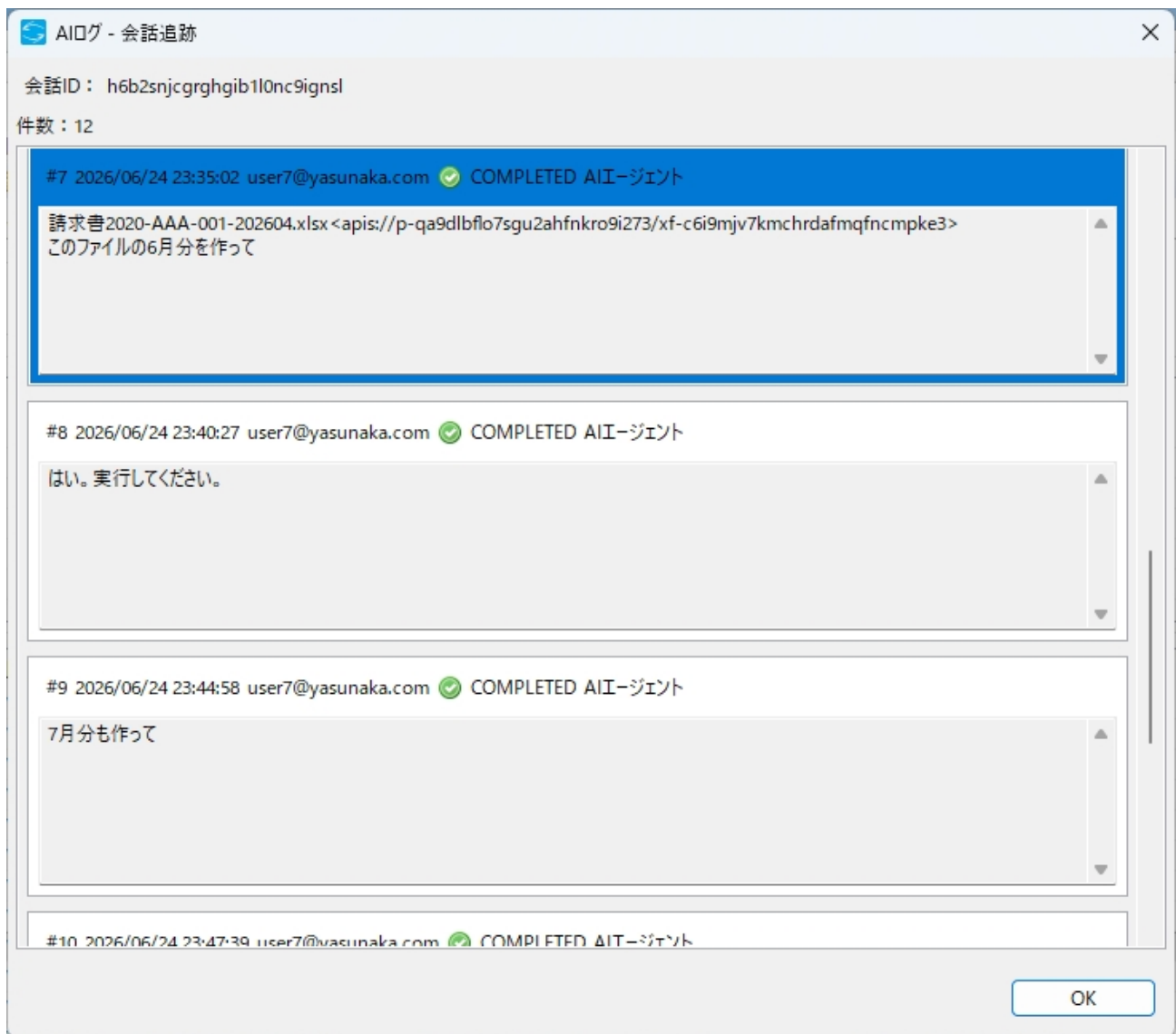
以下のExcelファイルの内容を、書式や数式はできるだけ維持したまま更新してください。

更新内容:
1. 請求番号を `2020-AA-001-202604` から `2020-AA-001-202606` に変更
2. 明細中の `(2026年4月分)` をすべて `(2026年6月分)` に変更
3. 明細中の `(2026年3月分)` を `(2026年5月分)` に変更
4. 支払期限 `2026年5月末` を `2026年7月末` に変更

それ以外の内容、レイアウト、数式、金額、書式は変更しないでください。
Make sure that the formatting, fonts, border information, etc. are not changed.
In cases where you need to change the date, please also handle cases where the serial number represents a date using formatting.
Please note that in addition to the standard formatting, dates may be represented using user formatting.
In this case, do not change the formatting.

OK

会話の追跡を選ぶと、セッション内のプロンプトのリストが表示されます。



8-7 Webhook送信履歴

Webhook送信履歴では、タスク管理においてWebhookを設定している場合に、トリガーによってWebhook送信を行った履歴を参照することができます。なおこの履歴はWebhookのサイトライセンス(jp.updateit.apis.option.webhook)が設定されている場合にのみ表示されます。

結果	更新日付	通知ID	Webhook URL	アクション	HTTPステータス	更新ユーザー
✓	2024/01/23 22:50:04	kfh794qn3neieh9192826hjje0	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル削除	200	user7@yasu
✓	2024/01/22 10:26:20	68jit7rul72hukbcvhn3lo9vn	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル追加	200	user7@yasu
✓	2023/10/12 23:24:59	v41n113h3e6hbq8a9p6n1cjfvh	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル追加, ファ...	200	user7@yasu
✓	2023/10/12 23:00:16	r2lce9bngueh8a9fajalb6drok	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル追加	200	user7@yasu
✓	2023/10/04 23:36:35	2eivfqa1u60je18387mm2nrk8h	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル追加	200	user7@yasu
✓	2023/09/29 23:41:02	b8k26cej0ruiidamh4lchd1fn5	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル追加	200	user7@yasu
✓	2023/08/25 14:50:38	o6ciuc8qpqi2890msor9p8uec	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル追加	200	user7@yasu
✓	2023/08/25 14:23:38	g12n7pvf7dkjuvarhc464sar6v	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル追加	200	user7@yasu

各行をダブルクリックすると、送信時の詳細データを見ることができます。エラーが発生した場合、エラーメッセージを参照することができます。

Webhook送信履歴

結果

更新日付 2023/09/29 23:41:02

通知ID b8k26cej0ruiidamh4lchd1fn5

Webhook URL

アクション ファイル追加

HTTPステータス 200

更新ユーザ user7@yasunaka.com#22

送信メッセージ

{
 "id": "b8k26cej0ruiidamh4lchd1fn5",
 "companyId": "c-yasunaka.com",
 "projectId": "p-n9vtmqvi6kajk6b8sqhrpicn15",
 "date": "2023-09-29 23:41:02",
 "files": [
 {
 "apisUri": "apis://p-n9vtmqvi6kajk6b8sqhrpicn15/xf-g2vm6fusuc0ha09h19qhglijj5g",
 "nodeId": "xf-g2vm6fusuc0ha09h19qhglijj5g",
 "filePath": "/#8488/実行結果.xlsx",
 "action": "ADD_FILE",
 "documentStatus": "作成中"
 }
],
}

返信ヘッダー

Date: Fri, 29 Sep 2023 14:41:03 GMT
Server: Apache/2.4.6 (CentOS) OpenSSL/1.0.2k-fips mod_wsgi/3.4 Python/2.7.5
Content-Length: 0
Keep-Alive: timeout=5, max=100
Connection: Keep-Alive

エラーメッセージ

OK

9 Active Directoryとの連携

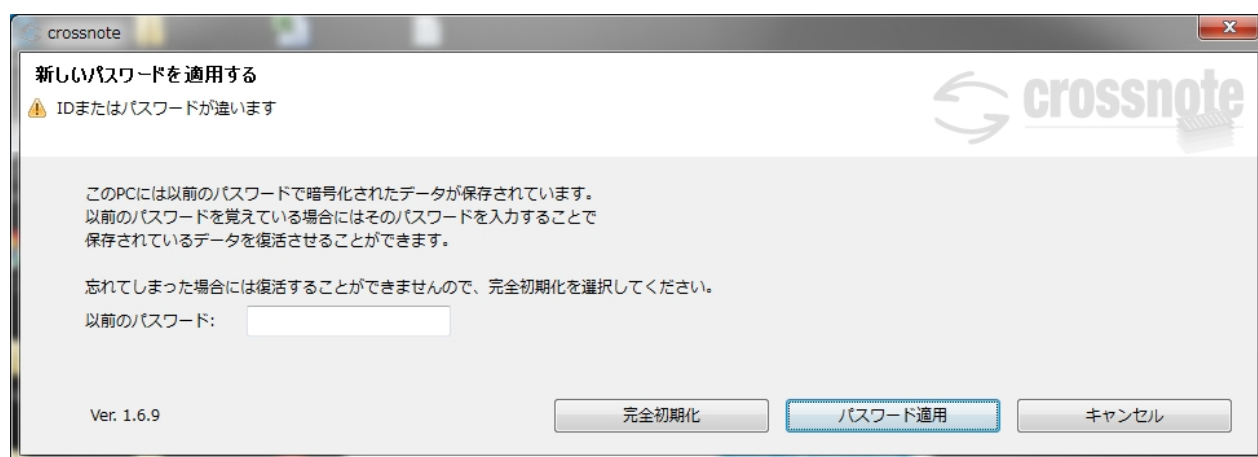
9-1 crossnoteにおけるActive Directoryとの連携機能の仕組みについて

オンプレミスタ입でcrossnoteサーバーを自社運用する場合には、自社のActive Directory(以下、ADと省略)と連携してユーザー管理を行うことができます。これを行うには導入時にADとの連携設定を行っておく必要があります。

ADで同期する場合、AD側と同じユーザーIDが既にcrossnoteに登録されている場合、そのユーザーはADでの同期はできません。ADで同期できるのはcrossnote上では新規ユーザーのみとなる点に注意してください。

ADで行ったユーザー属性の変更は自動的に同期を取るのではなく、「ユーザーの属性同期」を行ったときに取り込みます。

ADと連携した場合、パスワードはAD側で認証されます。このためパスワード変更はcrossnoteのログイン画面ではできなくなり、Windows側で行うことになります。ただしcrossnoteではローカルPCの暗号化を入力されたパスワードで行っているため、Windows側でパスワードを変更した場合、ローカルPCのデータが読み出せなくなります。この場合新しいパスワードでログイン後、以下のよう画面が表示されます。



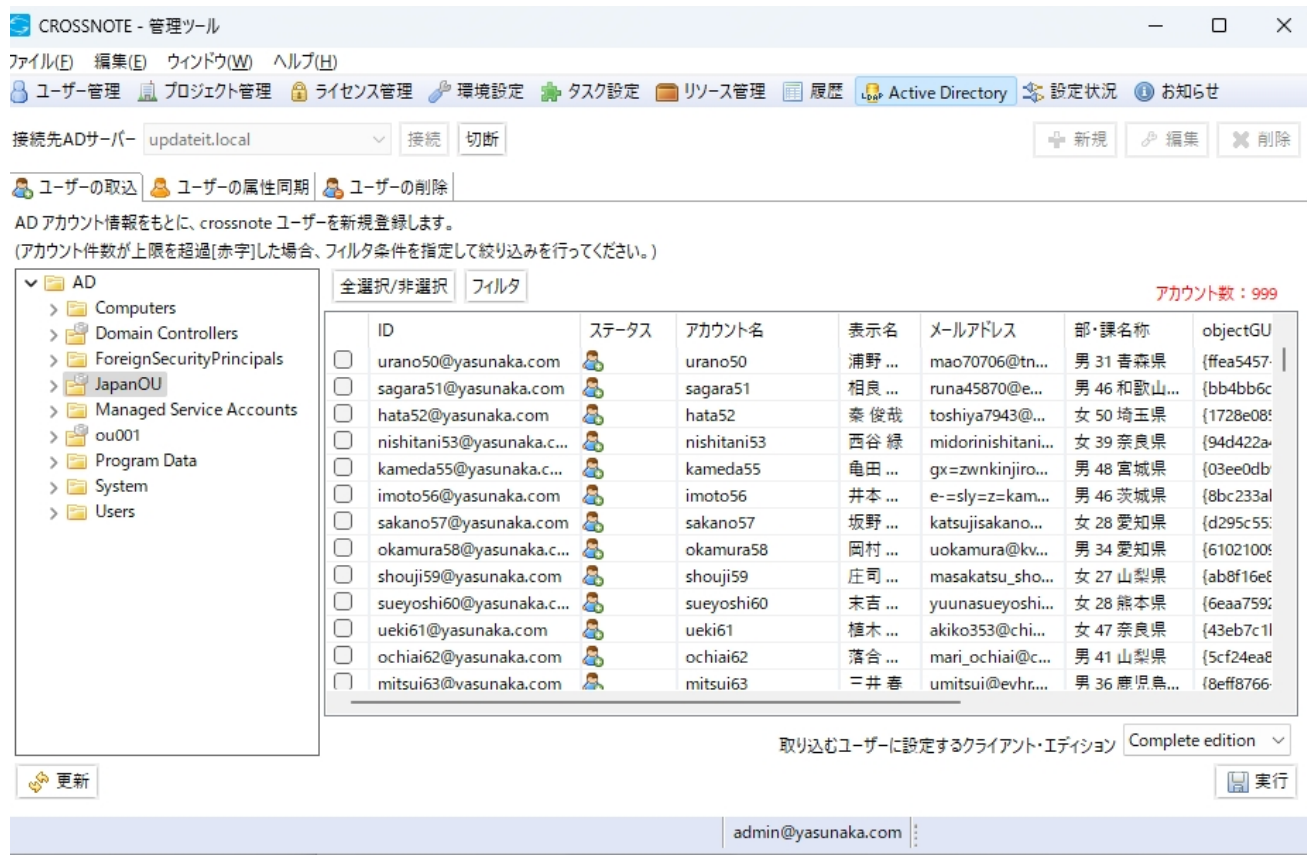
この画面で変更前のパスワードを入力すれば、そのパスワードで復号し、ローカルPCに保存されていたデータを読み出すことができます。もし変更前のパスワードを忘れてしまった場合には完全初期化を選択してローカルPCのデータを削除してください。

通常、crossnoteのパスワードはハッシュ化してサーバーに送付していますが、AD連携を行う場合

には**Plain text**のパスワードをサーバーに送ります。このため社内で利用する場合でも**SSL**で暗号化してお使いください。（なお社内のサーバーの場合、正規のサーバー証明書を取得するのが難しく自社で作成したサーバー証明書で代替する場合には、**crossnote**クライアントのプロフィール設定時に「**SSL**証明書のエラーを無視する」をチェックするようにしてください。）

9-2 Active Directory画面について

Active Directoryの初期画面は以下のようになっています。



初回のみAD接続の設定が必要です。AD接続の設定はcrossnoteサーバーに導入時に設定することも可能で、導入時に設定した場合、接続先ADサーバーの設定は表示されません。

画面に切り替えた直後は、「ユーザーの取込」タブが選択されており、ADと同期状態になっているユーザーの一覧が表示されます。各項目の意味とAD側との対応関係は以下の通りです。

Active Directory画面の項目一覧

項目名	内容	ADの属性名
ID	crossnote上のユーザーID	-

ステータス	 取り込んでいないADのユーザー。  連携済 AD側と一致。  登録済 同名のユーザーが既に登録されている  AD側と不一致(同期が必要)。  AD側で削除された。	-
アカウント名	ADのアカウントID	sAMAccountName
表示名	ユーザー名称	displayName
メールアドレス	ユーザーのメールアドレス	mail
部・課名称	ユーザーの所属部署	department
objectGUID	ADの内部管理ID	objectGUID
uSNChanged	更新シーケンス番号 (USN)	uSNChanged

9-3 ActiveDirectory サーバーを設定する

社内で複数のドメインを運用している場合、ADサーバーを複数登録できます。

接続先ADサーバー: UPDATEIT.LOCAL [接続] [切断]

[+ 新規] [編集] [削除]

ユーザーの取込 | ユーザーの属性同期 | ユーザーの削除

AD アカウント情報をもとに、crossnote ユーザーを新規登録します。
(アカウント件数が上限を超過[赤字]した場合、フィルタ条件を指定して絞り込みを行ってください。)

全選択/非選択 | フィルタ | アカウント数: 20

ID	ステータス	アカウント名	表示名
----	-------	--------	-----

ADサーバーの情報を追加する場合、「新規」ボタンを押してください。

また、内容を修正する場合は「編集」を押してください。

不要となった接続情報を削除する場合は「削除」を押してください。

ADサーバーを削除した場合、そのADサーバーと連携していたユーザーは通常のユーザーとなります。

また、「新規」「編集」「削除」はADサーバーと接続中は押下できません。「切断」後に操作してください。

以下のダイアログが表示されます。

接続先ADサーバー

ADサーバーを登録します

ドメイン名: []

ユーザー認証に使用するドメイン名: []

ADサーバーURL: ldap:// []

☐ IDとパスワードをサーバーに保存する。

ユーザーID: []

パスワード: []

Emailフィールド: []

所属フィールド: []

暗号化 ☐ MD5暗号化を行う

[OK] [キャンセル]

項目を入力し、**AD**サーバーを設定します。

ドメイン名	連携するドメインサーバーのドメイン名
ユーザー認証に使用するドメイン名	ドメイン名とユーザー認証ドメインが異なる場合に設定します。通常はドメイン名と同じ値です。
ADサーバーURL	ADサーバーを示す ldap://で始まるURL
IDとパスワードをサーバーに保存する	ユーザーID、パスワードをサーバーに保存させるかどうか。通常チェックしてください。
ユーザーID	ユーザー情報を取得するために使用するユーザーID
パスワード	ユーザー情報を取得するために使用するユーザーのパスワード
Emailフィールド	ADサーバーでメールアドレスが格納されているフィールド名。不明な場合は空白とします。
所属フィールド	ADサーバーで所属情報が格納されているフィールド名。不明な場合は空白とします。
暗号化	ADサーバーとの接続にMD5暗号化を用いるかどうか。通常チェックしてください。

※「IDとパスワードをサーバーに保存する」「ユーザーID」「パスワード」が未入力の場合、ユーザー管理画面にActive Directoryユーザーアイコン、下段のADアカウントが表示されません。

9-4 Active Directoryのユーザーをcrossnoteへ取り込む

ADサーバーと接続していない場合、まずADサーバーを選択し、ADサーバーと接続してください。

この「接続」操作はユーザー管理の為に使用するADサーバーを選択することである、ユーザーがcrossnoteを使用する上でのログインには一切影響しません。



ADのユーザーをcrossnote側に取り込むには、対象となるフォルダを選択すると取込可能なAD側ユーザーの一覧が表示されますので、取り込みたいユーザーのチェックボックスにチェックを入れ、右下の「実行」を押します。

(1) 対象フォルダを選択

AD アカウント情報をもとに、crossnote ユーザーを新
(アカウント件数が上限を超過[赤字]した場合、フィルタ条件を指定して取り込みを行います。)

全選択/非選択 フィルタ

アカウント数: 999

ID	ステータス	アカウント名	表示名	メールアドレス
☒ oobuchi17@yasunaka.c...		oobuchi17	大淵 敏郎	uoobuchi@nwvhk
☒ terauchi18@yasunaka.c...		terauchi18	寺内 昭吉	shoukichi4443@yz
☒ ohara19@yasunaka.com		ohara19	小原 敦司	atsushi026@feqbil
☐ hayakawa20@yasunaka....		hayakawa20	早川 咲奈	sana69242@xxqjif
☐ kiyono21@yasunaka.com		kiyono21	清野 光信	Mitsunobu_Kiyon
☐ tamura22@yasunaka.com		tamura22	田村 実結	Miyu_Tamura@zu
☐ shirakawa23@yasunaka....		shirakawa23	白川 郁子	ikuko_shirakawa@
☐ akiba24@yasunaka.com		akiba24	秋葉 音羽	Otoha_Akiba@yu
☐ hosoi25@yasunaka.com		hosoi25	細井 昌子	masako242@snmc
☐ nishitani26@yasunaka.c...		nishitani26	西谷 理絵	rie7833@kycfm.fbi
☐ ooniwa27@yasunaka.co...		ooniwa27	大庭 芽生	bwgryttihgatwme
☐ oomori28@yasunaka.com		oomori28	大森 花蓮	karen74114@lyvjzf
☐ oguri29@yasunaka.com		oguri29	小栗 真由	mayuoguri@mrab
☐ ariga30@yasunaka.com		ariga30	有賀 雪菜	q=xv-wchgyyukin
☐ ikegami31@yasunaka.c...		ikegami31	池上 純一	junichi138@myvho

取り込むユーザーに設定するクライアント・エディション Complete edition

更新 実行

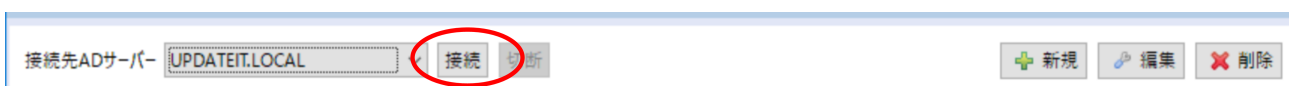
(2) チェックを入れたユーザーについて、
「ユーザーの取込」を実行する

ユーザーが多い場合は、「フィルタ」を押すとアカウント名、表示名、部・課名称で絞り込みを掛けることができます。

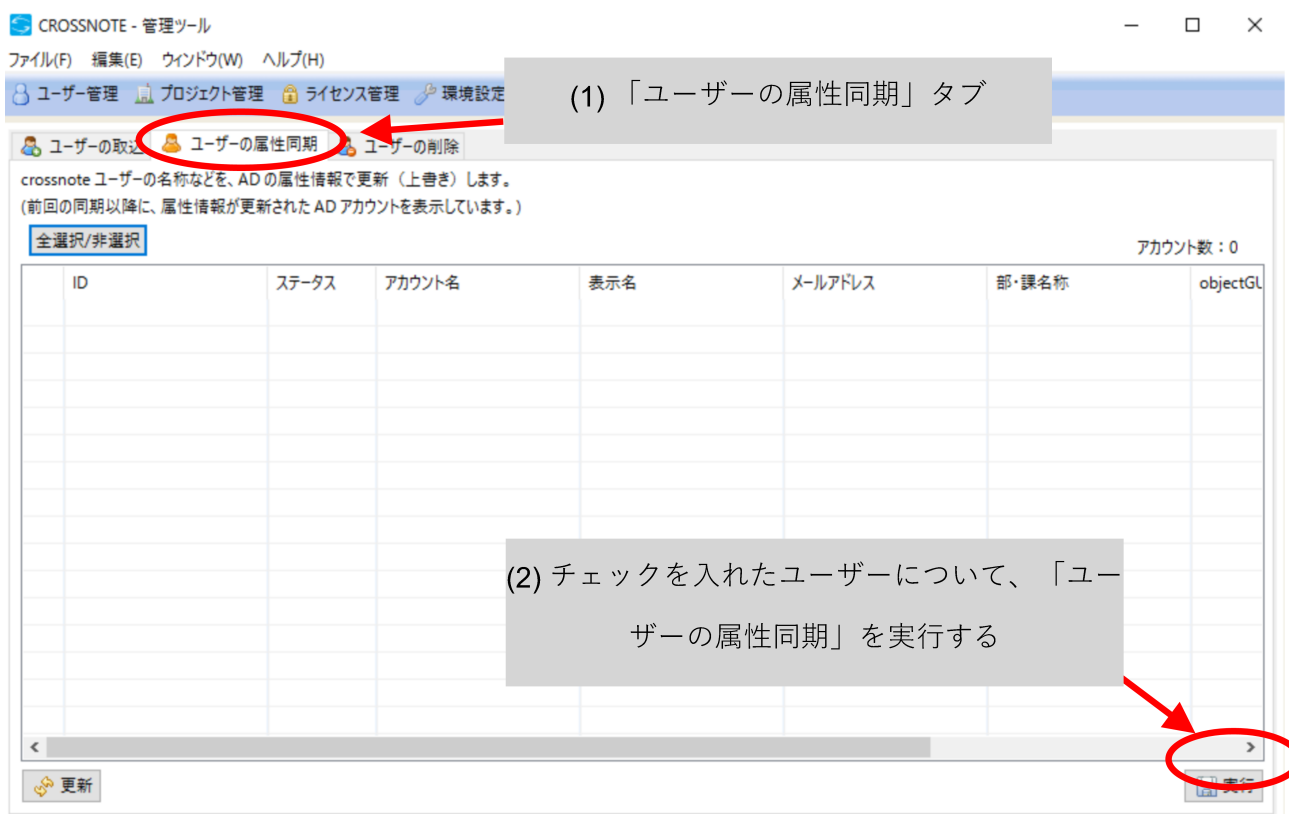
9-5 Active Directory側の変更を取り込む

ADサーバーと接続していない場合、まずADサーバーを選択し、ADサーバーと接続してください。

この「接続」操作はユーザー管理の為に使用するADサーバーを選択することである、ユーザーがcrossnoteを使用する上でのログインには一切影響しません。



ADのユーザーの属性変更をcrossnote側に取り込むには、「操作」の「ユーザーの属性同期」を実行します。

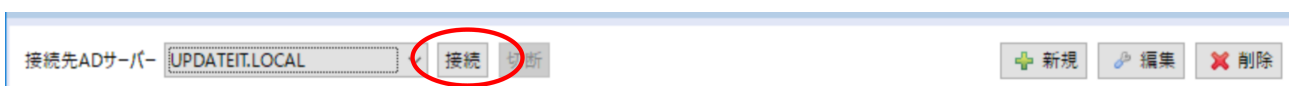


下に属性が変更されたAD側ユーザーの一覧が表示されますので、取り込みたいユーザーにチェックを入れ、下の「実行」ボタンを押すとAD側のユーザーを取り込むことができます。

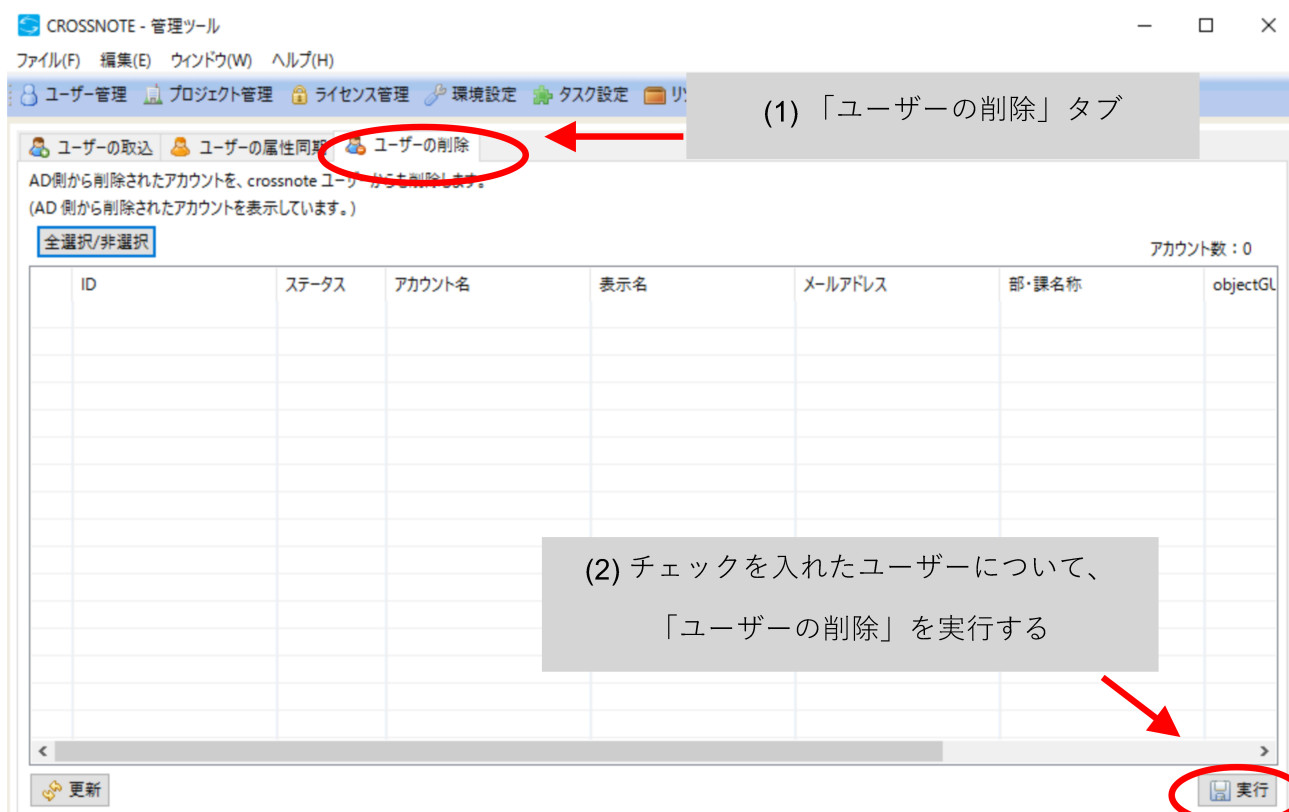
9-6 Active Directory側で削除されたユーザーを削除する

ADサーバーと接続していない場合、まずADサーバーを選択し、ADサーバーと接続してください。

この「接続」操作はユーザー管理の為に使用するADサーバーを選択することである、ユーザーがcrossnoteを使用する上でのログインには一切影響しません。



AD側のユーザー削除をcrossnote側に反映させるには、「ユーザーの削除」タブで実行します。表にはAD側から削除されたユーザーの一覧が表示されますので、対象ユーザーにチェックを入れて「実行」してください。



10 設定状況

10-1 Pluginのバージョン

各crossnoteクライアントにおいてインストールされているプラグインの状況を確認するための画面です。オプションのプラグインを導入している場合に、ユーザの導入状況を確認することができます。

ユーザID	ユーザ名	クライアントPC名	Plugin ID	バージョン	チェック日付
user7@yasunaka.com	ユーザ7	PC0007	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.6.20231130	2023-12-27 19:32:55
user7@yasunaka.com	ユーザ7	PC0010	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.7.20231231	2023-12-27 12:28:01
user7@yasunaka.com	ユーザ7	PC0011	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.6.20231130	2023-12-01 13:49:59
user7@yasunaka.com	ユーザ7	PC0015	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.7.20231231	2023-12-27 15:04:42
user7@yasunaka.com	ユーザ7	devsv06	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.7.20231231	2023-12-21 15:12:17
user7@yasunaka.com	ユーザ7	mac002.local	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.6.20231130	2023-12-27 19:25:01
user7@yasunaka.com	ユーザ7	note007	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.7.20231231	2023-12-26 22:55:02
user7@yasunaka.com	ユーザ7	note009	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.6.20230930	2023-12-07 00:03:59
user8@yasunaka.com	ユーザ8	PC0015	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.6.20230930	2023-11-14 12:18:22

なおこの機能はcrossnoteクライアント、admintool、およびcrossnoteサーバーがver 2.1.6以降の場合にご利用になれます。

◆ 絞り込み条件

対象とするプラグインを指定します。なおここに表示されるのは **jp.updateit.apis**で始まるプラグインのみとなります。

◆ 更新ボタン

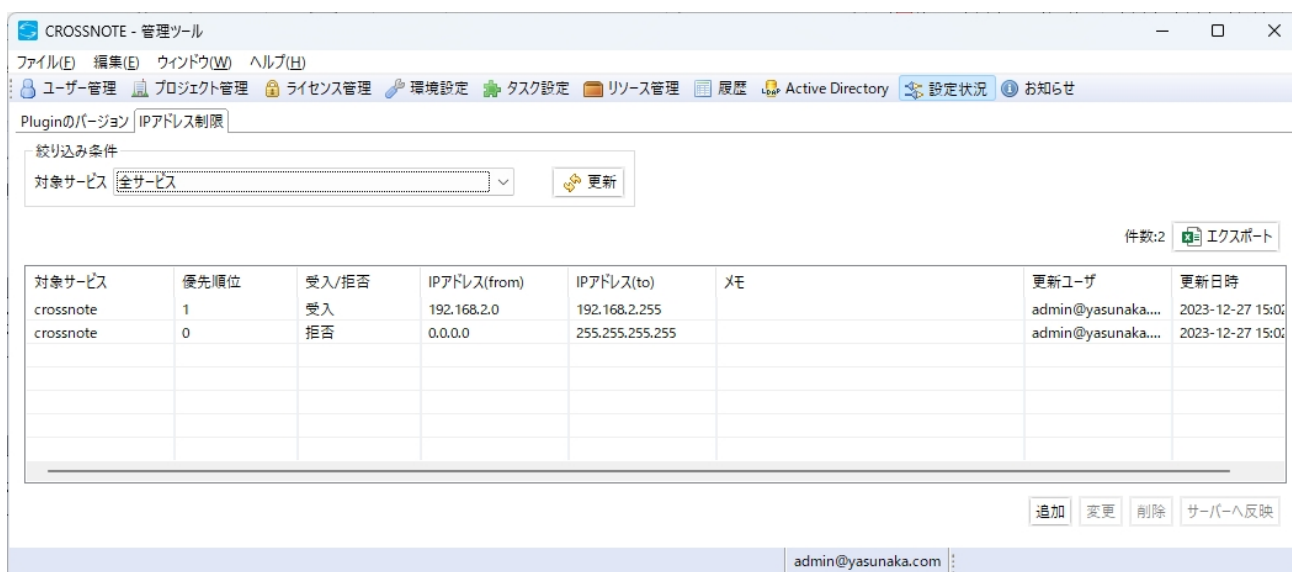
表示内容を更新します。

◆ エクスポートボタン

画面に表示されている内容をExcelファイルにエクスポートします。

10-2 IPアドレス制限

IPアドレス制限は利用するPCのIPアドレスの範囲について制限をかける機能で、サービスごと(crossnote, admintool, hive, share, または「全サービス」)に接続の可否を指定することができます。範囲の指定方法(制限のルール)としてはブラックリスト方式(特定のIPアドレスからの接続を禁止)、もしくはホワイトリスト方式(特定のIPアドレスからのみ接続できるようにする)のいずれも可能です。



複数の制限のルールが設定でき、同一サービス内で優先度の高いものから順に評価され、マッチした制限のルールが適用されます。個別のサービスごと(crossnote, admintool, hive, share)の設定の制限のルールが評価され、そこで制限のルールが指定されていない場合に全サービスでの設定が評価されます。

項目名	説明
対象サービス	crossnote, admintool, hive, share, または「全サービス」
優先順位	数字が大きいほど優先的に適用されます。
受入/拒否	指定したIPアドレスの範囲を受け入れるのか、拒否するのかの設定
IPアドレス(from)	IPアドレスの開始範囲。IPv4形式(xxx.xxx.xxx.xxx)で指定します。
IPアドレス(to)	IPアドレスの終了範囲。IPv4形式(xxx.xxx.xxx.xxx)で指定します。
メモ	

ブラックリスト形式（特定のIPアドレスからの接続を禁止）で指定する場合、拒否したいIPアドレスの範囲を指定します。

ホワイトリスト方式（特定のIPアドレスからのみ接続できるようにする）で指定する場合、優先順位を0として全IPアドレスの範囲を拒否する設定とし、それより上の優先順位でアクセスさせたいIPアドレスの範囲を受入で設定します。

追加、変更、削除などで操作を行った後、「サーバーへ変更」ボタンを押すと設定がサーバー側に反映されます。

なおadmintoolに対する設定を行う場合、このIPアドレス制限の操作を行っているPCのIPアドレスが含まれている場合にはサーバー側への反映時に失敗するようになっています。

◆ 絞り込み条件

対象とするサービスを指定します。IPアドレス制限の追加・変更・削除を行った後、サーバーへの反映を行う前にこれを切り替えると変更内容が破棄されますので、ご注意ください。

◆ 更新ボタン

表示内容を更新します。IPアドレス制限の追加・変更・削除を行った後、サーバーへの反映を行う前にこれを切り替えると変更内容が破棄されますので、ご注意ください。

◆ エクスポートボタン

画面に表示されている内容をExcelファイルにエクスポートします。

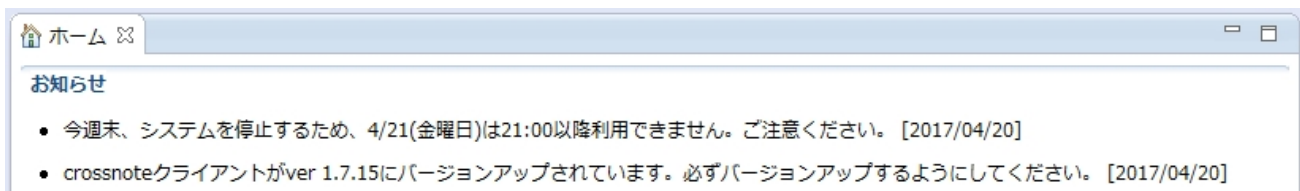
11 お知らせ

管理者からcrossnoteユーザへの告知のための機能が「お知らせ」です。

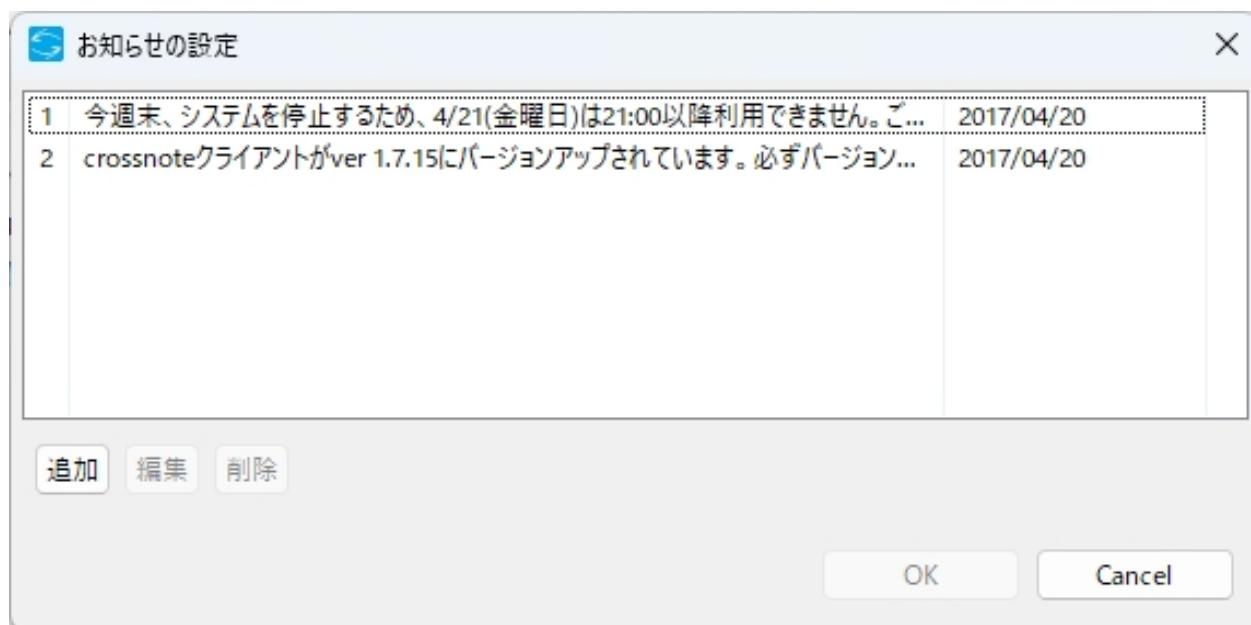


設定したお知らせはcrossnoteクライアントの場合、ホーム画面に表示されます。

ホーム画面でのお知らせの表示例



お知らせの内容を変えるには、「編集...」ボタンを押し、お知らせの設定画面で内容を編集します。



12 用語集

第1言語 / 第2言語	crossnoteでは名称などは第1言語、第2言語と2つの言語で設定できるようになっています。第1言語はローカル言語、第2言語は共通コミュニケーション用言語として使用します。日本語環境で使う場合には第1言語を日本語、第2言語を英語とすると良いでしょう。
所属会社	複数の会社間で共用する場合や、協力会社の社員に使ってもらう場合の、ユーザーの所属する会社を指します。
ポートフォリオ	プロジェクトを束ねたものをポートフォリオと呼びます。ポートフォリオは階層的に定義することができます。
プロジェクト	ドキュメントを管理する入れ物。プロジェクト毎にユーザや権限、各種設定を切り替えることができます。
ドキュメント・ステータス	「作業中」「公開」「承認済み」など、ワークフローにおけるドキュメントの状態を表します。ワークスペースビューにおいては、ドキュメントの右側に (作業中) などのように表示されます。
タグ	ドキュメントを整理する上でのキーとなる属性で、ワンタッチで対象のドキュメントを絞り込むことができます。1つのドキュメントに複数のタグを設定することが可能です。
属性キーワード	ドキュメントのプロパティで設定することができる、外部化された属性項目。crossnoteドキュメントでは文章やヘッダー、フッターなどに利用することができます。また「ドキュメント作成時に入力項目とする」設定の属性キーワードは、ファイルの作成時に入力項目となり、計画・管理画面では一覧が可能となります。
ライセンス	crossnoteを利用できるユーザーの数や、利用できる機能を管理するための情報です。

エディション

ユーザーが利用できるメニューをパッケージ化したもので、ライセンスはエディション毎に設定されます。

追加機能ライセンス

通常のcrossnoteの機能に追加することで別料金にて利用できる機能のライセンスです。ブラウザからcrossnote内のドキュメントを高速全文検索できるようになるcrossnote-hiveや、薬事業務に特化したeCTDオプションといったものがあります。

サイトライセンス

追加機能ライセンスの一種ですが、違いはサイトライセンスがユーザー数に応じた課金ではなく、会社単位での課金となる点です。